

特105

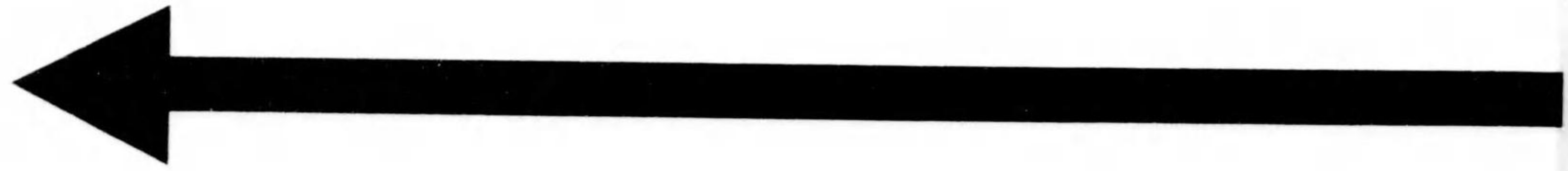
215

小商工業者ノ資金ニ就テ

名古屋經濟會



始



特105  
215

目次

緒言 . . . . . 一

一、融通機關 . . . . . 三



第一章 銀行 . . . . . 三

  第一節 普通銀行 . . . . . 五

  第二節 貯蓄銀行 . . . . . 六

  第三節 農工銀行 . . . . . 一

第二章 銀行以外ノ金融業者 . . . . . 二

  第一節 金貨業 . . . . . 二

  第一項 信用貸金業者 . . . . . 三

  第二項 擔保貸金業者 . . . . . 一六

  第二節 無盡(貯金)會社 . . . . . 三

  第三節 信託業 . . . . . 二七

  第四節 質屋 . . . . . 三

同會一寄贈本

大正  
6. 4. 17  
寄贈

二、相互的融通

第一章 無盡會社其他ノ講會

第二章 信用組合 (特ニ名古屋市ノ信用組合)

三、商品又ハ原料ノ融通

第一章 原料ノ融通

第二章 商品ノ融通

四、本家、主家

五、小商工業者ノ金繰

第一章 小商人

第一項 吳服太物商

第二項 小間物化粧品

第三項 帽子商

第四項 洋服商

第五項 糸類

第六項 砂糖 六七

第七項 魚鳥五十集 六八

第八項 藥種及賣藥業 六九

第九項 茶商 七一

第十項 荒物商 七二

第十一項 米穀商 七三

第十二項 文房具 七四

第十三項 玩具 七五

第十四項 酒商 七六

第十五項 薪炭 七八

第二章 小工業者

第一項 塗箸業 七九

第二項 玩具 八〇

第三項 一閑張 八二

第四項 莫大小 八四

第五項	燐	寸	九〇
第六項	陶磁器		九三
第七項	提灯		九五
第八項	團扇		九八
第九項	扇子		一〇一
第十項	織物		一〇一
第十一項	鼻緒		一〇四
第十二項	木綿絞		一〇八
第十三項	指物		一一一
第十四項	硝子工業		一二四
結論			一二七
其一	銀行		一二九
其二	賴母子講及無盡會社		一二二
其三	信用組合		一二五

# 小商工業者ノ資金ニ就テ

## 緒言

現下商業信用ニ對シテハ、日本銀行ヲ中心トセル普通銀行ノ一團アリ。農業信用ニ對シテハ、勸業銀行ヲ中心トセル農工銀行ノ一團アリ。更ニ工業信用ニ對スル興業銀行ノアルアリ。秩序整然トシテ形態ノ美ヲ爲スト雖、仔細ニ之ヲ觀ルニ、是等銀行ヨリ資金ノ融通ヲ受クルモノハ動産又ハ不動産ノ擔保ヲ要スルカ、縦シ信用ニ依ルモノト雖モ相當資力ヲ有スルモノニ外ナラザルヲ以テ、中産以上ハ銀行ノ利便ヲ享クルモ、小商工業者ニ至リテハ銀行ニ依リテ何等利得スル所ナク、殆ンド金融圈外ニ孤立スルノ有様ナリ。然カモ彼等ノ金繰ハ量ニ於テ多額ナラズト雖モ、切實ニシテ且ツ急ニ迫レルモノ少ナカラザルナリ。茲ニ於テ本會ハ彼等ガ如何ナル機關ニ依リテ資金融通ノ途ヲ講ジツ、アリヤ、其方法如何ヲ講究シ、併セテ之ガ改善ヲ期セントスルモノナリ。

本調査ニ入ラムトスルニ當ツテ、先ヅ小商工業者ノ標準ヲ定メザルベカラズ。小商工業者ノ範圍ニ就テハ、曩日農商務省ガ戰時狀況調査ノ爲メ各地商業會議所ニ向ツテ、小商工業者ノ狀況ヲ取調シムルニ當リ其標準ヲ定メテ商業會議所議員ノ選舉權ヲ有セザルモノトセリ。(明治三十五年農商務省令第十五號)即チ我ガ名古屋市ニ於ケル該資格者トハ營業稅納入額參拾圓以上ヲ負擔スルモノナルガ故ニ(會議所議員ノ資格ニ就テハ大正五年六月改正ノ結果、名古屋市ニ於テハ四拾圓以上ヲ納ムルモノトセシモ調査資料蒐集ノ便宜上從來ノ

參拾圓制度ニ從フ。本調査モ亦之レニ倣ヒ營業稅參拾圓以下ニシテ商法第八條ノ小商人、或ハ工場法ニ定ムル十五人以上ノ職工、或ハ徒弟ヲ有スルモノ(大正五年八月三日公布工場法施行細則)ニ標準ヲ置カントス。大正五年六月三十日現在ニ於ケル我が名古屋市ノ戶數ハ九萬二千七百七十八戶、人口三十九萬五千九百六十九人ニシテ、內營業稅負擔者八千〇四十八人、稅額五拾貳萬八千八百八拾九圓ニシテ、之レヲ前述シタル會議所法ノ定ムル資格規定ノ上ヨリ計算セバ有資格者二千六十一人、コノ稅額參拾七萬貳千貳百貳拾四圓ニシテ、差引人員ニ於テ五千七百八十七人ト稅額ニ於テ拾五萬六千六百六拾四圓トハ、當市小商工業者ノ範圍ト其負擔トヲ示スモノトス。即チ我が名古屋市ニ於ケル營業者ノ內約七割二分ハ小商工業者ノ占ムル所ニシテ之レ其研究ノ必要ナル所以ナリトス。

文運ノ進歩ハ益產業ノ發達ヲ促ガスト共ニ自由競爭ノ結果ハ各種ノ事業ニ兼併行ハレ、小資本家ハ大資本家ニ壓倒セラレ、小工業ハ大工業ニ併吞セラル、ノ趨勢ニ在リト雖モ、經濟上國力ノ基礎トナルベキモノハ少數ノ富豪ニアラズシテ、實ニ國民ノ大部分ヲ占ムル中産以下ノ階級ニ在リトス。左スレバ彼等ノ興廢ハ國家隆替ノ分カル、所ニシテ、之ヲ獎勵振起シテ產業ノ發達ヲ期シ、社會ノ幸福ヲ増進セシムルハ國家ノ基礎ヲ安全鞏固ナラシムル所以ナリ。現今我國ノ金融ニ就テハ遺憾ノ點少ナカラズ、殊ニ各種ノ金融機關ハ孰レモ自衛上對物信用ニ重キヲ置キ、中産以下ノ階級ニ在リテハ殆ンド之ガ恩澤ニ浴スルコトヲ得ズ。隨テ產業上多數階級タル小商工業者ハ日夜刻苦精勵業ニ從フト雖モ資金ノ苛責ニ苦シミ、事業ノ改良進歩ヲ計ルコトヲ得ザル狀況ニ在リ。本會ハ之ガ改善ヲ計リテ社會ノ根柢ヲ培養シ、以テ彼等ノ穩ナル發達ヲ期セントスルモノニシテ本調査ハ戰時ニ於テ我國財界發展ノ時機ニ際シ一層適切ナル必要アルヲ信ジテ疑ハザルナリ。

## 一、融通機關

### 第一章 銀行

近年名古屋市ガ人口其他經濟上ノ諸點ニ於テ、各都市ニ比シ異數ナル發達ヲ來シタルト共ニ、金融界ニ於テモ非常ナル膨脹ヲ來シ、現今名古屋金融界ノ一張一弛ハ直ニ三重、岐阜、静岡、福井等ノ近縣ニ波及スルノミナラズ、東西ノ金融市場ニ及ボス影響亦尠ナカラザルニ至レリ。即チ吾人ヲシテ統計ノ上ニ表ハレタル名古屋市金融界ノ狀況ヲ調査セシメヨ。明治三十八年末ニ於ケル銀行預金ハ僅カニ金貳千參百九拾八萬貳千六百六拾九圓ニ過ギザリシガ、大正三年末ニ於テハ一倍九分餘ノ増加ヲ來シ、金五千參拾六萬九百貳圓ヲ數ヘタルノミナラズ、貸出ニ於テモ全十年間金貳千八百貳拾五萬八百六拾六圓ヨリ金六千壹百九拾九萬四千貳百七拾六圓ニ及ビ一倍二分ノ増加ヲ見タリ。尙大正五年末ニ於ケル各種銀行預金ヲ見ルニ八千貳百拾九萬五千參百六拾四圓ニシテ、前年全期ノ五千四百九拾六萬壹千八百六拾五圓ニ比シ貳千七百貳拾參萬參千四百九拾九圓ヲ増加シ、其貸出額ニ於テハ七千九百六拾萬四千拾七圓ニシテ、之レ亦壹千壹百七拾九萬〇貳百七拾貳圓ノ増加ナリ。

以上列記スル如キ名古屋市ノ金融界ハ如何ナル機關ニヨリテ運用セラル、カヲ究メザルベカラズ。即チ名古屋市ニ於ケル銀行ノ狀勢ハ大正五年六月末ノ調査ニ據レバ普通銀行十二ヶ所(內支店銀行五ヶ所)貯蓄銀行十五ヶ所(內支店銀行五ヶ所)及農工銀行一ヶ所ニシテ、之ガ資本積立預金貸出高等ニ就テ述ブレバ左ノ如シ。

普通銀行

行名	公稱資本金	拂込資本金	積立金	預金	貸出
明治銀行	三,六〇〇,〇〇〇	二,三四〇,〇〇〇	四三五,〇〇〇	一六,五四三,二四〇	一五,五七六,五〇九
愛知銀行	二,〇〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	九八〇,〇〇〇	二二,八〇四,八二五	二二,〇六一,三四三
名古屋銀行	三,〇〇〇,〇〇〇	二,二八〇,〇〇〇	一,四五〇,〇〇〇	三三,九七三,二八三	二〇,七九四,一六六
伊藤銀行	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	六二五,五〇〇	三,〇八七,七〇九	三,〇八七,七〇九
金城銀行	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一六〇,八〇〇	二,一七四,一六五	一,九三〇,二二三
愛知農商銀行	五〇〇,〇〇〇	三三五,〇〇〇	一五三,四五四	二,二八五,三九六	二,三八九,六二〇
村瀬銀行	一,〇〇〇,〇〇〇	三三五,〇〇〇	二二八,五〇〇	三,三五二,二八五	二,三八八,二二八
尾張銀行	二〇〇,〇〇〇	一九〇,九五二	—	一三九,三五五	一九八,一九五
愛知實業銀行	—	—	—	—	—
三井銀行支店	—	—	—	三,七六八,一九七	四,八五三,九〇〇
第一銀行支店	—	—	—	三,〇一七,二三三	四,〇二二,七四七
住友銀行支店	—	—	—	九三九,八四二	二,三三二,三九七
計	—	—	—	八二,一八五,三六四	七九,六〇四,〇一七

貯蓄銀行

行名	公稱資本金	拂込資本金	積立金	預金	貸出
伊藤貯蓄銀行	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一,三三八,七九三	二〇,〇〇〇
堀川貯蓄銀行	五〇,〇〇〇	—	一七,八五〇	三三六,三八七	四七,五五〇
尾張貯蓄銀行	三〇,〇〇〇	—	—	九九,三三四	一一,六七五
名古屋貯蓄銀行	一〇〇,〇〇〇	七五,〇〇〇	六七,〇〇〇	三,〇六〇,一八八	一七五,六六〇
村瀬貯蓄銀行	五〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	一九,六八〇	四八二,二九一	一五,〇〇〇

農工銀行

行名	公稱資本金	拂込資本金	積立金	預金	貸出
農商貯蓄銀行	三〇,〇〇〇	—	—	—	—
丸八貯蓄銀行	一〇〇,〇〇〇	—	七,五〇〇	—	—
尾三貯蓄銀行	三〇,〇〇〇	—	—	—	—
金城貯蓄銀行	三五,〇〇〇	—	—	—	—
明治貯蓄銀行	三〇,〇〇〇	—	—	—	—
不動貯金銀行支店	—	—	—	—	—
報徳銀行支店	—	—	—	—	—
株式會社九十二銀行支店	—	—	—	—	—
株式會社旭興産銀行支店	—	—	—	—	—
株式會社東華銀行支店	—	—	—	—	—
計	—	—	—	一三,四二二,八三七	一,九〇四,三〇六

以上ハ我ガ名古屋銀行一般状態ニ就テ述ベタルニ過ギザルヲ以テ、吾人ハ尙進ンデ各種銀行ニ付テ取引状況等ヲ研究セントス。

第一節 普通銀行

前述シタル如ク、名古屋市ニ於ケル普通銀行數ハ十二行ニシテ其貸出高七千九百六拾萬四千〇拾七圓ナリ。

コノ多額ノ資金ハ各種農工商業者、殊ニ商業者間ニ利用セラレツ、アリト雖、名古屋銀行、明治銀行、愛知銀行、村瀬銀行、尾張銀行及住友銀行支店ノ六行ニ付テ調査シタルニ、本調査ニ屬スル小商工業者ノ資本トシテ利用セラレ居ルモノ絶無ニシテ、現今ノ小商工業ハ此種普通銀行ニ對シテハ何等ノ關係ヲ有セザルモノト云ハザルベカラズ。

## 第二節 貯蓄銀行

本市現在貯蓄銀行ハ十五ヶ所ニシテ内五ヶ所ハ支店ニ屬スルモ、支店五ヶ所中目下休業中ノ東華銀行支店アルヲ以テ實際營業中ノモノ十四ヶ所ナリ。尾張貯蓄銀行、名古屋貯蓄銀行、村瀬貯蓄銀行、農商貯蓄銀行、九八貯蓄銀行、明治貯蓄銀行、尾三貯蓄銀行、報德銀行支店、東華銀行支店、不動貯蓄銀行支店、旭興産銀行支店等ニ就テ小商工業者トノ關係程度ヲ調査シタルニ、名古屋市中中心トシタル株主ヲ有スル最モ當地ニ關係深キ貯蓄銀行ノ營業方針ハ、放資ノ方法トシテ有價證券ニ重キヲ置キ、其所有多キヲ以テ自ラ確實ナルモノト信ズルノ餘リ求メテ資金ヲ他ニ放資スルヲ喜バザル如キ傾アリ。故ニ貸出入如キハ何レモ極メテ少額ニシテ、殊ニ小商工業者ノ間ニハ絶體ニ融通行ハレザルニ似タリ。然レドモ只吾人ガ調査ノ結果例外トスベキハ東京其他ニ本店ヲ有シ、當地ニ支店、出張所ヲ有スル、貯蓄銀行或ハ貯蓄類似ノ銀行ナリ。此種銀行ニ於テハ零碎ナル貯金ヲ吸收スルヲ以テ主タル目的トスルト雖、併セテ幾分ノ貸出行ハレ、爲メニ小商工業者ノ内ニハ尠カラズ此種銀行ヲ利用スルモノアリ。而シテ之ヲ調査スルニ目下名古屋市ニ於テ報德銀行支店、東華銀行支店、不動貯蓄銀行支店、九十二銀行支店、旭興産銀行支店等アリ。其他共榮貯蓄銀行、昌榮銀行等

代理店ノ名義ニ於テスルモノアレドモ、此等ハ未ダ當地ニ於ケル代理店設置ノ日淺ク、從テ研究スルノ價値少ナキヲ以テ、先ヅ以上五行ヲ以テ主タル研究資料トナシタルニ、其方法大同小異ニシテ歸スル處一ナレバ茲ニ不動貯蓄銀行ノ貸出方法ヲ述ベントス。東京市ニ於ケル此種銀行ノ狀勢ハ一時頗ル隆盛ヲ極ムルト共ニ社會ニ害毒ヲ流布スルコト亦尠少ニアラザリシガ、日本貯蓄銀行、東海商業銀行、共同銀行、東盛銀行、橋貯蓄銀行、興國銀行、本所銀行等ノ如キ引續キ破産或ハ休業ノ止ムナキニ至リ、爲メニ細民ガ塗炭ノ苦ニ陥レルモノ多ク、一般ニ警戒ノ眼ヲ以テ之レヲ見ルニ至リタル結果、當地ニ於ケル斯種銀行モ僅カニ以上ノ少數ヲ殘シタルニ過ギズ。然レドモ現存ノ數行ハ比較的信用確實ニシテ、小商工業者ガ之レヲ利用スル方法宜シキヲ得バ或ハ大成ヲ期スルニ庶幾カラシカ。

今不動貯蓄銀行支店ノ貸出方法ヲ調査スルニ全行ハ三年貯金ヲ専門トシ、毎月集金人ヲ出シ掛金ヲ徵集シ、三年間積立テシメ、三年ノ終リニ於テ元利一定ノ額ヲ支拂フモノナリ。而シテ顧客ノ便宜上或期間貯蓄シタルモノニ對シテハ約束期間ニ到達セザル場合ト雖、通帳ヲ擔保トシテ資金ヲ融通スルノ途ヲ開ケリ。故ニ小商工業者間ニハ最初ヨリ資金ノ融通ヲ仰ガムガ爲メ積立ヲ約スルモノ少カラズ。而シテ其融通ハ積立金ノ八掛或ハ九掛ノ範圍ニ於テスルニアリ。之レヲ銀行業者ヨリ見レバ、自己ノ預金ニ對シ内拂ヲナスニ等シク、借手ヨリセバ零碎ナル資金ヲ積立テ、比較的少キ苦痛ヲ以テ一時纏マリタル資金ヲ得ラル、便宜アリ。而シテ三年据置貯金ノ利廻ニ就テ調査スルニ、多クハ四分五厘見當ヲ普通トシ、間ニハ最低三分、最高五分内外ニアリ、此種銀行ノ貸出利率ニ就テハ、日步貳錢五厘内外ヲ往來シ居ルモノ、如シ。

尙貸出ニ就テ調査スルニ、全行大正五年上半年期ニ於ケル名古屋市中ノ貸出高ハ拾九萬參千壹百六拾九圓ニシテ

之レヲ件數別トセバ、八百二十件トナリ、職業ヨリ分類ヲ試ムレバ

ノ割合トス。  
 商 五百十件  
 工 二百十件  
 雜 百件

今之ヲ貸出口ノ金額ニ就テ觀察スルニ、一口壹萬九千圓餘ノ巨額ニ上レルアリト雖、之レ全ク例外トスル處ニシテ、五拾圓ヨリ百圓程度ノ貸金多キニ見ルモ、如何ニ小商工業者ガ此種銀行ニ依頼スル處多キカヲ知ルベキナリ。報徳銀行、九十二銀行、旭興産銀行等ハ多少貸出アリト雖、何レモ斯種ノ方法ニヨリ貸出ヲナシツ、アリ。殊ニ不動銀行ノ如キハ、貸出ノ手續極メテ簡易ニシテ店頭通帳ヲ持參シ、申込ヲ爲セバ連帶保證人等ヲ立ツルノ必要モナク、一應調査ノ上貸出ヲナスノ方法ニ出ヅ。其貸出方法ニ定期貸付及名譽貸付ノ二種アリ。參考トシテ之ニ要スル書式ヲ左ニ記スベシ。

年名譽貸金借入申込書

貸付日附 大正 年 月 日		決定通知日附 大正 年 月 日	
職業及開業年月日	戸主トノ續柄	本籍	住所
出生年月	申込人氏名	申込金額 金	
年 貯 金			
通帳書又ハ通帳番號	滿期元利金額	通帳發行日	滿期仕拂日
第 第	金	大正 年 月 日	大正 年 月 日
從來ノ拂込回数並ニ經過月數	毎月預金高	集金係氏名捺印	

貸付番號No.

受付番號No.

右ハ貴行名譽貸金規定ニ依リ申込候也 大正 年 月 日 右申込人 株式會社不動貯金銀行御中	決定	決
	金額	要項
日附	金	
大正 年 月 日		
項 事 意 注		

本件取扱者  
 借主ノ代理  
 人及銀行ノ  
 代理人ノ氏  
 名其他後日  
 ノ参考トナ  
 ルベキ諸事  
 項

申込人ニ關  
 スル集金係  
 ノ意見及貯  
 金ノ掛込狀  
 態其他貸付  
 決定上必要  
 ト認ムル事  
 項



印紙	借用金證書	滿期大正 年 月 日
一金	此利息壹ヶ月金	貸付第 號
此擔保トシテ抽者 年貯金第 號預金ノ上ニ質權ヲ設定ス 右金額借用候事實正也元金ハ大正 年 月 日限辨濟可致利子ハ毎月仕拂可申候萬一元利金延滞候節ハ前掲抽 者預金ヲ以テ元利金ニ御充當相成候トモ聊異議無之候爲後日借用證書仍テ如件 大正 年 月 日 債務者		
株式 不動貯金銀行御中		

(三號書式)

印紙	借用金證書	通 證書番號第 號額面金 也
一金	此擔保品 一、定期預金證書	右金額借用致候事實正也就テハ貴行ハ前記預金ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ御承諾被下候ニ付擔保トシテ差入レ左記ノ條 項ヲ特約仕候 壹 利息ハ金百圓ニ付日歩金貳錢五厘ト相定メ候 貳 元金ハ大正 年 月 日限リ返濟可仕候 參 借主ガ期限ニ元金ヲ返濟セザルトキハ借主ニ對シ何等ノ通知催告ヲ要セズ貴行ノ御都合ニヨリ該預金ト元利金其他ノ 諸費用ト相殺計算セラルトモ何等異議申聞數候 以上ノ契約ハ借主無相違履行可仕仍テ爲後日借用金證書如件 大正 年 月 日 現住所 借主 職業 株式 不動貯金銀行御中

### 第三節 農工銀行

明治二十九年四月法律第八十三號ヲ以テ制定セラレタル農工銀行法ハ、農工業者ノ資金融通ノ便宜ヲ計ルヲ目的トシテ設立セラレタルモノニシテ、政府保護ノ下ニアリテ農工業者ニ向ケ資金ノ供給ヲナスト雖、從來ノ經驗ニヨレバ、農工銀行ハ農業者ノミノ金融機關タルノ觀アリ。即チ我が愛知縣名古屋市ニ存在スル尾三農工銀行ニ就テ取調ブルニ、市内工業者ニ於テ工場其他ヲ擔保トシテ資金ノ融通ヲ仰ギ居ルモノ二三ニシテ止マザルノ有様ニアリト雖、農工銀行法第六條及第七條ニ制定セラル、組合或ハ團體トシテ、資金ノ融通ヲ仰ギ居ルモノ絶無ナリ。從テ現今ノ農工銀行ニ就テハ、小商工業者ハ金融機關トシテ何等ノ恩惠ニ浴スルコト能ハザルガ如シ。

以上ノ如ク現今小商工業者ハ其金融機關トシテ一般銀行ヲ利用スルノ途ナク、僅カニ貯蓄銀行或ハ貯蓄類似ノ普通銀行ニ於テ高率ノ融通ヲ仰ギ其金融ニ苦シミツ、アルモノ、如シ。

## 第二章 銀行以外ノ金融業者

### 第一節 金貨業

單ニ金貸業者ト稱スルモ之ヲ廣義ニ解釋スルトキハ、質屋、無盡會社等ハ勿論、銀行及ビルブローカーノ如キニ至ル迄、其範圍ニ包含セシムルコトヲ得ベキモノナルガ、本調査ニ於テハ此等ヲ除キ、俗ニ云フ所ノ高

利貸及之ニ類似スルモノニ局限セントス。然ラバ高利貸トハ何ゾヤ、或ハ利息制限法以上ノ利子ヲ以テ金錢ヲ貸附クルモノナリト云フ説明ハ一應明瞭ナルガ如キモ、利息制限法以上ノ利子ヲ徴シテ、而モ高利貸タラザル質屋アリ。又却テ之ヨリ低利ノ貸付ヲナセル恩給年金擔保貸付業者ガ一般ニ高利貸ト呼バル、ヲ見レバ高利貸ノ意義ヲ正確ニ定義セントスルハ、頗ル困難ニシテ時ト處ニヨリ區々タルヲ免レズ。例ヘバ質屋以外ノ金貸業者ヲ全部包含スルコトアリ。信用貸金業者ノミニ限ラル、コトアリ、時トシテハ手形割引業者ノミヲ指示スルコトナキニシモアラズ。又貸金業者相互間ノ中傷的言辭トシテ使用セラル、場合モアリ。故ニ茲ニハ高利貸ナル名稱ヲ避ケ、殊ニ貸金業者ナル言辭ヲ用フルコト、シ、本調査ニ於テハ左ノ諸營業ヲ包含セシムルコト、セリ。

- (1) 信用貸金業
- (2) 恩給年金擔保貸金業
- (3) 電話擔保貸金業
- (4) 手形割引貸金業
- (5) 不動産擔保貸金業
- (6) 無盡會社類似貸金業

貸金業者ハ斯クノ如キ種類アリト雖、ソノ貸付ヲ爲スニ當リ擔保品ヲ要スルモノト否トニヨリ、之ヲ信用貸金業者ト擔保貸金業者トノ二種ニ大別スルコトヲ得。兩者ハ信用基礎ヲ異ニスルヲ以テ、其貸出條件ハ自ら差違アルヲ免レズ。今此區分ニ依リ説述セン。

### 第一項 信用貸金業者

彼等ノ周圍ニハ別ニ口入師ト稱スル周旋業者アリ。顧客ハ凡テコノ口入師ノ紹介ヲ經テ貸付ノ申込ヲナスモノトス。申込ニ接シタル貸金業者ハ、先ヅ顧客ノ住居ニ臨ンデ其家内ノ模様ヲ視察シ、家主其他出入ノ者ニ就テ其支拂ノ状態ヲ調査シタル後貸出ノ諾否ヲ決スルモノ、如ク、ソノ證書ノ形式ハ大抵公正證書ニシテ二人ノ連帶保證人ヲ要シ、内一人ハ必ズ口入師ヲ加判セシムルモノナリ。ソノ手数料ハ普通五分ニシテ内三分ヲ債權者、二分ヲ債務者ノ負擔トス。公正證書作成ノ費用亦債務者ノ負擔タリ。コノ種貸金業者ノ金利ハ從來當市ニテハ、壹圓ニ付一ヶ月參錢ヲ相場トシタレドモ、近來ニ至リテハ斯ル低利ノモノナク、最低ニテモ五錢ヲ下ラズ、普通先ヅ八錢參厘、即チ百圓ニ付三ヶ月ニ拾五圓ヲ以テ相場トナスニ似タリ。(但シ證書面ハ利息制限法ニ據ル)然レドモ期限ハ概シテ六十日乃至七十日ニシテ、之ニ對シ三ヶ月分ノ利息ヲ先取スルノ慣例ナルヲ以テ、實際ノ使用期日ヨリ打算スルトキハ、一ヶ月拾貳錢以上ノ高利ニ相當ス。サレバ月ノ半以前ニ貸付申込アルモ、彼等ハ常ニ調査ソノ他ノ口實ヲ設ケテ時日ヲ遷延シ、二十日以後ニ至リテ初メテ契約ヲ締結シ、翌々月ノ下旬ニ期日ノ到來スル如ク證書ヲ作成シ、期日ニ至リ辨濟シ得ザランカ、直ニ契約ヲ更新シテ其月分ノ利息ヲ二重取スルノ慣用手段ヲ用ユ。故ニ一ヶ年間借入ヲ繼續セシカ、債務者ハ之ニ對シテ實ニ十七ヶ月分ノ利息ヲ支拂ハザルベカラズ。不條理モ亦甚シト云フベシ。茲ニ所謂「信用貸付」ハ素ヨリ普通銀行若クハビルブローカーノ行ヲ商業手形割引等ヲ包含セズシテ、單ニ對人信用ニ基ク貸付ト稱スルコトヲ得ズ。今其ノ特色トモ見ルベキ主ナル諸點ヲ擧グレバ

- 一、貸出方法ノ異ルコト
  - 二、利子高率ナルコト
  - 三、貸付期間ノ短期ナルコト
  - 四、延期ノ場合ニ於ケル證書書替方面ノ異ナルコト
- 等ナリ。亦前述ノ外ソノ借用證書ニハ公正證書作成委任狀及印鑑證明請求書等ヲ提出セシムルヲ例トセリ。今ソノ形式一例ヲ舉グレバ左ノ如シ。

連 帶 借 用 金 之 證 (但シ一時返金ノモノ)

一金 圓 但シ利子ノ儀ハ一ヶ年ニ付日割約定ノ事

右金員正ニ連帶ヲ以テ借用候處確實也返濟ノ儀ハ大正 年 月 日限り元利皆濟可致候若連帶者ノ内旅行其他何様ノ事故出來候共殘名ノ者引受速ニ皆濟致御損毛相懸ケ申間數爲後日連帶借金ノ證依如件  
但公正證書作成ノ爲委任狀差出置候故何時ニテモ年月日ヲ記入シ代理人ヲ選定スル事ヲ委任シ直ニ強制執行相成候事異議ナク承諾候事

大正 年 月 日

原籍地 借 主 何	原籍地 借 主 何
現住地 借 主 何	現住地 借 主 何
何 某 殿	何 某 殿

以下餘白

借 用 金 之 證 (日掛返金ノモノ)

一金 圓 利息一ヶ年何割ノ約定

右者前書金額業務資本トシテ拙者共連帶借用致シ正ニ受取候事

一 借用金返濟ノ儀ハ明何日ヨリ日數何日間ニ日賦濟崩シノ約定ヲ以テ一日金何錢宛元利内へ返濟可致約定之事  
一 連帶者之内旅行其他何様ノ事故出來候共殘名者引受無異議元利皆濟可仕約定之事  
一 該金返濟方一日タリトモ相滞リ候節ハ日賦約定ヲ取消シ一時皆濟御請求相成候共異議ナク皆濟可申約定之事  
右ノ爲差入置連帶借金證書依テ如件

年 月 日

原籍地 借 主 何	原籍地 借 主 何
現住地 借 主 何	現住地 借 主 何
何 某 殿	何 某 殿

而シテ實際ノ貸付現金ハ證書面ノ貸付金額ヨリ手数料其他ノ名義ヲ以テ通常其一割乃至二割ヲ天引シタル殘金トス。但シ極メテ短期ノ貸付ナレバ、天引額之ヨリ少額ナルモノアリ。亦是等ノ貸付期間ハ稀ニハ十ヶ月等ノ比較的長期ニ亘ルモノ之レナキニ非ズト雖、通常ハ短期ニシテ三ヶ月ヲ普通トス。又日濟貸ニアリテハ其期間ヲ八十日若クハ八十五日トナスモノ最モ多ク、九十日ニ達スルモノハ極メテ稀ナリ。又ソノ辨濟方法ハ普通ノ貸金ト等シク、

一、辨濟期ニ於テ元利ヲ一時ニ返還セシムルモノ  
 二、利子ノミヲ天引トシテ元金ヲ辨濟期ニ返還セシムルモノ  
 三、月掛、半月掛、日掛等ノ方法ヲ以テ元利ヲ漸次ニ銷却セシムルモノ  
 以上三種アレドモ、前二種ノ方法ハ寧ロ昵懇者、知人其他特ニ地位アリ、若クハ信用アル等、特殊ノ者ニ對シテ行ハル、ノミナラズ、近來ハ諸種ノ事情ニ基キ手形ノ形式ニ由ルモノ多ク、手形割引以外ニハ第三種ノ方法最モ廣ク行ハル、ナリ。是レ債務者ニ對シテ最モ適當ナル方法ニシテ返金ノ望モ亦比較的確實ナレバナリ。殊ニ細民ニ對シテハ日掛ノ方法ヲ採ルヲ最モ良策トスルモノ、如ク、高利貸ノ多クハ集金人ヲ派出シテ日々零碎ノ掛金ヲ蒐集セシメツ、アリ。

### 第一一項 擔保貸金業者

該業者ハ不動産、恩給年金、電話等擔保品ノ種類ニ依リ自ラ分業ヲナセドモ、概シテ此種類ノ貸付金ハ信用貸付ノ如ク高利ナラズ、即チ土地抵當ハ壹圓ニ付一ヶ月九厘乃至壹錢貳參厘迄、電話及恩給年金證書擔保ハ壹錢參厘乃至壹錢五六厘迄、建物擔保ハ壹錢五厘乃至貳錢迄、筆筒、長持等ノ如キ動産ハ五錢見當ヲ唱フ。其期限ハ一定セズ、辨濟モ時トシテハ年賦法ニ依ルモノアリ。尙債權確保ノ手段トシテ不動産ニ對シテハ登記ヲナシ、電話ニ就テハ債務者ヨリ名義變更及架設場所變更ノ書類ヲ徵收ス。(期限短キモノハ書類ヲ徵收スルノミナレドモ期限長キモノニ就テハ實際變更ノ手續ヲナスコトアリ)又恩給年金、證書ニ對シテハ受領ニ關スル委任狀ヲ徵收スル外、債務者ヲシテ貸付金額又ハ夫以上ノ生命保險ニ加入セシメ、債權者ヲ之ガ受領

權利者トシテ指定セシムルノ手段ヲ採ルモノ多シ。

以上信用貸金業及擔保貸金業ノ二者ハ公ノ營業トシテ從事スルモノナレドモ、此外貸金業ノ看板ヲ掲ゲズ、副業若クハ内職トシテ貸金業ヲ營ムモノアリ。是等ノ多クハ約束手形ノ形式ヲ以テ信用貸付ヲ取扱フモノニシテ、金利ヲ除キ他ノ條件ハ信用貸金業者ノ取扱ニ異ル所ナク、當金利ガ普通貳錢乃至五錢迄ノ程度ニアルト、口入師ノ手数料ガ一分乃至三分ニシテ全然債務者ノ負擔タル點ニ於テ之ト異ルノミ。  
 扱貸金業者ノ現況ト小商工業者トノ關係ヲ案ズルニ、貸金業者ハ現時ノ如ク金融機關ノ整備セザリシ時代ニ於テハ、資金ノ融通上缺ク可カラザル必要ノ機關タル地位ヲ占メ、質屋ト共ニ金融界ノ一大勢力ヲナシ、營業者ノ利潤モ尠ナカラザリシガ、金融機關ノ發達ニ從テ彼等ノ活動範圍ハ著シク狹メラレ、概シテ信用薄弱ナル中産以下ノ階級ヲ得意トスルニ至リ、而カモ貸倒レノ生スルコト從前ノ比ニアラザルヲ以テ營業漸次困難ヲ加フルモ、生存競争ノ激烈ニ赴キ生活難ノ増加スルニ從テ急迫ナル資金ノ需要亦増加シツ、アレバ、彼等ノ勢力尙侮ルベカラザルモノアリ。今名古屋稅務監督局ニ於ケル管内貸金業者六十人ノ前年度ニ於ケル貸付金ハ實ニ八拾九萬八千九百參拾九圓ナリト。而シテ右ハ稅務署ガ認メテ營業稅ヲ賦課セシ者及銀行以外ノ關係ニ於ケル登記金額及人員ノ調査ニ係レドモ、此外所謂「モグリ」ノ貸金業者即チ金貸ヲ内職トシ、又ハ副業トセルモノハ當市ニ於テモ頗ル多額ニシテ、縣下ヲ通ゼバ其數幾千ナルヤヲ知ラズ。是等ノ貸出高ヲ合算スルトキハ貸金業者ノ放資ナルモノハ頗ル巨額ニ上ルベシト雖、是等ニ就テハ統計ノ據ルベキモノナク、其推算ダニスル能ハザルヲ遺憾トス。貸金業者ノ營業方法ハ前述ノ如クニシテ、其最モ金利ノ低廉ナル不動産抵當ニ在リテモ、尙年利一割二三分ヲ下ラズ、所謂高利ニアリテハ、普通六割ヨリ十四割ニ至ルヲ以テ貸金

業者殊ニ所謂高利貸ニ金融ヲ依頼スルハ尋常ノ事ニ非ズ。舊債ノ返還、事業ノ失敗又ハ不慮ノ出來事等ニヨリ一定ノ資金ヲ調達スルニアラザレバ、現狀ヲ維持スル能ハザル急迫ノ場合ニ凡テノ金融手段ヲ講ジタル上ノ最後ノ方法トシテ不得已ニ出ヅルモノ多ク、普通ノ商工資金ニ利用セラル、ガ如キハ殆ンド罕ナリ。然レドモ不動産抵當貸ハ普通銀行ノ喜バザル所ニシテ機關銀行タル農工銀行ト雖、借入手續其他ノ關係ニ就テ急迫ノ需要ヲ充ス能ハザルノ不便アリ。殊ニ貸出ノ安固ヲ期スル爲メ擔保價格ヲ低位ニ見積リ、普通時價五掛内外ノ貸出ヲナスニ過ギザルヲ以テ之レ亦資金需要者ノ満足ヲ買フ能ハズシテ、勢他ニ融通ヲ需メザルベカラズ。又假令農工銀行ノ融通ヲ受クルニモ其貸出額ハ時價ニ比シ低位ナルガ故ニ更ニ二番抵當ヲ以テ他ニ融通ヲ計ルモノ多シ。而シテ貸金業者亦農工銀行ノ二番抵當ヲ以テ却テ安全ナリト思惟シ、之ヲ歡迎スルノ風アルヲ以テ市街地ニ於ケル不動産抵當貸付業ハ頗ル隆盛ヲ極メ、商工業者ノ之ニ融通ヲ依頼スルモノ多キ模様ナルモ、是等ハ主トシテ中産以上ノ階級ナリ。而シテ中産以下ノ階級ニ至リテハ、不動産ヲ所有セザルモノ多キヲ以テ、勢ヒ信用貸金業ニ依ラザル可カラズ。然レドモ信用貸金業ハ前述ノ如ク高利ニシテ、尋常ノ資本ニ利用スル能ハザルノ不便アリ。而シテ一度之ヲ利用センカ、遂ニ再ビ立ツ能ハザルニ至ル。參考ノ爲メ當市ニ於ケル貸金業者及資金關係ヲ擧グレバ左ノ如シ。

金 錢 貸 付 業

姓 名	資 本 金	營 業 稅
日本勸業株式會社名古屋支店	一三〇、五四九	八二二・六九〇
勸業貯金株式會社	七五、九二一	五〇四・〇〇〇

甲寅信託株式會社	七一、四七三	四四一・〇三〇
名古屋信託株式會社	三二、〇六七	二二二・四三〇
愛知信託株式會社	二六、八二七	一八〇・四一〇
甲子殖産合資會社	一〇、五三〇	六八・八六〇
丸三合資會社	六、三八八	四八・七二〇
合資會社旭コークス製造所	六、二六五	四六・二九〇
安達合資會社	五、九二六	四九・九五〇
伊東合資會社	五、〇九二	三四・五一〇
鈴木合資會社	三、〇七五	二二・一三〇
三河屋合資會社	二、二六六	二二・一一〇
合資會社商勵社	一、九九四	一八・四八〇
小計	三七八、三七三	二、四八一・六一〇
遠山芳藏	五九、五〇〇	三五七・〇〇〇
佐治吉次	五五、三六三	三四二・八九〇
奥田清兵衛	五五、〇〇〇	三四〇・四〇〇
加藤茂三郎	五二、〇〇〇	三一二・〇〇〇
奥田豊	四四、〇〇〇	二四八・七二〇
船橋岩次郎	二〇、〇五〇	一二七・三四〇
伊藤邦太郎	一九、一七〇	一一五・〇二〇
須田平次郎	一九、〇〇〇	二七・〇四〇
		一九

木村新久兵衛 一八、〇〇〇  
 鷺野久助 一六、五二八  
 中野鎗太 一五、〇〇〇  
 稻波又八郎 一一、〇〇〇  
 長岡兼次郎 一〇、五〇〇  
 富田朗長 一〇、〇〇〇  
 野田利右衛門 一〇、〇〇〇  
 伊藤平兵衛 九、六〇〇  
 金井彌三郎 九、〇〇〇  
 鶴飼利助 八、四〇〇  
 酒井留次郎 八、〇〇〇  
 齋田鑄之吉 七、〇〇〇  
 粟田盛吉 六、〇五七  
 加藤東次郎 五、〇〇〇  
 平藤治彦 五、〇〇〇  
 大橋竹次郎 四、八〇〇  
 吉山銀次郎 四、〇〇〇  
 伊藤正光 三、五三五  
 林重次郎 三、五〇〇  
 中村正光 三、三五〇

二〇  
 一二〇・四三〇  
 一〇一・一六〇  
 一〇〇・〇〇〇  
 七八・一五〇  
 六七・五二〇  
 七〇・四〇〇  
 六五・三六〇  
 五・六一〇  
 六四・四〇〇  
 五〇・四〇〇  
 五〇・五〇  
 四二・〇〇〇  
 四三・八〇〇  
 三八・九三〇  
 三六・八四〇  
 三五・六三〇  
 三四・一二〇  
 四〇・〇一〇  
 二九・九三〇  
 三〇・七一〇

落合忠治 三、〇〇〇  
 小川政七 二、〇〇〇  
 木下重次郎 一、八一五  
 水谷重次郎 一、七五〇  
 林源次郎 一、五〇〇  
 廣田金之助 一、五〇〇  
 大橋徳次郎 一、四六〇  
 横井賢次郎 一、二二五  
 加藤藤次郎 一、二〇〇  
 伊藤藤次郎 一、一八〇  
 田中瀧藏 一、一〇〇  
 棚橋みお 一、〇〇〇  
 青木浅次郎 一、〇〇〇  
 野村近太郎 一、〇〇〇  
 三浦松太郎 一、〇〇〇  
 安達三太郎 一、〇〇〇  
 鈴木彦三郎 一、〇〇〇  
 酒井つね 一、〇〇〇  
 小計 五一七、〇八三  
 合計 八九八、九三九

二五・一八〇  
 三五・〇〇〇  
 一六・八八〇  
 一〇・五〇〇  
 一五・四八〇  
 一五・六九〇  
 二〇・〇七〇  
 一六・二八〇  
 一五・〇八〇  
 一一・一八〇  
 六・六〇〇  
 一三・四六〇  
 一九・二〇〇  
 一三・八八〇  
 一二・二七〇  
 一八・〇〇〇  
 一〇・五二〇  
 一一・八五〇  
 三、二一七・九八〇  
 五、七三四・六八〇

## 第二節 無盡(貯金)會社

### (イ) 貯金會社ノ性質

古キ沿革ト根柢ト有スル無盡講又ハ賴母子講ガ下層民ノ金融機關トシテ必要ナル地步ヲ占メ、生活難及營業難ノ増加ニ從ヒ近時益流行ノ兆アルニ乘ジ、會社組織ヲ以テ無盡ヲ營業トシ、中産以下ノ社會ニ於ケル金融機關ノ缺陷ヲ補ハントスルモノ、即チ所謂無盡會社ニシテ、ソノ初メテ當市ニ現ハレタルハ明治四十二年ニ設立セラレタル明治貯蓄獎勵株式會社ナリトス。爾後全一業務ノ會社頻リニ勃興シ、四十四年中ニハ其數十三四ニ達シタレドモ、弊害續出ノ結果信用地ヲ拂ヒ、現今存在スルモノハ僅カニ二會社ニ過ギズ。其營業ノ目的トシテ多クハ動産及不動産ノ賣買仲立并ニ金錢貸付業ヲ營ミ、併セテ一定ノ組織會員ヲ募集シ、各定メタル金額ノ積立ヲナサシメ、且會員ニ資金ノ融通ヲナシ、殖利蓄産ノ便ヲ圖ルコトヲ標榜スルモ、營業ノ實際ハ無盡業ヲ目的トスルモノニシテ、動産不動産ノ賣買ハ勿論會員以外ニ貸付金ヲナセルモノ殆ドコレアルヲ見ズ、ソノ營業ノ方法ハ、會員ノ種類ヲ百圓口、參百圓口、五百圓口、千圓口ノ數種ニ分チ、各種類其五十口ヲ以テ一團トナセル幾多ノ組ニ區分シ、會員ハ三十三ヶ月間五十回ニ分チ規定ノ積立ヲナシ、各組共普通二十日毎ニ會社ニ集會ヲ催シ、抽籤又ハ入札ノ方法ニヨリ貸付ヲ受クルモノヲ決定ス。會社ニヨリテ八月ニ數回ノ開會日ヲ定メ、當日ハ便宜敷金ノ抽籤又ハ入札ヲ行ヒ、餘日ハ之ガ整理ニ充ツルモノモアリ。斯クテ會社ハ適當ト認ムル保證人ヲ立タシメ、當籤者又ハ落札者ニ所定ノ資金ヲ貸付ク、之ガ返済ハ貸付ノ初回ヨリ終回ニ至ルマデ所定ノ返却積立ヲ以テ爲サシムルコト東京、大阪ニ行ハル、モノト同ジ。今當市勸

業貯金株式會社ニ於テ採用セル積立方法ヲ主トシ、當地一般ノ無盡會社ノ組織其他ノ事項ヲ記述スベシ。

### (ロ) 積立法及貸付方法

現今普通行ハル、所ノ無盡會社ノ積立方法ニハ同額積立ト遞減積立トノ二種アリ。同額積立法ハ會員數六十三名又ハ百五名等ヲ一組トシ、毎回定メラレタル同額ノ金員ヲ六十三回又ハ百五回等ニ積立テシメ、抽籤又ハ入札ニヨリ毎回一名ヲ限リ所定ノ金額ヲ貸付ケ、之ガ返金モ亦掛金ト同額ナルモノニシテ多クハ入札法ヲ混用ス。遞減積立ハ會員數五十名ヲ以テ一組トシ、同ヲ重ヌルニ從ツテ積立額ヲ遞減シ、返金積立ノミ同額ナラシムルモノナリ。而シテ當地方ニ行ハル、モノハ同額積立法ヲ採用スルモノ僅カニ一アルノミニテ、他ハ凡テ遞減積立法ナリ。然モ終回マデ積立ヲナスヲ要セズ、終回前五六回ハ積立ヲ免除シ、又ハ割戻シヲナスノ法ヲ採ル。從テ貸付ノ決定ハ主トシテ抽籤ヲ用キ、入札ヲ混用スルモノハ一、二ニ過ギズ。

然ルニ無盡會社ノ積立法ハ、其遞減積立法ニヨルモノト雖モ、初回ニ近ク當籤シタル者ト、終回ニ近ク當籤シタルモノトガ利益ヲ得、中途ニ當籤シタルモノハ頗ル高利ノ借入金ヲナシタルニ等シキ不利アリ。殊ニ定額積立法ニヨル時ハ、貸付利廻ノ不公平一層甚シク、中途當籤者ニ不平ノ聲ヲキクコト罕ナラズ、故ニ近來新ニ割戻金ノ範圍ヲ擴張シ、利廻ノ不公平ヲ輕減シ、手數ノ煩雜ヲ除去スルノ方法ヲ講ゼリ。會員七十二口ヲ以テ一組トシ、第一種ハ一口ノ金額ヲ百圓トシ、第二種ハ參百圓トス。第一種百圓口ハ第一回ヨリ第五回迄貳圓參拾錢宛、第六回ヨリ第五十一回迄壹圓八拾錢宛毎月二回積立テ(五十二回以後ハ積立ヲ要セズ)貸付ヲ受ケタル者ハ、第一回ヨリ第五回迄貳圓參拾錢宛、第六回ヨリ第七十二回(終回)マデ壹圓八拾錢宛毎月二回拂込ヲナシ、之ヲ以テ元利金ノ返済ニ充ツルモノナリ。而シテ會社ハ第十六回ヨリ第七十一回ニ至ル當籤

者ニ對シテ所定ノ金額ヲ割戻スモノニシテ、其金額及第十六回、第十七回壹圓、第十八回貳圓、第十九回參圓、第二十回、第二十一回四圓トイフ如ク、一回乃至二回毎ニ壹圓宛遞増シ、第五十一回(積立終了期)貳拾四圓ヲ最高トシテ以後一回壹圓宛ヲ遞減シ、七十一回壹圓ニ至ツテ割戻ヲ止ム。(參百圓口積立金ハ五回迄六圓九拾錢、六回以下五十一回迄五圓四拾錢ニシテ十六回ヨリ七十一回ニ至ル當籤者ニハ參圓乃至七拾貳圓ノ割増金ヲ附ス)即チコノ方法ニ係ル時ハ、五十一回迄ノ當籤者ハ一樣ニ終回マデ百參拾貳圓拾錢ノ返濟積立ヲ要シ、五十二回以後ノ當籤者ヨリ順次壹圓八拾錢ヲ減ジ、七十二回ノ終回ニ當ル者ハ五十一回迄ノ積立金九拾四圓參拾錢ヲ以テ百圓ヲ受領スルモノナリ。故ニ初回ヨリ五十一回マデハ一回毎ニ金利ノ損失ヲ増加シ五十二回ヨリハ反對ニ之ヲ輕減スル勘定ナルヲ以テ十六回頃ヨリ割戻金ヲ附シ、順次遞増シテ五十一回ヲ最高トシ、再ビ遞減シテ七十一回ニ至ツテ止メ、利廻ノ不公平ヲ輕減スルモノナリ。尙當市無盡會社ニ於テハ毎回ノ貸付決定ハ主トシテ抽籤ニ依リ入札ヲ混用スルモノ少數ナレドモ、抽籤ハ不公平ニ過ギ、如何ニ資金ノ必要急切ナルモ當籤セザレバ必要ヲ充ス能ハザルノ不便アルヲ以テ、未當籤者ニ對シテモ情況ニヨリ特ニ所定ノ貸付金ノ範圍内ニ於テ融通ヲ與フルノ規定アリ。コノ場合ニハ普通壹圓ニ付月步壹錢位ノ割合ヲ以テ利息ヲ徵收シ、後日當籤金ヲ以テ元利ヲ完濟セシム。

今之レガ例證トシテ勸業貯金株式會社ノ制定セル規定ヲ左ニ記スベシ。

勸業貯金株式會社業務規定

- 第一條 當會社ハ組合會員ヲ募集シ一定ノ金額積立ヲ爲サシメ組合會員ニ限リ資金ノ融通ヲ爲シ産業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 組合會員壹口ノ金額ヲ壹百圓ト定メ參拾六口ヲ以テ壹組トス

第參條 組合會員タラント欲スルモノハ當會社所定ノ申込書ニ壹口ニ付證據金貳圓五拾五錢相添ヘ差出サルモノトス但シ申込證據金ハ第壹回ノ積立金ニ振替充當スルモノトス

第四條 當會社ハ組合會員申込參拾六口ニ達シタルトキ開會ノ日ヲ定メ其組加入ノ會員ヘ通知スルモノトス

第五條 組合會員ハ壹口毎ニ毎月壹回會社所定ノ日時ニ金貳圓五拾五錢宛ヲ參拾六回積立ツベキモノトス

第六條 積立金ハ所定ノ日時ニ必ズ當會社又ハ會場ヘ持參セラルベシ

第七條 會社ハ毎回抽籤ヲ以テ會員ノ交附ヲ受クベキモノヲ定メ之ニ交附ス

第八條 會員ニシテ抽籤シタル場合ニ於テハ其次回ヨリ第參拾六回迄元利金並ニ會社手数料ヲ包含シテ毎回金參圓七拾五錢宛會社ニ拂込ムベキ計算ニ依ルモノトス但シ當籤者ニシ第九條ノ手續了シ規定金額ノ授受ヲ延期シタル場合ニハ更ニ規定金額ヲ授受スル迄第五條即チ毎回

第九條 當籤者ニ於テ萬一當籤當時會員ノ必要ヲ感ゼズ規定金額ノ交附ヲ望マザルトキハ本人ノ希望ニ依リ其必要時期迄双方協議ノ上規定金額(壹百圓)ノ授受ヲ延期スルコトヲ得

第十條 會員が當會社ヨリ規定金額ノ交付ヲ受クルニハ連帶保證人貳名ヲ選定セラル、カ又ハ相當擔保ヲ提供セラルベシ當會社ハ所定ノ證書(費用會員負擔)ヲ作成セシメ規定金額ヲ交附ス但シ連帶保證人中其當チ得ザルモノト認メタルトキハ再三選定セシムベシ尙保證人其當チ得ザルノミナラズ擔保ノ提供ナキ場合ニハ止テ得ズ第拾五條ヲ適用ス

第十壹條 積立金通帳及積立金ハ賣買讓渡實入書入等ヲ爲ス事ヲ禁ズ但シ當會社ノ承諾ヲ得タルトキハ之ノ限ニアラズ

第十貳條 當會社ヨリ集金人ヲ差出ス場合ニハ社印ヲ押捺シタル通知書ヲ携帶セシムルヲ以テ通帳印鑑ト照合ノ上積立金ヲ相渡サルベシ若シ之ノ通知書ヲ携帶セザルモノニ渡サル、コトアルモ當會社ハ其責ヲ負ハズ

第十參條 開會ノ日ヨリ滿參ケ年ノ當日ヲ以テ結了ノ日ト定ム

第十肆條 組合會員ニシテ中途退會シ又ハ定日積立拂込ヲ貳回以上怠ラル、トキハ退會者ト見做シ除名シ已ニ積立テラレタル金額ハ其組結了ノトキ全部返戻スルモノトス但シ此積立金ニ對シテハ利子ヲ附セズ



尙當籤者ニ於テハ左ノ借用證書ヲ要ス。

連帶借用金證書

一金 圓也

右ハ左記ノ事項承認ノ上前記金額正ニ請取借用候事確實也

第壹項 前記借用金額ニ對シ割賦辨濟トシ大正 年 月 日ヲ返濟第壹期トシ金

宛毎月 日

ヲ以テ

度費社エ持參拂込前記借用金額ノ辨濟ニ當ツル事

第貳項 割賦辨濟ナ一度ニテモ怠リタルトキ又ハ債務者保證人中壹名タリトモ第三者ヨリ假差押若クハ強制執行ヲ受ケタルトキ又ハ任意競賣ノ申立ヲ受ケタルトキ又ハ債權者ニ於テ債務者保證人中壹名タリトモ債權ヲ侵害シ或ハ侵害セントスル行爲アリト認メタルトキハ何等催告及ビ解約ノ意思表示ヲ爲スヲ要セズ割賦辨濟契約ハ當然解除シ債務者ハ債權者ニ對シ債務金額全部ヲ即時辨濟ヲ爲スベキコト

第參項 保證人ハ借主ト連帶スルハ勿論保證人相互ニ連帶シテ其責ニ任スル事

第四項 本件ニ關スル裁判管轄ヲ双方合意ノ上名古屋地方又ハ區裁判所ト定ム

右事項ヲ承認シ且ツ無相違履行可致候爲後日連帶借用金證券如件

大正 年 月 日

住 所 借 用 人 姓

住 所 連 帶 保 證 人 姓

住 所 連 帶 保 證 人 姓

勸業貯金株式會社

取締役 何

某

殿

名 姓 名 姓 名 姓

以上ハ一例ニ過ギズ。而シテ名古屋市ニ於ケル此種會社ハ本調査開始當時ニ於テ十數會社ヲ數ヘ、其貸出金ノ如キ其盛況時代ニ於テハ數百萬圓ヲ數ヘタリシモ、無盡業法發布以來ハ漸次其蹟ヲ絶エ、大正五年末ニ於テハ、名古屋無盡株式會社及勸業貯金株式會社ノ二會社アルニ過ギズシテ、殊ニ後者ノ勸業貯金株式會社ノ如キモ漸次解散ノ見込ニアルモノ、如シ。

第三節 信託業

信託業ハ歐米ニ發達シタル一種ノ金融機關ニシテ、英米ニ於テ長足ノ進歩ヲナセリ。就中米國ニ於テハ國情ノ然ラシムルト、銀行制度ノ各國ト異ナルトニヨリ最近ニ於テ信託業ノ發達極メテ顯著ナリ。而シテ我國ニ於ケル信託業ハ今尙幼稚ノ域ヲ脱セズ、世人ハ信託業ノ如何ナル業務ナルカヲ解セザルモノ多キ有様ナリ。我國ニ於テ信託業ガ法律ノ上ニ制定セラレタルハ明治三十三年三月日本興業銀行法中ニ「信託」ノ業務ナル文字ヲ見タルニ始マリ(明治三十八年三月法律第四十九號ヲ以テ改正)次テ明治三十八年三月擔保附社債信託法ノ發布アリ。初メテ信託ノ意義ヲ明ニスルニ至レリ。即チ

一、信託會社トハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ云ヒ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ズ

二、其主要ナル事業ハ一會社ガ物上擔保(動産質證書アル債權質、不動産抵當、船舶抵當、鐵道抵當、工場抵當、礦業抵當及軌道抵當ニ限ル)ヲ附スル債券ヲ發行スル場合ニ其委託ヲ受ケテ債券ノ發行元金ノ償還利子ノ支拂等ニ任ジ

三、更ニ委託シタル會社ニシテ一朝元利ノ償還支拂ヲ實行セザル曉ニハ自ラ社債權者ノ爲メニ催告ヲ爲シ且ツ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲シ得ベキモノトス  
トアリテ信託會社ノ業務ヲ制定セリ。然レドモ今日ノ信託會社ト稱スルモノ、内ニハ其營業種目千差萬別アリト雖、吾人ハ各種信託會社ノ定款、營業案内等ヲ見ルニ左ノ項目ヲ得タリ。

- 一、土地建物其他一般財産ノ管理
- 一、土地建物改良整理ノ受託
- 一、清算事務ノ受託
- 一、資金運用ノ受託
- 一、金錢貸借ノ周旋
- 一、不動産抵當貸付
- 一、信用貸金業
- 一、土地建物賣買ノ紹介周旋
- 一、土地建物其他財産權ノ賣買貸借
- 一、建物ヲ建築シ之ヲ貸貸借又ハ賣却スルコト
- 一、土地建物評價並ニ鑑定ノ引受
- 一、建築工事並ニ土木工事ノ請負設計及監督又ハ運搬業
- 一、土地建物ノ測量及製圖ノ引受

- 一、式場裝飾印刷物廣告等ノ引受
  - 一、有價證券賣買及受渡代理
  - 一、公債社債月賦販賣
  - 一、商品及手形賣買仲立
  - 一、無盡及頼母子
  - 一、商品ノ委託賣買
  - 一、金品ノ保管預リ
  - 一、取立事務(手形金、貸金、寄附金、賣掛代金、貸貸料、  
保險料、小作料、一般使用料、其他定期集金)
  - 一、民事商事ニ關スル代理事務(公正證書作成、登記申請事務代理、債  
權履行請求催告通知等權利行爲ノ代理)
  - 一、官公署ニ對スル請願及申請事務
  - 一、法律上諸般ノ質疑鑑定
  - 一、民事商事ニ關スル秘密調査
  - 一、訴訟並ニ紛議ノ和解仲裁
  - 一、財産信用並ニ身元調査
- 以上ハ營業ニ屬スル主タルモノナルモ、之レガ全般ヲ營業ノ目的トナスモノハ少數ニシテ、其一部ヲ以テ營業スルモノ多シ。即チ信託會社中信用尤モ確實トシテ模範的信託會社ト稱セラル、東京信託株式會社(資本金百五十萬圓)ノ營業種目ヲ見ルニ左ノ如シ。

- 一、資金運用ノ受託(信託金代理貸付金)
  - 二、土地建物ノ管理
  - 三、不動産抵當貸付
  - 四、土地建物賣買ノ紹介
  - 五、家屋建築貸貸並ニ月賦讓渡
- 名古屋市ニ於ケル信託會社ハ現在左ノ八會社アリ。

- 一、大正土地株式會社 東區南外堀町
- 一、通商興業株式會社 中區南久屋町
- 一、名古屋信託株式會社 東區小市場町
- 一、名古屋土地株式會社信託部 西區納屋橋
- 一、甲寅信託株式會社 西區小舟町
- 一、愛知信託株式會社 中區南大津町
- 一、名港土地株式會社 南區西築地
- 一、帝國興業株式會社名古屋支店 西區南外堀町

以上七會社ニ付テ調査ヲ行ヒタルニ、營業項目ニ就テハ大同小異ニシテ東京信託ノソレト甚シク異ナルヲ見ズ、其中業務ニ關シテハ何レモ不動産或ハ有價證券ヲ擔保トシ、資金又ハ受託金ヲ以テ貸出ヲナシ、期限六ヶ月或ハ一ケ年ニシテ、利子ノ割合ノ如キ日歩又ハ月歩ノ方法アリ。目今ノ相場トシテハ日歩貳錢參四厘ヨ

リ五厘、月歩七厘五毛ヨリ八厘ノ間ニアリ。擔保物件ニ對シテハ不動産六半、有價證券八半ノ間ノ貸出シヲナスヲ普通トセリ。又鑑定料或ハ成立手数料トシテ借手ヨリ金員ヲ徴スルモノアレドモ其割合一定セズ、實費トシテ一日ノ社員日當ヲ徴スルモノト、出張費トシテ壹圓程度ニ於テ借手ノ負擔タルモノトアルガ如キモ其割合、東京方面ノ其等ニ比シテ少額ノ負擔タリ。而シテ現今ニ於ケル取引狀況ヲ見ルニ以上述べタル如ク、取引何レモ不動産或ハ有價證券ノ擔保ニ限リタルヲ以テ小商工業者間ニハ金融機關トシテ餘リニ利用サレザルガ如シ。尙參考トシテ以上八會社ノ資本及貸出ヲ記セバ左ノ如シ。

會社名	公稱資本金	拂込資本金	貸付金
大正土地株式會社	一、〇〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	六〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	未詳
通商興業株式會社	一五、〇〇〇	三、七五〇	未詳
名古屋土地株式會社信託部	二、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	未詳
名古屋信託株式會社	一〇〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	四〇、三八七・四六〇
甲寅信託株式會社	一〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	一一二、七四四・一四〇
愛知信託株式會社	一〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	三〇、三七二・〇〇〇
名港土地株式會社	一、二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	未詳
帝國興業株式會社名古屋支店	未詳	未詳	未詳

(備考 名港土地ハ大正六年三月名古屋興業株式會社ト合併セルモ暫ク右ニ從フ)

#### 第四節 質屋

質屋ハ動産擔保ノ融通機關トシテ、多クハ下層社會ノ利用スル所ニシテ古來重要ナル地位ヲ占ムレドモ、其

融通ハ専ラ生計ノ維持、遊蕩、賭博等ニ消費セラル、モノ多ク、商工業者ノ營業資金トシテ利用セラル、場合ハ甚ダ少キガ如ク、現ニ質屋ノ店舗ガ遊廓地又ハ取引所附近ニ比較的多ク集合セルヲ見テモ其一斑ヲ推知スベシ。斯ク質屋ノ貸付金ガ商工業資金ニ利用セラレザル所以ハ、其貸付金ノ利率高歩ニシテ採算ノ智識ニ富メル商工業者トシテハ、到底營業資金ニ利用スルニ堪ヘザルト、質屋ガ流行ノ變遷ヲ虞レテ商品ノ入質ヲ歡迎セザルトニ依ルモノニシテ、行商又ハ夜店商人等ガ往々營業資金ヲ質屋ニ仰グ場合ナシトセザレドモ、普通商工業者ニシテ質屋ヲ利用スル者アリトセバ、ソハ營業ノ爲ニアラズシテ寧ロ生計ノ爲ナリト見ルヲ至當トスベシ。然レドモ食物ガ勞働ノ支持ニ必要ナル資本タル如ク、商工業者生計費ノ維持ハ其營業ヲ持續スルノ要件ナリ。即チコノ意味ニ於テ質屋ハ間接ニ産業上重大ナル關係ヲ有シ、必要ナル金融機關ノ一部ヲナスモノト云ハザルベカラズ。唯現今ノ質屋金利ハ甚シク高キニ失シ、其利息計算法頗ル不條理ニシテ、濫リニ營業者ヲシテ人生ノ弱點ニ乘ゼシムルノ感ナキ能ハズ。宜シク取縮法ヲ改訂シ、少クトモ普通金利ニ遠ザカラザル程度迄質屋金利ヲ低下セシメンコトヲ希望セザルヲ得ズ。利率ニシテ低下セムカ、質屋貸出金モ現今ノ如ク單ニ消費方面ノミニ利用セラル、コトナク、商工業資金トシテ直接生産界ニ貢献スルニ至ルヤ明カナリ。金融機關ノ一トシテ質屋業ニ於ケル機能ノ特色ハ其資金ノ融通ガ絕對ニ對物信用ニ限ラル、ト、此對物信用ヲ基礎トスル結果何人ニテモ相當ノ質物ヲ提供スルトキハ、假令些少ノ金額タリト雖モ極メテ輕便ニ融通ヲ受ケ得ルトニ在リ。而シテ此特色ハ銀行其他ノ金融機關ニ於ケル機能ノ到底企及スル能ハザル處ニシテ、質屋ガ下級金融機關トシテ尙重キヲ爲ス所以ナリトス。

質物ノ種類ハ素ヨリ千差萬別ニシテ、衣類、金屬、寶石類其他ノ身邊裝飾品、書畫骨董、書籍其他家財、家

具、器具等殆ド枚擧ニ遑アラザルモ、最モ普通ナルハ衣類ニシテ、身邊裝飾品、書畫、骨董類之ニ亞ギ、家具類ハ最モ少キモノ、如シ。質物ノ種類ハ質置主並ニ質屋ノ兩方面ニ於ケル便否ノ如何ニヨリ決定セラル、モノニシテ、質置主ノ方面ヨリ見レバ、不用品ハ必需品ニ先チ、携帶ニ便ナルモノハ然ラザルモノニ先チ、容積品ニシテ價格ノ高キ物品ハ然ラザルモノニ先ツ。而シテコノ後ノ二者ハ質屋ニ取リテモ亦便宜ナリト曰ハザルベカラズ。サレドモ質屋ニハ以上ノ外更ニ幾多ノ重要ナル條件ノ存スルアリ。即チ價格ノ鑑定容易ナルヲ要シ、處分ノ容易ニシテ流行ノ變遷激甚ナラザルヲ要シ、保管上物品ノ變質少ナキヲ要シ、亦容積大ナルハ拒マル。是レ衣類ハ質物トシテ、自ラ最適ノ物品タル所以ナリ。骨董品ハ容積小ナル點ニ於テハ適當ナルモ、價格ノ鑑定困難ナル點ニ於テ質物タルニ最適ナラズ。質屋ノ營業上最モ困難ニシテ、且ツ特殊ノ技能ヲ有スルモノハ、素ヨリ質物ノ評價鑑定トシテ如何ナル物品ニ對シテモ常ニヨクソノ鑑定ヲ誤ラザルハ人力ノ及ブ所ニアラザレバナリ。

故ニコノ點ヨリ質屋ニハ或ル程度マデ、自ラ専門ヲ生ズルノ傾向ヲ存ス。例ヘバ質屋ニヨリテハ書畫、骨董ノ類ハ全然之ヲ取ラザルモノアリ。又夜具、蒲團等ノ他ノ家具、嵩張物等ハ質屋ノ一般ニ嫌フ處ニシテ、質屋ハコノ種ノ物品ノ質入ヲ全然拒絶スルカ、若クハ貸金ノ利率ヲ高メ、流期ヲ短縮スルヲ通常トス。質營業主ニハ古着商若クハ古道具商ヨリ轉ジタルモノアリ。後者ノ質屋ハ書畫、骨董、金銀細工物ノ類ヲ喜ンデ受クトイフ。細民ハ日常生計ノ必需品以外ニ必需品ヲ所持スルモノ少シ。故ニ彼等ハ夜具、蒲團ソノ他家具等比較的容積ノ膨大ナル物ヲ質入レスルコト多ク、從テ常ニ高利ヲ徴セラル、ノ傾向アルナリ。市内最下級ノ貧民ニシテ最モ甚シキニ至リテハ、飯櫃、鍋釜、履物、褌等ニ至ルマデ之ヲ質入レスルモノアリトイフ。

而シテソノ借入金ハ僅カニ五錢、拾錢ノ少額ニ過ギザルモノアリ。有價證券ハ之ヲ取ラザル質屋多キモ、中ニハ之ニ對シ貸付ヲナスモノナキニアラズ。有價證券ハ之ヲ以テ銀行ヨリ融通ヲ受ケ得ルモノト雖、亦質屋ニ就クテ却テ便利トスル者ナキニアラザルコト勿論ナリ。無盡會社ノ通帳モ亦質入ノ目的物トナスモノニシテ、實際之ニ對シ貸出ヲナス質屋ノ存スルコトハ事實ナリ。

質屋ハ動産擔保ノ融通機關トシテ往古ヨリ存在シ、且ツ質屋取締法ノ拘束ヲ受クルヲ以テ、其營業方法ハ各地大同小異ニシテ略一定スレドモ、流質期限、利息歩合、其他微細ノ事項ニ至リテハ、地方特殊ノ習慣ナキニアラズ。今當地ニ於ケル質屋一般ノ慣習ヲ見ルニ、取引開始ニ際シ贖品又ハ遺失品ノ入質ニヨル損害ヲ避クルノ自衛ヨリ、未知ノ質入申込者ニ對シテハ容易ニ貸出ヲ肯ゼズ、普通見知人又ハ在來ノ取引者ノ紹介ヲ要求スル東西質屋ノ慣習ニ異ラザレドモ、斯クテハ紹介ノ便宜ヲ有セザルモノハ質屋ノ融通ヲ得ルコト容易ナラザルノミナラズ、質入ノ事實ヲ他人ニ知ラル、ノ苦痛ナキニアラズシテ、質置人ニ取り不便少ナカラザルヲ以テ當市、場末ノ質屋附近ニハ、未知ノ質置人ノ爲ニ其名義ヲ貸シ、自ラ質取引ノ當事者トナリテ手数料ヲ利得スルモノアリ。手数料ハ普通壹圓ニ付參四錢ニシテ之レヲ内職トスルモノアリ。俗ニ之ヲ「質置婆」ト稱ス。然レドモ此種ノ取扱ニ係ルモノハ概シテ少額ノモノニ限ラレ、一口拾圓ヲ越ユルモノハ稀ナリ。質屋ノ貸出金額ハ質物ノ種類品質等ニヨリ必ズシモ同一ナラズ、概シテ質物處分價格ノ七掛見當ヲ標準トスルガ如シ。去レド近時同業者ノ競争激烈ニシテ、貸出額少ナラムカ、忽チ顧客ヲ他ニ奪ハル、ノ憂アルノミナラズ、顧客モ掛引巧妙トナリ、數軒ノ質屋ヲ訪問シテ、ソノ最モ融通額ノ多キ所ニ入質スルノ風アル爲メ自然貸出額ヲ寛ナラシメ、極度マデノ融通ヲナスモノ少ナカラズ。斯クテ質屋ノ經營モ漸次困難ヲ加ヘ、往

時ノ如ク流質處分ニヨリテ暴利ヲ貪ル能ハザルニ至レリ。而シテ入質額ノ現況ハ一口壹貳圓乃至拾圓以下ノモノ最モ多ク、時トシハ數百圓ニ上ルモノナキニアラザルモ、斯クノ如キハ極メテ稀ナリ。又最低貸出高ハ時トシテ五錢、拾錢ノ少額ニ過グルコトナキニアラズ。斯クテコノ一口貸出高ノ多寡ハ一地方ニ於ケル社會狀態、殊ニ質置主ノ貧困ノ程度ヲ知ルニ便ナルモノナリ。質屋利率ハ、拾圓以下ノ貸出金ニ就テハ質屋取締法ノ制限(利率一ヶ月ニ付貳拾五錢以下壹錢、壹圓以下四錢、五圓以下拾五錢、拾圓以下貳拾五錢)ヲ超過スル能ハザルヲ以テ、實際ニ於テモコノ制限迄ノ利息ヲ徵收シ居レドモ、拾圓以上ノ貸出ニ就テハ、利息制限法ノ拘束ヲ受クル外別段ノ定メナキ爲メ、店ニヨリ多少區々タルヲ免レザレドモ、大體ニ於テ取締法ノ制限ヲ準用シ、壹圓ニ付一ヶ月貳錢五厘即チ年利三割ノ高率ヲ課スルヲ常トシ、利息制限法ノ如キハ質屋營業ノ實際ニ於テ、左程ノ拘束力ヲ有セザルモノ、如シ。只金額ノ大ナルモノニ就テハ、顧客ノ側ヨリ利息ノ輕減ヲ要求シ、貸出額五六拾圓ノモノニ對シテハ、月利率壹錢九厘乃至貳錢壹厘ノモノモナキニアラズト雖、質物ノ種類品質等ニヨリ、利息ニ高低ヲ設クルノ慣習アルヲキカズ。而シテ之ガ利息ノ計算法ハ、一般ノ慣習ト同ジク三十日ニ充タザルモ、一ヶ月ヲ以テスル月割計算ニシテ、契約満期日(月末)ノ翌日迄ニ質物ノ引取ヲ爲サル時ハ翌月一ヶ月分ノ利息ヲ徵收スルノ定メアリ。即チ満期後ノ猶豫期限ハ一日ニシテ、東京地方ノ三日ナルニ比シ更ニ嚴酷ノ度大ナリ。

質屋營業ハ元來貸金ニ對スル利子ヲ得ルヲ以テ主眼トスルモノニシテ、流質ハ本來ノ目的ニアラズ。質置主モ亦一時ノ融通ノ爲メ、止ムヲ得ズ其所有ノ物品ヲ質入レスルモノニシテ、何レモ受戻シヲナスヲ本來ノ性質トス。故ニ流質ハ質契約當事者双方ノ當初ノ希望ニ副ヒタルモノニアラザルコトハ勿論ニシテ、流質ハ質

置主ニ取リテ不幸タルノミナラズ、質屋營業本來ノ目的ニモ亦違反スルモノナリ。素ヨリ質屋ハ流質ノ處分ニヨリテ、豫期セザル利益ヲ享受スルコト尠キニアラザルモ、着實ナル質屋ハ、流質ニヨル利益ヲ目的トスルコトナク、專ラ貸金ノ利息ニ重キヲ置ク。故ニ一定ノ地域並ニ一定ノ期間ニ於ケル流質ノ多寡ニ關スル統計ハ、一面ソノ場所並ニ其時期ニ於ケル中産者以下ノ階級ノ生活状態ヲ物語ルモノニシテ、他面ニ於テモ亦質屋營業ガ能ク質屋本來ノ機能ヲ發揮シツ、アリヤ否ヤヲ判定スルノ一標準トナリ得ベキモノナリ。而シテソノ流質期限ハ從來區々ニ分レ、大商店ニアリテハ一ケ年ノ長キニ亘ルモノアリシモ、現今ハ一般ニ五ケ月ヲ以テ期限トス。期限ニ至リ債務ヲ辨濟シ能ハザル質置主モ、利息ノ支拂ヲ怠ラザルニ於テハ其儘繼續ヲ許シ、二回乃至三回目ニ至リテ初メテ質入證書ノ書換ヲ要求スルガ如シ。最近ノ調査ニヨレバ、全市ヲ通ジ營業戶數百九十七戶ヲ算シ、概シテ米穀取引所ノ所在地タル西區米屋町及遊廓處在地附近ニ集合セルヲ見ル。然レドモソノ多クハ、少額ノ資本ヲ以テ經營スル小質屋ニシテ、資本金壹萬圓以上ノモノハ全市ヲ通ジ約數戶ヲ超エザルモノ、如ク、其最モ大ナルモノモ資本金參萬圓ヲ超エザルベシトハ營業者ノ觀測スル處ナリ。斯ノ如ク當市ニ小營業者多ク發生シタルハ猶近年ノ事ニシテ、勢競爭激甚ノ結果一般ニ經營難ヲ増加セリ。今稅務署及縣廳ニ於テ調査セル統計ニヨレバ、大正五年度中月末平均質屋ノ貸出額ヲ舉ゲレバ左ノ如シ。

市	郡	別	戶	數	貸付金額	一月平均貸付額
名	古	屋	市	一八六	一、二六五、八六五	六、二六〇餘
縣	下	未	詳	未	詳	未
合	計	未	詳	未	詳	未

質屋營業戶數百九十七戶、ソノ純資本金四拾六萬六千參百四拾六圓ニ上リ、其貸出金ハ果シテ幾千ノ額ニ達

スベキモノナリヤハ俄カニ判明セザルモ、該質金ノ運轉ハ一ケ年平均二倍年ナリトイフヲ以テ總資本金額ニ對シ積算スレバ百拾六萬五千八百六拾五圓ノ巨額ニ達スル割合ナリ。然ラバコノ資金ハ如何ナル方面ニ向ツテ融通セラル、カ、ソノ用途目的ニ至リテハ素ヨリ千差萬別ナリト雖、概シテ商工資金トシテ融通ヲ受クルモノハ、ソノ一割ニ過ギザルノミナラズ、ソノ貸出高ノ一口壹圓以上拾圓以下ノ小口ノ多キヲ占ムルヲ見レバ、最下層ノ商工業者ニ多クシテ、小商工業ニ對スル實際融通金額ハ極メテ尠ナルベシ。

## 二、相互的融通機關

### 第一章 無盡會社其他ノ講會

茲ニ相互的融通機關ト謂フハ、質屋、金錢貸付業者、賴母子講類似金融會社等ガ營利的融通機關タルニ對シ營利ヲ目的トセズ、眞ニ相互ノ融通ヲ主トシ、或ハ救濟ノ目的ヲ以テ設立セラレタル賴母子講又ハ產業組合殊ニ信用組合等ヲ指示スルモノナリ。

賴母子講又ハ無盡講ノ講會モ更ニ之ヲ分類スレバ、講員相互ノ融通ヲ目的トスルモノト、單ニ貯蓄ヲ目的トスルモノトアリ、又取得セル講金ノ利用ニ就テモ、生産ヲ目的トスルモノアリ、消費ヲ目的トスルモノアリ其用途ニ至ツテハ千差萬別ニシテ歸一スル所ナキモ、要スルニ細民金融ノ機關トシテ研究ノ價値アルハコノ種相互ノ利益ヲ目的トスル講會ナリトス。

講會ノ設立方法ハ各講ヲ通ジ略同一ニシテ、講ヲ設立セントスルモノ自ラ發起人トナリ、親戚、知己又ハ同

業者、同所村内ヲ勸誘シテ講株ヲ募集シ豫定ノ口數ニ達シタル時ハ、茲ニ講則ヲ作成シテ組合ヲ成立ス。講則ハ或ハ之ヲ規約、約定又ハ定メ等ト稱シ、講名ヲ初メ掛金ノ徵收及取得、講會世話役費用其他必要ト認ムル一切ノ事項ヲ規定ス。發起人ハ之ヲ講元又ハ講親ト稱シ自己責任ノ擔保トシテ、親戚、知人中ヨリ一二名ノ保證人ヲ立ツルヲ常トス。世話役ハ普通發起人ニ於テ之ニ當レドモ、時ニ講員ノ輪番トスルコトアリ。又世話役ハ無報酬ナルヲ常トスレドモ、規模大ナル講會ニアリテハ一人乃至數人ノ世話役ヲ置キ、特ニ少額ノ報酬ヲ支給スルコト無キニアラザルナリ。講員數及一回ノ掛金額ハ、講會規模ノ大小ニヨリテ差異アリ。員數ハ十人ヨリ百人位ニ至リ、一回ノ集金額ハ拾圓ヨリ約千圓ニ至ルモノアリト雖モ、普通ハ講員二三十人、一回ノ集金額五六拾圓乃至百圓ニ至ルモノヲ最モ多シトス。講株ハ之ヲ口ト稱シ、之ガ引受講員各自ノ任意ニシテ一人ニシテ數口ヲ所持スルモノアリ、マタ一口ヲ數人ニテ分擔スル事アリ。斯クシテ會員ハ毎月、隔月又ハ一年數回規定ノ日時ニ規定ノ場所ニ集合シ、各自持參スル所ノ掛金ヲ提供シ、抽籤又ハ入札ノ方法ニヨリテ順次講金ヲ收得シ、會員ノ全部ガ講金ヲ受領スルニ至ツテ講會ハ茲ニ終了ス。普通存續期間ハ二年乃至三年ニシテ、間々數年ニ亘ルモノアルモ、生存競争激烈トナリ、隨テ會員住所ノ變更多ク、存續期間ノ長年月ニ亘ルモノハ、自然ソノ間ニ弊害ヲ生ジ講ノ成立ヲ害スル嫌ヒアリ。

講會ノ組織ハ凡ソ各講ヲ通ジ殆ド大差ナシト雖モ、講金取得ノ方法ニ至ツテハ、講ノ目的如何ニヨツテ其間多少ノ差異ナキ能ハズ。彼ノ參拜觀光ヲ目的トスルモノニアリテハ、ソノ終局ノ目的ハ單純ナル消費ニ在ルヲ以テ一人一口ヲ負擔シ規定ノ積立額ニ達スルニ及ンデ、其目的ニ之ヲ消費スルニ過ギザルモ、所謂經濟的目的ヲ有スル賴母子講ニアリテハ、講員ノ資金ニ對スル必要程度ニ差等アルヲ以テ爾ク簡單ナルヲ得ズ、或

ハ抽籤ノ方法ニヨルモノアリ、或ハ入札ノ方法ニ據ルモノアリ、又時トシテコノ二者ヲ併用スルモノアリ、又講員ノ取得スル物件ハ、多クノ場合金錢ナリト雖モ、時計講、吳服講ノ如ク物品ナルモノアリ、故ニ賴母子講ハ、講金取得ノ方法ニヨリテ之ヲ抽籤講ト入札講トニ大別シ得ベク、又取得物件ノ如何ニヨリテ金錢講ト物品講トニ區別スルヲ得ベキナリ。

抽籤講ハ俗ニ鬮取講ト稱シ、開會ノ都度抽籤ヲ以テ集金額ヲ順次講員ニ取得セシムルモノニシテ、已ニ講金ヲ受領セルモノハ、再ビ抽籤權ヲ有セザルト共ニ、次回ヨリ終回ニ至ルマデ掛戻金及利息ヲ支拂フノ義務アルモノトス。コノ利息ハ普通一ヶ月一圓ニ付五厘乃至壹錢ナリ。

入札講ハ講員中ノ資金ノ必要最モ急迫ナル者ニ先ヅ取得セシムルモノニシテ、コノ方法ニハ左ノ三種アレドモ、畢竟取得金額ノ最小ナル入札者ヲ落札者トナスニ外ナラズ。

一、講員ノ取得スベキ金額ニ付入札セシメ入札金額ノ最低者ヲ以テ落札者トナス

二、集金額ト落札者ノ取得金額トノ差額ニ付入札ヲ行ヒ最高入札者ヲ以テ落札者トナス

三、割戻金又ハ利子ニ付入札ヲ行ヒ多額ノ割戻金又ハ高歩ノ利子ヲ出金スルモノヲ落札者トナス

入札講ニアリテハ、取得金額ト集金額トノ差額(即チ通稱鬮金ト稱スルモノ)即チ利息ナルヲ以テ別ニ領收金ニ對スル利息ヲ要セザレドモ、再ビ入札ニ與ルノ權ナク、又割戻金ヲ受クルノ利益ヲモ失フ。入札講ニ在リテモ、講員ノ資金ノ必要急切ナラズシテ入札スルモノナキ時ハ、抽籤ヲ以テ取得者ヲ決定スルモノトス。尙右抽籤入札ノ各場合ニ於テ俗ニ花鬮ト稱シ、抽籤講ニアリテハ當籤鬮ノ前後ノ番號ノ鬮ヲ引キタルモノ、又入札講ニアリテハ、入札額ノ第二位ニアルモノニ對シ慰藉又ハ餘興ノ意味ヲ以テ若干ノ金額ヲ贈與スルコト

アリ。

滿會ニ於ケル講金ノ領收者ヲ除キ抽籤又ハ入札ニヨリテ講金ヲ取得セルモノハ、次回ヨリ返濟ノ意味ニ於テ毎回掛戻シヲナスノ義務アルコト前述ノ如シ。然ルニ講員中往々掛戻シノ義務ヲ履行セザル不徳漢ナキニアラザルヲ以テ、講金ノ領收ニ對シテハ講員トシテ一定ノ擔保ヲ提供セシムルヲ常トス。然レドモ講會ハ主トシテ下層民ノ間ニ行ハレ、講員ノ多數ハ擔保ニ供スベキ有價證券又ハ不動產類ヲ所有セザレバ、物件擔保ヲ提供スルノ例ハ甚ダ多カラズ。普通ハ證書ノ差入ヲ以テ擔保トス。コノ證書ハ多ク單純ナル借用證書ナレドモ、時トシテハ預リ證ナルコトアリ。多クハ親戚、知己又ハ隣人等ヲ以テ保證人トシ、更ニ其効力ヲ確實ナラシムルモノナリ。

右ノ外講金ノ代リニ特定物品ヲ取得スルヲ目的トスル物品講ハ、講ト稱スルモ其實質ハ物品ノ月賦購買ニ外ナラズ、之ガ發起者ハ普通特定商品ノ販賣業者ニシテ、自家商品ノ賣上増加ヲ希望シ、又ハ店賣以外ニ一定ノ販賣額ヲ得ン爲メ汎ク會員ヲ募集シ、會員ハ之ヲ五十口、二百口等ノ如キ口數ヲ以テ一組トシ、各組共毎月規定ノ日時及場所ニ開會シテ規定ノ掛金ヲナサシメ、同時ニ抽籤ヲ以テ當籤者ニ現品又ハ景品ヲ提供スルノ方法ナリ。然レドモ普通購買ノ目的タル物品ハ高價ノモノニアラザルト共ニ、會員多數ナルヲ以テ毎回ノ當籤者ヲ一人ニ限ル時ハ、滿會迄ニ會員ノ全部ガ物品ヲ取得スルコト能ハザルヲ以テ毎回ノ當籤者ヲ數人ト定メ、若クハ毎回一人宛當籤セシメ、終會ニ至リテ當籤洩レ全部ニ現品ヲ交付シ、別ニ掛込金ノ利子ト稱シ入會獎勵ノ爲メ抽籤ヲ以テ景品ヲ提供スルモノ多シ。

コノ種ノ講會ハ販賣者側ニ於テハ、商品ノ賣上高ヲ増加シ、且ツ毎月一定ノ掛金ヲ收受シテ營業資金ニ連轉

スルノ利益アリ。購買者側ニ於テモ少額ノ月賦拂ニヨリテ目的物ヲ取得シ得ルノ利便アルヲ以テ近時益流行ノ兆アリ。當市ヲ始メトシ、縣下ソノ講數頗ル多數ニ上レルガ、其重ナルモノハ蒲團、時計、眼鏡、蚊帳、自轉車、洋服、蓄音機、銅器、敷物、段通、袴、農具等ノ購買講ニシテ、時計講ノ如キハ常ニ五六百人以上ノ講員ヲ有スルモノサヘアリ。

其收支計算ヲ觀ルニ、之ニ集金額ト落札金額トノ差額ヨリ必要ナル費用ヲ辨ジ、殘額ハ之ヲ未落札者ニ均分ニ配當スルモノトス。故ニ講員ハ通帳上所定ノ金額ヲ拂込ミ居ルガ如キモ、實際ハ所定以下ノ拂込ヲ以テ足ル。殊ニ融通ヲ目的トスル講會ニ在リテハ、各自資金ノ必要急切ニシテ、初回又ハ二三回目ニ講金ヲ取得セント希望シ、集金額ト落札金額トノ差額ヲ糶リ上ルヲ以テ自然割引多額ニ上リ、未落札者ヘノ配當從テ増加シ、時トシテハ配當額、掛金額ニ超過スルノ奇現象ヲ生ズルコトナキニアラズ。尙開會時ニ於ケル費用ハ往々當日ノ落札者ニ負擔セシムルコトアリ。抽籤講ニ於ケル利息モ亦入札講ニ於ケル落差金ト同ジク之ヲ未當籤者ニ配當ス。蓋シ當籤者ハ債務者ニシテ、未當籤者ハ債權者ナルヲ以テナリ。故ニ未當籤者ノ數減ズルニ從テ利息ノ配當ハ増加シ、ソノ掛金額ハ減少ス。今茲二十人ノモノアリ、百圓講ヲ組織シ、毎年一回抽籤ヲ行ヒ、掛戻シ利息ハ壹圓ニ付拾錢、即チ年一割ト定メタリト假定センカ、第一回ハ各自拾圓ヲ持出シ、當籤者ハ百圓ヲ領收スレドモ、第二回ニハ第一回當籤者ノ利息壹圓ヲ九名ニテ分配シ、其配當額拾壹錢壹厘壹毛ヲ拾圓ヨリ差引キ九圓八拾八錢八厘ヲ拂込メバ足レリ。斯クシテ毎回一口ノ掛金額ハ減少シ、九回目ニハ六圓、十回目ニハ僅カニ壹圓ノ拂込トナルベク、最後ノ講金領收者ハ八拾圓六拾九錢ヲ掛込ミ百圓ヲ領收スルコト、ナリ、十ヶ年間ノ貯金利息拾九圓參拾壹錢ヲ得ベシ。故ニ抽籤講ニヨリテハ可成早ク講金ヲ取得シ、



之ヲ運用スルヲ以テ利益多シ。

右ニ付抽籤講ト落札講トハ何レガ多ク行ハル、ヤト云フニ、這ハ講會設立ノ目的如何ニヨリテ差異アリ。彼ノ積立ヲ目的トスルモノ、又ハ物品ノ購買ヲ目的トスルモノ、又ハ貧困者ノ扶助救濟ヲ目的トスルモノ、如キハ、加入者ニ幾分生活上ノ餘裕アルニヨリテ初メテ起スベク、講會領收ノ希望比較的急切ナラザルヲ以テ此種ノ講會ニハ專ラ抽籤法採用セラル。之レニ反シ融通ヲ目的トスル講會ハ、講員各自講會取得ノ一回モ早カラシコトヲ希望スルヲ以テ必要上入札法ヲ採用ス。故ニ資金ガ適切ナル用途ヲ見出ス點ヨリ見レバ入札法ハ抽籤法ニ優レリト雖モ、低利ニシテ弊害ノ少キ點ニ於テハ遂ニ抽籤法ニ如カサルナリ。而シテ抽籤講ニアリテモ、講員中時トシテ資金ノ需要切ナルモノアルヲ免レザルヲ以テ、斯ル場合ニハ講員ノ承諾ヲ得、又ハ自由ニ權利ノ賣買讓渡ヲ行フコトアルナリ。以上ノ如ク講會ノ取得ハ普通抽籤又ハ入札ノ方法ニ據ルト雖モ特ニ貧困者ノ扶助救濟、又ハ特定人ニ對スル融通ヲ目的トシテ設立セル講會ニ在リテハ、第一回ノ集金ハ當然被救濟者ニ取得セシメ、第二回以後ノ集金ハ抽籤又ハ入札ニヨリ受領者ヲ定メ、順次講員ニ取得セシムルヲ常トス。且被救濟者ニ對シテハ保護ノ目的ヲ有スルヲ以テ領收金ニ對スル利息ヲ輕減シ、若シクハ免除スルノミナラズ、時トシテハ掛戻金ノ一部ヲ免除シ、若シクハ掛捨講ト稱シ第一回ノ集金全部ヲ贈與シ、全然返濟義務ヲ免除スルコトアリ。斯ル場合ニ於テハ被救濟者ハソノ恩惠ニ對スル報酬トシテ開會ノ際茶菓又ハ酒肴ヲ供シ、其他講ニ關スル各種ノ勞務ヲ提供スルモノ多シ。

## 第二章 信用組合 (特ニ名古屋市ノ信用組合)

信用組合ニ就テハ、明治三十三年三月六日法律第三十四號ニヨリ制定セラレタル産業組合法ニ明ナリ。全法第一條ニ「産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其經濟ノ發達ヲ企圖スル爲メ左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ」トアリ。

- 一、組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合)
- 二、組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セズシテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合)
- 三、産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト(購買組合)

四、組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト(生産組合)

以上ノ如ク、信用組合ハ之ヲ經濟上ヨリ見レバ一ノ相互組織ノ金融機關ニシテ、銀行業ト異リ、之ヲ法律上ヨリ見レバ一ノ社團法人ニシテ賴母子講、貯金組合等ト區別セラル所以ナリ。而シテ我カ政府ニ於テハ、其保護發達ニ努メタル結果今日小商工業者ニシテ、産業組合ヨリ受クル利益尠ナカラザルノミナラズ、組合ハ政府ノ特別保護ノ下ニ置カレ、産業組合法第六條ノ規定ニ基キ所得稅及營業稅ヲ免除セラル、特典アリ。亦産業組合ニシテ登記ヲ受クルトキハ、營利ヲ目的トセザル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムト雖、組合員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セラレザルナリ。産業組合ノ起源ハ徳川時代ニアリト稱スルモノアレドモ、古キ歴史ハ姑ク措キ、近ク現今ノ新組織ヲ我國ニ普及セシメタルハ、故子爵品川彌次郎及子爵平田東助兩氏ノ力ニ負フ處大ナリトス。即チ明治二十四年松方内閣ノ際品川氏(内務大臣)ハ平田氏(法制局長官)ニ囑シテ、産

業組合法ヲ制定シ、之ヲ議會ニ提出シタルドモ、議會解散ノタメ議決ニ至ラズ、於此乎兩氏ハ各地方ニ遊説シテ、信用組合設立ノ急ヲ述ベ、其結果各地ニ信用組合ノ設立セラル、モノ百數十ニ及ビシガ、其大部分ハ今日尙優良組合トシテ存續スルモノ少カラズ。

明治三十年農商務省ハ産業組合法トシテ議會ニ提出シタルモ、再ビ議決ニ至ラズシテ止ミ。三十二年一月ニ至リ政府ハ更ニ多少ノ修正ヲ加ヘ、第十回議會ニ之ヲ提出シ、貴族院及衆議院ヲ大多數ニテ通過シ、茲ニ始メテ我産業組合法ノ制定ヲ見ルニ至リ、明治三十三年三月法律第三十四號ヲ以テ之ヲ發布シ、全年九月一日ヨリ之ガ施行ヲ見ルニ至レリ。其後明治三十九年四月ニ第一回ノ改正ヲ行ヒ

一、信用組合ト他ノ組合ノ兼營ヲ認メ

二、定款ヲ以テ組合員總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ許シ

次デ明治四十二年四月第二回ノ改正ヲナシ、産業組合聯合會及産業組合中央會ノ設立ヲ認メ、我信用組合(及其他ノ産業組合)ニ關スル法制略具備スルニ至リタリ。以上ノ歴史ヲ有スル信用組合ハ、明治三十三年末現在ニ於テ僅ニ二十三ニ過ギザリシガ、後次第ニ増加シ、全四十五年六月末ニハ、合計七千三百〇一ノ多數ニ上リ、大正三年末ニ於テハ數ニ於テ一萬一千五百〇九、資金ニ於テ壹千九百八拾參萬壹千壹百五拾壹圓ヲ算ス、亦盛ナリト云フベシ。

大正五年度末ニ於ケル愛知縣下信用組合現在數ハ總數四百三十二、出資拂込金七拾壹萬參千圓ニシテ、其中名古屋市ニ屬スル信用組合ハ

一、名古屋莫大小信用購買販賣組合

二、熱田魚鳥業信用組合

三、名古屋信用組合

以上三ニ過ギス。然レドモ此等ハ漸次信用加ハリ、小商工業者ノ金融機關トシテ其實績ヲ舉ゲツ、アリ。之等ノ信用組合ニ就テ見ルニ、設立最モ古キハ熱田魚鳥業信用組合ニシテ、明治四十四年九月呱呱ノ聲ヲ上ゲ次テ全四十五年五月名古屋莫大小信用購買販賣組合成リ、大正四年七月青山孝太郎其他ノ諸氏名古屋信用組合ヲ發起セリ。信用組合ノ利益ハ相互利益増進ニアリト雖、殊ニ中産者以下ノ者ガ組合ヲ利用スルニ於テハ其利スル處多大ナルベク、名古屋ニ於ケル組合ノ如キ其成立日淺クシテ世人ニ誇ルベキモノ少シトハ云ヘ、何レモ相當效果ヲ舉ゲ得タルハ、組合ノ性質上自然的發達ニ俟ツモノト曰ハザルベカラズ。

之ヲ名古屋莫大小信用購買販賣組合ニ見ルモ、四十五年設立當時出資額貳千貳拾圓、口數一百一口、組合員數六十三名ニ過ギザリシモノ、第四年度ノ大正四年三月三十一日現在ニ於テ、出資額六千參百八拾圓、口數三百十九口、組合員數百九十一名ノ多キニ達シタルニ徴セバ、如何ニ信用組合ノ聲價ガ増大シタルカヲ知ルニ足ラン。參考上同組合發達狀況ヲ表ニセバ左ノ如シ。

年 度	出 資 額	拂 込 額	口 數	諸 積 立 金	組 合 員 數
設 立 當 時	二、〇二〇	二〇二	一〇一	一	六三
第 一 年 度 末	二、四〇〇	二四〇	一一〇	六八	七七
第 二 年 度 末	四、四四〇	九二八	一二二	七二八	八八
第 三 年 度 末	五、九八〇	一一〇九	二九九	一、〇〇二	一一〇
第 四 年 度 末	六、二八〇	三、六二六	三一九	一、〇〇五	一九一
				四五	

以上ノ如ク發達シタル名古屋莫大小信用組合ハ、當市莫大小業者ノ殆ド全部ヲ網羅シ、大正五年六月末現在ニ於テ、口數三千三百二十口、出資金六千六百四拾圓(内拂込五千壹百四拾六圓)ニシテ、準備金壹千六圓參拾六錢壹厘、積立金六百四拾九圓參拾五錢四厘、貸付金總計四千七百七拾六圓七拾貳錢アリ。此種貸付金ハ中産以下ノ莫大小業者ノ資金トシテ利用セラル、モノナリ。

今同組合ノ貸付方法ヲ聞クニ、生産品又ハ未製品ヲ擔保トシテ時價八掛、或ハ八掛半ノ程度ニ於テ貸出ヲ爲シ、期限ハ一定セザレドモ長期一ケ年ト定メ、其以内ニ於テ一ケ月或ハ半ケ月等所要ニ從ヒテ便宜之ヲ利用スルヲ常トス。

貸付利子ハ時ニ高低ヲ免レズト雖、目下ノ狀況ニテハ製品及相手方ノ信用ニ從テ日步壹錢八厘ヨリ貳錢五厘ノ間ニ在リ。

以上述べ來ル處ニ依レバ、莫大小組合ノ發達ハ極メテ順調ニシテ有利ナルガ如キ感アレドモ、深ク之ヲ考察スルニ於テハ當組合ノ極メテ營利ニ傾クノ感アルハ、信用組合ノ發達上洵ニ憾ミナキ能ハザルナリ。即チコノ點ニ於テ吾人ハ近ク設立セラレタル、名古屋信用組合ノ發達ニ多大ナル囑望ヲ有スルモノナリ。即チ同組合ハ名古屋市ニ於テモ信賴スベキ知名ノ士ヲ以テ組織シ、貸出ノ方法ハ有擔保、無擔保ノ別アレドモ、殊ニ無擔保ニ重キヲ置キ、信用本位ニテ貸出ヲ行フカ故ニ、小商工業者ノ利スル處尠少ナラズ。

同組合ハ創立時代ヨリ大正五年末ニ至ル間ハ、組合員タルノ資格ヲ中區ノ一部ニ限リタリシモ、大正六年度ニ至リテ其範圍ヲ擴張シテ名古屋市全體トナセリ。而シテ創立以來日淺キニモ拘ラズ、極メテ好成绩ヲ上ゲ居ルハ、市街地信用組合ノ前途ヲ祝スモノト曰ハザルベカラズ。

今參考ニ便セム爲メ、全組合ガ創立ヨリ大正五年末ニ至ル成績ヲ一表トセムニ、實ニ左ノ如シ。

名古屋信用組合成績表 (出資金、貯金、貸出金、各月末殘高表)

年 月	出 資 金	貯 金	貸 出 金
大正四年七月	三、九〇〇・〇〇〇	一、九五七・二二〇	一、九三〇・〇〇〇
全 八 月	四、四四〇・〇〇〇	三、三一〇・六二〇	二、六五〇・〇〇〇
全 九 月	五、一五〇・〇〇〇	三、九五一・五五〇	三、一六二・〇〇〇
全 十 月	五、六九〇・〇〇〇	五、九六四・九一〇	六、三一五・一〇〇
全 十 一 月	六、一〇〇・〇〇〇	七、六七九・〇九〇	七、六四〇・〇〇〇
全 十 二 月	六、七五〇・〇〇〇	一四、三三七・四八〇	六、二四〇・〇〇〇
大正五年一月	六、九〇〇・〇〇〇	一八、二一六・七〇五	八、八七五・〇〇〇
全 二 月	八、二二〇・〇〇〇	一七、六七〇・四三〇	一一、六二五・〇〇〇
全 三 月	九、六九〇・〇〇〇	二八、八三三・〇三五	一四、三〇八・二五〇
全 四 月	一〇、五三〇・〇〇〇	三三、六四三・一六〇	二二、一〇四・二八〇
全 五 月	一一、六八〇・〇〇〇	三六、五三七・一一五	二四、五二三・九三〇
全 六 月	一二、一〇〇・〇〇〇	四二、二八二・四四〇	二五、八二三・四六〇
全 七 月	一二、二八〇・〇〇〇	四七、八四二・五八〇	二五、二二五・二五〇
全 八 月	一一、七三〇・〇〇〇	五〇、九一七・五五五	二五、七七二・〇八〇
全 九 月	一一、一五〇・〇〇〇	五二、九八四・六三〇	二八、一〇七・〇二〇
全 十 月	一三、四五〇・〇〇〇	五二、四九八・一二〇	

全 十一月  
全 十二月

一、二、八四〇・〇〇〇  
一、四、五四〇・〇〇〇

五、六、八九九・一三五  
六〇、二〇四・〇七〇

四八  
三、一、一六七・五七〇  
三、六、九五二・四九〇

以上ノ如ク、創立當時僅カニ參千九百圓ニ過ギザリシ出資額ハ大正五年十二月ニ壹萬四千五百四拾圓ヲ數ヘタルノミナラズ、貯金ノ如キ壹千九百五拾七圓貳拾壹錢ヨリ六萬貳百四圓〇七錢ニ及ビ、貸出金參萬六千九百五拾貳圓四拾九錢ノ如キ好果ナリ。然レドモ創立後第一回計算期タル大正四年十二月末ニ於テハ、創業其他ノ不足金約四百圓アルノ不幸ニ會シタリシモ、此等不足金ハ創立者タル青山孝太郎氏ニ於テ寄附補填ヲナシ、次テ今日ノ盛況ヲ見ルニ至レリ。而シテ全組合ノ貸出方法ニ就テハ、主トシテ手形ノ方法ニヨリ、六十日乃至九十日ヲ以テ書替期トナシ、利子ハ定款ヲ以テ定メ、一割以下ニ限定セリ。書替其他繼續ヲ希望スル場合ニ於テハ必ず内入ヲ行ヒ、元利ノ幾分ヲ入金シタルモノニ於テノミ其繼續ヲ許スコト、セリ。而シテ目下同組合ニハ理事青山孝太郎、三浦惠民、水野寅吉、長谷川糾七、服部小十郎。監事吉川九兵衛、小出増太郎、長谷川半兵衛。相談役清水太助、山本權十郎、山田治郎三郎等、名古屋市知名ノ士多キヲ以テ將來ノ發展ヲ期スベキ明ナリ。

名古屋市信用組合現況 (大正五年六月末現在)

項 目	名古屋莫大小信用組合	名古屋信用組合	熱田魚鳥業組合
出 資 額	六、六四〇・〇〇〇	一、一〇〇・〇〇〇	一、五、六〇〇・〇〇〇
拂 込 額	五、一四六・〇〇〇	八、〇〇八・〇〇〇	一、三、四五四・二〇〇

口 數	準 備 金	其 他 積 立 金	借 入 金	貸 付 金	貯 蓄 金	預 算 金	販 賣 價 格
三、三二〇・〇〇〇	一、〇〇六・三六一	六四九・三五四	三、〇〇〇・〇〇〇	四、七七六・七二〇	七、五五二・六五〇	六、〇四四・一八〇	二、三、四三四・六九四
一、二二〇・〇〇〇				二四、二四八・二八〇	不 明	四二、二八二・四四〇	
							三、四三一・八〇八
							一、六、六〇四・九八五
							不 明
							三、四三一・八〇八
							一、五〇〇・〇〇〇
							一、三九五・三九四
							三七九・三二〇
							一、六、六〇四・九八五
							不 明
							三、四三一・八〇八

損 益 表

總 益 金	總 損 金	總 剩 餘 金
二、八二八・二四四	二、二〇八・七二六	六二〇・五一八
名古屋莫大小信用組合		
名古屋信用組合		
熱田魚鳥業組合		
一、八九二・三〇〇	八六三・六五四	一、〇二八・六四六

備考 名古屋信用組合ハ大正五年末現在ノ數字ヲ得タルモ、他組合トノ比較上茲ニハ六月末現在ヲ以テセリ

### 三、商品又ハ原料ノ融通

我が邦ノ習慣トシテ製造家若クハ小賣商ガ比較的資力豊富ナル、同業者及ビ問屋、卸商、原料商等ヨリ一定ノ期間商品又ハ原料ノ融通ヲ受ケ、賣上或ハ精製ノ後ニ於テ仕入先或ハ原料商ニ其代金ヲ支拂フコトハ多ク行ハル、所ニシテ一種ノ資金融通法ナリ。而シテ其仕入商品又ハ原料ノ數量、價格ハ決シテ少額ナラズ、彼等ハ之ニ據リテ大ニ利便ヲ得、其營業ヲ支持セルモノ尠シトセズ。今名古屋市ニ於ケルコノ種取引關係ヲ有スルモノニ付テ調査シタル結果左ノ如シ。

#### 第一章 原料ノ融通

原料ノ融通ハ家内工業ニ屬スルモノニ多ク、彼ノ當地ノ重要物産タル織物ノ如キハ、未ダ工場制度ノ完備セザル爲メ、出機(或ハ賃機)ノ行ハル、ハ免レザル所ニシテ、今日ノ名古屋市ニ於テハ原料ヲ供給シテ、賃機ヲ行ハシムルノ制度ナリ。其他扇子、提灯ノ如キ何レモ原料ノ供給ニヨリ家内工業タルノ形態ヲ有スルモノ多シ。此種事業ニ屬スルモノヲ擧グレバ

- 一 燐寸 一指物 一桶 一鑄工 一織物 一紙漉 一莫大小
- 一 手袋類 一鼻緒 一箱類 一疊 一染物 一菓子 一足袋
- 一 竹細工 一建具 一表具 一扇子 一ブリキ細工 一塗物 一豆腐類
- 一 麵類 一眞田 一彫刻 一帳簿 一絲撚掛 一和洋傘 一製本
- 一 七寶 一文房具 一下駄表 一鍛冶 一仕立物 一履物 一印刷

一玩具 一燐寸箱張

今一例トシテ、綿布ニ付キ、原料ノ融通狀況ヲ述ベンニ、問屋ハ綿布製造者ニ向ツテ原料綿糸ヲ貸與シ、製造者ハ自家ノ工場或ハ附屬職工ニ對シテ、ソノ原料ヲ供給シ、製品加工ノ上問屋ニ持參シテ代金ヲ決済スル如キ一般ニ行ハル、方法ナリ。

#### 第二章 商品ノ融通

小賣商ガ卸商ヨリ貨物ノ供給ヲ受ケ、一定期間支拂ヲ猶豫セラル、ニ於テハ、小賣商ノ受クル利益尠ナカラズ、其ノ事業ノ種類ニヨリ特種ノ習慣アリテ一定セズト雖、猶豫期間ヨリ受クル小賣商ノ利益ハ一種ノ資金融通ト等シク、之ヲ計上スルニ於テハ多額ノ利益ヲ蒙ルベキモノナリ。今名古屋市ニ於ケル重ナル商業ニ就テ調査ヲ行ヒタルニ其結果左ノ如シ。

一 吳服太物商

現金ヲ主トスルモ、其取引長期ニ渡リ、相互ニ人物及資産状態ノ知レ居ル間ニ於テハ、必ズシモ現金取引ヲ要セズ、月末拂、翌月拂、三ヶ月(九十日)拂等ノ計算行ハレ、殆ンド一定ノ形式ヲ止メザルカ如シ。從テ資金トシテ、荷物ノ利用期間ハ相手方ノ信用如何ニ依リテ定マリ、資力アルモノハ問屋ニ向ツテノ支拂期間長キモ、小商人ハ之ニ反シテ信用薄キガ故ニ猶豫期間ノ比較的短時日ナルヲ免レズ。

一 雜菓子

名古屋市ニ於ケル雜菓子ハ一時百萬圓内外ノ産額ヲ計上シタル時代アリタルモ、近年稍衰微ノ傾向ヲ呈

シ、五拾萬圓内外ヲ往來スルニ過ギズ。而シテ其販路ハ名古屋市及其近郷ニ止マラズ、尾張、美濃、信濃、越後、近江及三重、靜岡地方ニモ及ベリ。

卸賣、小賣商間ノ代金支拂方法ハ主トシテ現金制度ニ依ルモ、取引久シキニ涉リテ相手方ノ信用確實トナレバ、掛勘定ヲ普通トシ、其間別ニ一定ノ商習慣存在スルヲ認メズ、只出張販賣ニ屬スル卸賣商間ニハ其取立方法ハ巡廻毎ニ支拂ヲ受クルヲ普通トス。

### 一 米 穀 商

當地納屋河岸筋ニハ米穀問屋存セザルニアラザルモ、市内小賣業者トノ間ニハ極メテ稀ニ取引行ハル、ノミニシテ其關係左程密ナラザルガ如ク、小賣業者ノ多クハ近郷ノ農家或ハ地方ノ仲買商ヨリ買入ル、モノニシテ現金取引ヲ普通トセリ。

### 一 和洋小間物及化粧品商

小間物トハ主トシテ頭髮ニ關シタルモノニシテ、之ヲ大別スレバ櫛、簪、掛物、リボンノ數種ニ過ギザルモ、小別セバ其數幾百ヲ以テ數フベク、初メテ開業セント欲スルモノニ向ツテ卸屋ガ一ト通り之ヲ取り揃フルニハ、六百種ヲ數フト曰フニ至リテハ其種類ノ多數ナルニ驚カザルヲ得ズ。又化粧品トハ主トシテ粧飾ニ使用スルモノニシテ、石鹼、齒磨、白粉、油、洗粉、香水ノ類是ナリ。

今當地ニ於ケル小間物化粧品ノ取引及支拂關係ヲ調査シタルニ、當市特有ノ金屬製簪及梳櫛ハ全国各地ニ供給セラレ、其他一般商品ハ岐阜、三重、滋賀、長野、富山ノ各縣ニ需要セラル。其小賣店、卸店ノ支拂勘定ハ現金制度ヲ主トシ、例外トシテ貸賣行ハル。

### 一 糸 類

絹糸、綿糸共ニ現金取引ヲ本位トシ、例外トシテ掛賣買行ハル。特ニ絹糸ノ如キ卸賣買ノ場合ニ於テハ手形ノ授受セラル、コトアリ。現金制度ノ場合ニ五日間ノ猶豫期間ヲ存スルハ聊カ他ト異ナル所ナリ。

### 一 油 類

之ヲ石油、輕油及機械油ニ分類シ、石油ハ現金取引ヲ標榜スルモ、實ハ現金取引行ハレズ、多クハ十五日、三十日ヲ支拂日ト定ムルヲ一般トスルモノ、如ク、輕油ハ一回送り、機械油ハ内金拂ヲ普通トセリ。

### 一 荒 物 類

現金勘定ヲ標榜スルモ、其實行ハレズシテ、多クハ月末拂ヲ通常トス。月末拂ノ向ニ於テハ二十五日締切ノ上、月末支拂ヲナスモノ多シ。

### 一 紙 商

小賣商ト卸商トノ關係ハ常ニ注文ニ接シテ、商品ノ引渡ヲ終ルモ、直チニ現今ノ支拂ヲ要セズ。毎月二十五日ヲ以テ締切トナシ、月末ニ至リ卸賣商ハ店員ヲ派シテ、其月ノ支拂ヲ受クルヲ通常トス。コノ點ハ大阪ニ於ケル二十四日締切トナシ、月末勘定ナルニ比セバ稍異ナルモ、當月拂タルハ同一ナリ。

### 一 魚鳥五十集物商

當地ニ於ケル魚鳥五十集物ノ市場ハ熱田及船入町ニアリ。前者ハ主トシテ、鮮魚ノ販賣ヲナシ、後者ハ鹽物(即チ五十集物)ノ販賣ヲナス。名古屋市ニ於ケル市場ハ其發達古ク、織田信長時代ヨリ繼續セリト稱セラル。即チ兩市場ニ於ケル小座ノ名稱存スル如キ、全ク我國古來ノ官有事業ノ痕跡ヲ止メ居ルモノ

ト曰ハザルベカラズ。小座ハ即チ場所ノ意味ニシテ、官ガ命ジテ一定ノ場所ヲ限リ或一定ノ物品ヲ販賣セシメタルモノトス。即チ今日ノ鎌倉ニ於ケル材木座ノ如シ。

市場ノ組織 ニ問屋、仲買及小座ノ三者アリ。問屋ハ直接荷主ニ對シ責任ヲ負ヒ、仲買ハ問屋ニ對シ責任ヲ有スルコト問屋ノ荷主ニ於ケルガ如ク、小座ハ又仲買ニ對シテ責任ヲ負フ。日々ノ取引ハ問屋ノ店頭ニ於テ行ハレ、仲買人小座ハ問屋ヨリ買入レタル魚類ヲ市内ニ販賣ス。故ニ問屋ハ卸賣商ニシテ、仲買小座ハ小賣人ノ關係ニアリ。而シテ問屋對小賣人ノ計算方法ハ、毎月三十日ヲ以テ其月ノ取引ヲ計上シ、翌月五日(中央市場)、或ハ翌月七日(熱田市場)ヲ支拂日ト定ムルモ、熱田市場ノミハ、殊ニ猶豫期間ヲ與ヘテ十七日迄延期シ得ルノ恩典アリ。中央市場ハ一日、十六日ヲ以テ勘定日ト定ム。

一金物商

卸小賣商間ノ取引關係ハ月末拂ヲ主トスルモ、名古屋市ニ於ケル習慣ハ二十五日迄ニ送付ヲ受ケタルモノハ月末ニ至リ精算セラレ、信用ノ程度不明ニシテ取引關係濃厚ナラザル間ニ於テハ現金取引ヲ行フ。

一乾物商

支拂計算ハ月末拂ヲ本位トスルモ、實際ニ於テハ月末精算ヲ見ルコト殆ド稀ニシテ數月ニ亘ルモノ多ク、市外ニ對スル取引ハ半期貨ノ取引ナルガ故ニ、從テ其長期ニ亘ルモノニ對シテハ若干ノ割増ヲ免レズ。

一帽子

月末勘定ヲ本位トスルモ、出賣ヲ主トスル本業ニ於テハ、出張先ニ於ケル競争ノ結果、小賣店ノ支拂ハ内拂ノ方法ニ出ルモノ多ク、巡廻員ノ來ル毎ニ分割シテ其一部ヲ支拂フ、故ニ決濟ニ半期間ヲ要スルコトアリ。然レドモ卸店ハ習慣上初メヨリ之ヲ覺悟シ、敢テ追求セズ。

一玩具

玩具ハ店頭賣買ヲナスモノト、出賣ノ方法ニ依ルモノトアレドモ、店頭賣買ハ多ク現金取引ニヨリ、出賣ハ月末勘定トスルモノ多シ。即チ二十五日ヲ以テ一般ニ締切トナシ、月末店員出張シテ精算ヲ了ス。

一文房具

一般取引習慣トシテハ、月末勘定ニシテ二十五日ヲ締切トシ、月末取立ツルヲ原則トスルモ、其實決濟ヲ終ルハ二ヶ月位ヲ要スルコト多ク、大取引ニ於テハ手形取引モ行ハル。

一薪炭

月末拂ニシテ毎月二十七日締切、月末支拂ヲナシ、六月、十二月ニ限リ二十五日ヲ締切トナス。

一砂糖

現金拂、月末拂、三十日拂等アレドモ、多クハ月末拂ニヨルヲ常トシ、一ヶ月以上ニ亘ルモノニ付テハ手形ノ授受行ハル。

一酒商

卸賣ハ殆ンド外賣ノ方法ニヨリ店員が見本ヲ持參シ、顧客間(小賣店)ヲ巡廻シ、注文ヲ受クルノ方法ニヨルノ結果、出張先ニ於テ自然ニ同業者ノ競争ヲ生ジ、努メテ現金取引ヲ希望スルニ拘ラズ、其實行困難ニシテ、一般延取引ヲ免レザルナリ。卸賣商ガ其仕入ニ當ツテ、荷主ニ對スル支拂方法ハ從來ノ慣習上六十日拂ヲ原則トシ、卸商ハ小賣品ニ對シテ、一ヶ月ヲ限度トスルモ、出張員ノ競争ノ結果延テ二ヶ月

月或ハ三ヶ月ノ長キニ至ルコト稀ナリトセズ。卸賣商ハ出荷毎ニ幾分ノ回收ヲ試ミ、取立ヲ行フモ一取引ニ對シテ六ヶ月ニ及ブモノアリ。六ヶ月ニ至リ尙支拂不可能ノ者アルトキハ直チニ取引ヲ停止シ、現金取引行ハレズ。

### 一牛 乳

一般ノ習慣ハ翌月五日拂ニシテ、小賣商ハ一ヶ月間ノ販賣代金ヲ晦日ニ取立ツルヲ以テ、コノ取立金ヲ以テ卸商ニ對シ支拂ヲナス。然レドモ、本業ニ限リ卸商、小賣商間ニハ最初ノ取引ニ於テ賣買契約書ヲ授受シ、保證人ヲ立テシムルヲ習慣トセリ。之レ車一臺ノ營業ニシテ、何時小賣商ノ逃失スルヤ計ラレザルガ爲ナリ。

### 一洋服業(洋服商、洋服裁縫店、洋服裁縫職工)

本市ニ名古屋洋服商工組合ナルモノアリ。會員百九十六名ヲ有シ、名古屋市洋服業者ヲ網羅セリ。而シテ會員ノ中原料ヲ供給スル原料商ト認ムベキハ數名ニ過ギズシテ、此等數名ノ原料商ト稱スベキモノモ一般ノ洋服販賣ヲナスヲ以テ、當地ノ洋服業ハ殆ド小賣商或ハ洋服職タルヲ免レズ。此等洋服業ニ就テ調査スルニ、原料ハ其多クヲ京阪及東京方面ノ原料商或ハ代理店タル商館(當地ニ取引多キハコンス商會、サミュル、エッチ、メリキ等)ニ供給ヲ仰グモノニシテ、其支拂方法ハ相手方ノ信用如何ニヨリ現金取引行ハル、モ、一般慣習トシテハ商館ニ對スル支拂ハ九十日、卸商(日本商店)ニ小賣商ガ支拂ヲナスハ六十日ヲ通常トス。即チ一例トシテ外國商館ニ對スル支拂方法ヲ述ブレバ、需要者ハ秋季ニ入ルノ頃翌年夏物ヲ注文スルヲ常トス(約十ヶ月後ニ受渡シ得ルノ豫定ヲ以テ注文ヲ發ス)。即チ

秋季ニ於ケル注文ハ翌年三月頃 Invoice ノ到着ニ會スルヲ以テ、コレニヨリ荷物ノ引渡シヲ濟シ、運賃其他ノ費用(原價ノ約二割五分)ヲ支拂置キ、自餘ノ計算ハ手形九十日ヲ以テ處理セラル、ヲ慣習トス。

### 一茶 商

當市ノ茶商ハ殆ンド小賣店ニシテ、市内一般需要ノ約八割ハ升半商店(横井半三郎氏)ノ供給ニ屬シ、以下二割ガ市内小賣業者ノ販賣ニ係ルモノ、如シ。從テ卸商、小賣商ノ關係モ需要ノ割合ニ調査材料極メテ少ナキヲ以テ、本調査ハ専ラ升半商店ニ依リタルモノナリ。

全商店仕入狀況ヲ聞クニ山城、岐阜、三重等ノ原產地ニ主トシテ供給ヲ仰ギ、殊ニ山城ニ其多キヲ求ムルモ、全店ノ習慣トシテ支拂方法ハ三ヶ月拂ヲ原則トセリ。只例外トシテ原產地荷主ノ現金必要アル場合ニ於テハ一割引ヲ以テ支拂フヲ通常トセリ。

### 一洋物類(雜貨)

近來本市ノ工業發達ノ結果ハ當地製品ニヨルモノ尠ナカラズト雖、上等物ト稱スル向ニ於テハ、大阪及東京ニ供給ヲ受クルモノ多シ。而シテ支拂ノ習慣ハ荷着後六十日拂ヲ制度トシ、其手形ニ依ルト依ラザルトハ店ノ信用程度及習慣ニ依ルコト多ク、新規取引ニ對シテ現金制度ナルハ曰フ迄モナシ。

### 一藥種賣藥

信用程度ニヨリ相違アルモ一般取引ハ二十五日締切リ、月末勘定ヲ主トシ、仲間取引ニ於テハ三月、六月、九月、十二月ノ四季勘定ヲ本位トスルモ、近來四季勘定ノ長期ニ亘リ不便ノ結果其支拂ヲ短期ニナスノ傾キアリ。



## 四、本家、主家

五八

我が國ノ習慣トシテ中級以上ノ老舗ニアリテハ、實子又ハ養子ヲ別家セシメ、家業ヲ營マシメ、或ハ多年勤續ノ番頭手代ヲシテ己レノ商號(所謂暖簾)ヲ分チテ獨立營業セシムルコト行ハレタルガ、近來社會組織ノ變化セラレタル結果、別家ノ方法ヲ執ラズ、給料制度ニ重キヲ置キ、後日獨立ノ資ヲ與フルモノ多キガ如シ。今本市ニ於ケル本家、主家ノ關係ヲ見ルニ、中流以上ノ商店ニ於テハ、今尙舊套ヲ脱セザルモノ多ク、別家或ハ分家ノ制度ニ依ルモノアリ。即チ一定年限ノ間、主家ニ於ケル修業ヲ終レバ、主家ハ別家トシテ獨立一家ヲ構フルコトヲ許シ、主家ニ通勤セシメ、生活上ノ保證ヲ與フルモノト、一定ノ年限ヲ經過シタル後獨立セシメテ、主家ノ商號(暖簾)ヲ與ヘ、人物保證ノ位置ニ立チ、或ハ取引上ノ便宜ヲ計ルモノトアリ。之レ一面ヨリセバ間接ノ金融機關ト認ムベキモノニシテ、主家ト別家トノ間ニ於ケル有形無形ノ金融上ニ及ボス利益尠ナカラズ。然レドモ當地ノ習慣トシテ、別家シタル場合ニ於テハ同一ノ業務ヲ行ハシメズ、吳服商ノ別家ハ糸類ヲ販賣シ、糸店ノ別家ハ糸卷ヲ販賣スルノ類ニシテ、主家ト同一ノ業務ニ從事シ、其顧客ヲ奪フノ弊ヲ防止スルニ在リト雖モ、店ニヨリテハ別家ノ際、他地方ニ限リ同一ノ業務ニ從事スルヲ許スモノアリ。別家主家間ニ於ケル關係ハ、尤モ親密ニシテ冠婚葬祭ハ勿論、一般取引上ニ於ケル人物ノ保證等常ニ主家ニ重キヲ置キ便宜ヲ得ルコト多シ。然レドモ近來大商店ニ於テハ漸次給料制度ヲ執リ、主家、別家ノ如キ恩顧關係追々其跡ヲ絶タントスル傾キアリ。

## 五、小商工業者ノ金繰

本調査ハ衣、食、住ニ三大別シ、主トシテ直接日常生活上關係深キモノニ就テ調査ヲナスノ方針ヲ採リタルモ、多數ノ職業中ニハ調査ノ便宜ヲ缺クモノアリ、爲ニ之ヲ左ノ十五種ニ限レリ。

イ、衣	部	洋服業	糸類	小間物化粧品	帽子
口、食	部	酒商	砂糖	魚鳥五十集	米穀
		藥種及賣藥業			茶業
ハ、住	部	荒物商	文房具	玩具	薪炭

而シテ以下小商人ノ狀況一般ヲ述べ、次テ各業務別ニヨルモノニ及バントス。

## 第一章 小商人

一、開業 開業ニ對スル準備トシテ、相當業務上ノ熟練ヲ要スルモノト、資本ノミアレバ左程熟練ヲ必要トセザルモノトアリ。吳服太物商、洋服業等ノ如キハ前者ニ屬シ、賣藥、文房具等ノ小賣ノ如キハ後者ニ屬ス。開業ノ方法ハ各種各様ニシテ、一定ノ見習期間ヲ經過スルニ於テ、別家ノ方法ニ依リ主人ヨリ資金ヲ給シテ開業セシムルモノアリ。又己レノ資本ト信用トニヨリ獨立シテ開業スルモノアリ。然レドモ小賣人

五九

側ニ於テハ營業資本ノ全部ヲ得ルガ如キハ、殆ド不可能ナルガ故ニ開業ノ第一回取引ニ於テ現金仕入ヲナシ、第二回或ハ數回後ニ於テ問屋或ハ卸賣商ヨリ、延買ノ方法ニヨリ、商品ノ融通ヲ受クルモノ多キガ如シ。最モ商品ノ種類ニヨリテハ最初ヨリ絶體ニ延買ヲ爲シ、商品ニ對シ少ナクモ一ヶ月ノ融通ヲ受クルノ便宜ヲ有スルモノモアリ。

二、仕入 當地ニ於ケル商品ハ主トシテ、東京及大阪方面ノ商人ヨリ仕入ヲ爲スモノ多キモ、小賣人(小商人)トシテハ當地ノ卸商ヨリ供給ヲ受ケ、原產地ノ商人ト取引スルモノ絶無ナリ。

三、販賣 販賣ノ方法ニ就テハ種類ニヨリ相違アリト雖、通常左ノ標準一般ニ行ハル。

イ、仕入及販賣共ニ現金ナルモノ  
荒物 糸類(殊ニ綿糸) 油 類 雜菓子 扇子團扇  
小間物

ロ、仕入ハ現金ニテ販賣ハ現金又ハ掛賣ノモノ  
米 雜穀

ハ、仕入ハ延買ニテ販賣ハ現金ノモノ

紙商 玩具 木材

ニ、仕入ハ延買ニテ販賣ハ掛賣又ハ現金ノモノ

酒 莫大小 織物 薪炭 帽子  
洋反物

四、金繰 金繰ニ就テハ同一ニ之ヲ論ズル能ハズト雖、要スルニ本題ニ屬スル小商人ノ如キハ商品ノ性質上ニ於テハ、之ヲ以テ金融ヲ行ヒ得ベキモノナキニアラザレドモ、比較的資本少ナキト、商品ノ手持チ薄キトハ、商品ヲ以テ融通ヲ行フガ如キハ極メテ稀ニ見ル處ニシテ、一般ニハ商品ノ買入ニ際シ、其支拂ヲ一定ノ期間繰延ベタル上、之ヲ現金又ハ月末拂ニテ販賣シ、其間ノ餘裕ヲ以テ其營業ヲ支持連轉スルモノ多キガ如シ。尙各種商業ニ付キ以下説述セバ

### 第一項 吳服太物商

一仕入 名古屋市ニ於テ需要セラルベキ、吳服太物ハ關東、關西及當地ノ三方面ヨリ供給ヲ受クルモノトス。就中資力豊富ナル小賣店ニ於テハ直接原產地ノ供給ヲ受クルモノアルモ、小商人ノ販賣ニ屬スルモノハ殆ド市内卸商ヨリノ仕入ニカ、レリ。

一販賣 現金及掛賣ノ二種アリ。即チ店頭ノ賣買ハ現金賣ニシテ、掛賣ハ出賣ニ多ク月末ニ於テ精算セラレ、ヲ普通トス。

一資産及營業資金 營業資金ノ多クハ最初主家ノ分配資金及勤勞中ノ貯蓄等ニヨルト雖、開店後ニ於テハ信用上ヨリ生ズル商品ノ貸借等モ資本ノ一部ト認ムルコトヲ得ベク、今假リニ最低資本ヲ以テ開業セント欲セバ、七百圓ノ限度ニ於テ僅カニ太物商トシテ營業シ得ルニ過ギザルベク、吳服商タラムト欲セバ少ナクモ貳千圓ヲ準備セザルベカラズ。

一融通方法 相當ノ商品ヲ有スルモノニ於テハ倉庫會社ニ託シテ、銀行ヨリ融通ヲ仰グモノアレドモ、小

商人ニ於テハ倉庫、銀行ヲ利用スルコトナク、多クハ質屋或ハ金貸業者ヨリ融通ヲ受ク。保證、期限、利息、返済方法等ニ就テハ一様ニ論斷シ能ハズト雖、要スルニ小商人ニ屬スルモノニ於テハ融通方法極メテ不備ニシテ、金繰ニ苦シミツ、アルモノ多シ。

仕入ノ際、手形ノ授受行ハレザルニアラザレドモ、之レ比較的大商店ノ取引ニシテ、小商人ノ間最初ヨリ手形ヲ使用スル如キハ稀ナリ。

一利益及生計状態　小賣商ノ得ル利益ハ、商品ノ種類ニヨリ、又時ト場合トニヨリ等シカラズ。毛織物類ノ如キ、其利益僅カニ五六分ニ過ギズト雖、絹物ハ三割五六分、木綿ハ一割四五分ノ間ニアリテ、之ヲ平均セバ二割五六分ノ上ニ出デズ。

一戦亂ノ影響　歐洲戦亂勃發當時ニ於テハ一時不況ニ陥リタルモ、大正四年ヨリ大正五年ニ入りテハ當市ノ吳服太物界ハ需要者一般ニ購買力ヲ増加シ來リ、大正四年冬物界ハ近來ニナキ活況ヲ呈セリ。コレ當地方ハ歐洲戦亂ノ影響ヲ受ケ産業界賑殷ヲ告ゲ、一般景氣ノ好良ナリシニヨルモノト曰ハザルベカラズ。

## 第二項　小間物化粧品

一仕入　當地ニ販賣セラル、モノハ東西兩市場ノ商店ニヨリ取扱ハル、モノ多ク、該品ハ當地ノ卸商ニ販賣セラレ、小商人ハ市内卸商ヨリ供給ヲ受クルモノ多シ。故ニ當地ノ小賣店トシテハ、東西兩都ニ直接取引ヲ行フモノ殆ドナク、卸商ノ手ヲ待テ仕入ヲナスヲ普通トス。

一販賣　主トシテ現金ヲ以テ賣捌カル、モ、掛賣亦尠ナカラズ。即チ花柳界ヲ得意トスルモノニ於テハ現

金及掛賣相半シ、掛賣ニハ店頭販賣ト出賣トノ二アリテ、出賣ニ於テ掛賣多ク行ハル。

一資産及營業資金　本業ノ如ク營業資金ニ高低ノ差アルモノ少ナク、一箇ノ櫛、簪ノ如キニシテ數千圓ヲ要スルモノアリ。又同名稱ノ下ニ僅カニ壹錢、貳錢ノ廉價ナルモノアリ。從テ資金ニ於テモ其種類ニ依リテ非常ナル懸隔アルヲ免レズ。最初コノ營業ヲ希望スルモノアレバ、風呂敷一枚ニ組重一箇ヲ用意シ、若干ノ商品ヲ需メテ戸毎ニ販賣セバ、雨露ヲ凌グノ資ヲ得テ自活スルニ足ルベク、又店舗ヲ求メテ開店セント欲セバ、敷金及權利等ニ資金ヲ要スルノ外少ナクモ貳百圓ヨリ五百圓程度ノ開業資金ヲ用意セザルベカラズ。

一融通方法　本業トシテ殊ニ融通ノ道アルニアラズ、資金ノ必要アルニ於テハ、他ト全ジク、貸金業者或ハ主家等ヨリ融通ヲ受クルモノトス。

一利益及生計状態　本業ノ如ク種類多キハ稀ニシテ、利益ノ點ニ於テモ同率ヲ以テ論ズル能ハズト雖、概シテ之ヲ云ヘバ、其名一般ニ周知セラレ、且流行シ居ル商品、例令バ「クラフ白粉」又ハ「ライオン齒磨」ノ如キハ寧ロ小賣店ガ、原價以下ニ販賣シテ之ヲ顧客吸引ノ策ニ供スルモノアリ。要スルニ本業ノ總收益ハ三割ヨリ四割ノ間ニアルモノ多ク、比較的破損シ易キ商品ノ性質ヨリ目減等ヲ輕減セバ其純益ハ平均二割五分内外ト見テ大差ナキガ如シ。生計状態ハ階級ニ依リ差異アルヲ免レザルモ相當收益アルモノ、如シ。

一戦亂ノ影響　商品ノ性質トシテ外國ヨリノ輸入ニ待ツモノ尠ナカラズト雖、名古屋方面ニ於ケル需要ハ比較的内地品ニ多キヲ以テ、戦争ノ影響ヲ蒙ルコト比較的尠ナク、大正四年ニ入り、名古屋市ニ於ケル需要ノ模様ハ前年度ニ比シ一般ニ好況ニアルモノ、如シ。之レ歐洲ノ戦亂影響ガ養蠶家ノ收益ヲ増シ、一般

ニ農村ニ於ケル購買力ノ増進セルニ原因セズンバアラズト雖モ、亦株式相場騰貴ノ結果、都會地ニ於テモ需要一層劇増シ、好況ヲ加ヘタルハ逸スベカラザル事實ナリ。

### 第三項 帽子 子 商

一仕入 本業ハ帽子業トシテ獨立シ居ルモノト、洋物店ノ一部トシテ兼業セラル、モノトノ二種ニ分ル。當市ニ需要多キ帽子ノ種類ハ伊太利、英吉利、東京、濱松、大阪等ノ製造品ニシテ、戰亂ノ結果ハ歐洲物ノ輸入減少シ、殊ニ昨年末極メテ品薄ニ陥リタル爲メ一層内地品ノ需要ヲ増加シ、昨年ノ如キ和製中折、鳥打等ノ需要一層増大セリ。而シテ本市ニ於ケル小賣店ハ直接ニ以上ノ各原産地ヨリ供給ヲ仰グモノニアラズ、一度當市卸商ノ手ニ於テ仕譯セラレ、次テ小賣店ヨリ一般需要者ニ入ルノ順序ナレバ、小賣商ハ市内卸商ヨリ供給ヲ受ケテ販賣スルモノナリ。

一販賣 販賣方法ハ殆ド現金制度ニ限ラル、モ、唯ダ數年來ノ顧客或ハ會社、銀行、諸官衙等ノ如キ向ニ對シテハ、月末拂ヲ限度トシタル掛賣ヲナスモノトス。

一資産及營業資金 東京ニ於テハ數十種ノ帽子ヲ小間物商ノ出賣ノ如ク行商スルモノアレドモ、當地ノ營業ハ一家ヲ構フルカ或ハ洋物店ノ兼業トシ、從テ其要スル所ノ資金モ比較的多額ナルガ如シ。

一融通方法 商品ヲ以テ金融ヲ計ルモノナキニアラザルモ、之レ極メテ稀ニ見ル處ニシテ、銀行其他金融業者ハ専門的智識ヲ有セザルト其商品ノ撰別ニ苦シムトニヨリテ、一般ニハ商品ノ融通取引行ハレズ。一利益及生計狀態 小賣業者ノ得ル利益ハ二割ヨリ三割ノ間ニアルモノ多シ。

一戰亂ノ影響 戰亂ノ結果ハ内地物ノ需要ヲ増加シタルガ、昨年ノ好況ハ戰亂ノ爲メト蠶業界ノ繁榮ニ基因スルモノ、如ク、名古屋市ニ於ケル商品ノ需要ガ信州方面ニ多キヲ見ルモ即チ之ガ爲メナリ。

### 第四項 洋 服 商

一仕入 當地ニ於ケル洋服業者ノ多クハ、無地物ハ店頭ノ粧飾トシテ所有スルモノ多キモ、縞物ニ於テハ手持チ極メテ少ナク、顧客ノ注文ニ從テ其都度切地商ヨリ供給ヲ仰ゲリ。

一販賣 販賣ハ殆ド掛賣ニシテ、多クハ月末拂、又ハ給料日拂等ヲ常トス。殊ニ當地ニ於ケル一般ノ習慣トシテ、顧客モ洋服代金ハ必ズ掛拂タルベキモノトシ、其結果、轉任其他長期間ニ於ケル貸倒レモアルベケレバ、一般ニ顧客ハ之ヨリ生ズル損害ノ幾分ヲ比較的高價ニ負擔セシメラル。

一資産及營業資金 洋服業者ノ開業ニ際シ要スベキ資本ハ、羅紗、道具及店舗ニ要スル設備等ニアルベシト雖、簡單ナル開業ヲ欲セバ、本業ハ尤モ薄資ニテ足レリ。即チ間借ノ方法ニヨリ之ヲ店舗トシ、「*ミシン*」(尤モ簡單ナルモノハ「*シンガミシン*」)ノ月賦販賣ニ依ル)一臺ト缺一箇トヲ所有セバ、卸屋ヨリ無料ニテ得タル見本ヲ持參シ、顧客間ヲ往復シ、注文ヲ受ケ得ル便宜アリ。即チ客ノ注文アルニ從テ内金ヲ請求シ之ヲ以テ卸商(切地屋)ニ原料ノ内拂ヲナスニ於テハ、職業トシテ裕ニ生活スルヲ得ベシ。故ニ本業ハ裁縫ニ經驗ヲ有セバ、比較的簡易ナル方法ニヨリ經營セラル、モ、亦原料ノ多數ヲ店頭ニ粧飾スルモノ、如キニ至リテハ、一ト巻數百金ヲ要スルモノアルヲ以テ、均シク洋服業者ト云フモ、其ノ間自ラ軒輕アルヲ免レズ。

一 融通方法 多數ノ商品ヲ有スルモノニ於テハ、之ヲ擔保トシテ融通ヲ受クルヲ得ベキモ、商品ノ貯藏ナク、主人自ラ仕立ニ從事スル如キ階級ノモノニ於テハ原料商ニ對スル支拂ヲ繰延べ、或ハ客ヨリ前借リ(手附)或ハ内金等ノ方法ニヨルノ外、一般金貸業者等ヨリ融通ヲ受クルニ過ギズ。

一 利益及生計状態 本業ニ於ケル利益ハ職工トシテノ手間賃及切地ヨリ生ズル、利益ノ二ツヲ數ヘザルベカラズ。即チ當地ニ於ケル、本業ニ就テハ普通切地代トシテ二割、裁縫代參圓程度ニ於テスベキ筈ナレドモ、其實洋服業者ハ一般貸倒レヲ見込ミ、切地代裁縫賃ノ外、一割程度ノ高値ニテ賣却スル習慣アリ。故ニ實際切地代トシテ、顧客ハ原價三割ヲ支拂フモ、洋服業者ヨリ見テハ、平均二割ヨリ二割五分ニ過ギズ。故ニ本業ガ比較的利益多キガ如キ感アルモ、其實貸倒レ等ノ爲メ一般ノ商業ト其利益異ナル處ナシ。從テ生活状態ニ於テモ大同小異ナリ。

一 戰亂ノ影響 戰亂ノ影響ハ本業ニ對シテハ、最モ多ク英國ノ製造輸入ニヨリタル羅紗地ハ殆ンド輸入杜絶シ、就中無地物ハ其需要多キダケ品不足甚シク、縞物ニ比シテ一割以上ノ高値ニアリ。

### 第五項 糸 類

一 仕入 日用品ニシテ各家庭ニ缺クベカラザルモノナリ。名古屋市ニ於テハ、卸商ヨリ直接小賣商ニ供給セラル。

一 販賣 殆ンド現金取引ノミナリ。

一 資産及營業資金 小賣業者トシテ、殊ニ小商人ニ於テハ副業的ニ經營スルモノ多ク、此等ハ比較的小資本ヲ以テ營業スルコトヲ得ベシ。

一 融通方法 資金ノ融通及金融ノ方法トシテハ一定ノ荷物ヲ有スルモノニ於テハ、銀行其他ヨリ融通ヲ受クル便宜アレドモ、薄資ノモノニ於テハ殆ンド其道ナク、殊ニ本業ハ利益極メテ少ナキガ故ニ、卸屋トノ取引モ現金拂ニシテ、其間融通ノ便宜ヲ缺キ、總テ資本ノ程度ニ從テ仕入ヲナスノ外ナシ。

一 利益 販賣利益ハ殆ンド一定ノ率アルニアラズ、常ニ日毎ノ相場ニ左右セラル、モ、概シテ二、三割ノ利益ハ擧ゲ居ルモノ、如シ。

一 戰亂ノ影響 一般ニ材料染料ノ騰貴ニヨリ賣行面白カラズ。

### 第六項 砂 糖 商

一 仕入 名古屋市ニ於ケル需要ハ全部當市卸商ノ供給ニ係ル。

一 販賣 現金賣ト掛賣トアリ。現金賣ハ店頭ニ於テ、一般ノ顧客ヲ相手トシ、掛賣ハ菓子屋、飴屋等ノ如ク、多量ニ需要セラル、向ニ限リ、月末勘定ヲ以テ精算セラル。

一 資産及營業資金 本業ハ比較的多額ノ資本ヲ要シ、相場ノ動搖甚シキヲ以テ、其經營困難ナリト雖、日用品トシテ各家庭ニ需要アレバ、市中之ガ營業ニ從事スルモノ少カラズ。最初專業トシテ開業スルニハ、少ナクモ貳千圓ノ資金ヲ要シ、現在ノ營業者ヲ見ルニ、比較的資本豊カナルモノ多キヲ占ム。

一 融通方法 資金潤澤ニシテ、常ニ商品ヲ蓄積シ居ルモノニ於テハ、直チニ銀行ヨリ融通ヲ受クルノ便宜アリト雖、常ニ手許薄ヲ訴フル小商人間ニ於テハ、融通方法トシテ、一般ノ習慣タル月末拂勘定ノ猶豫ヲ

乞ヒ、或ハ他ノ方面ニ之ガ融通ヲ求ム。

一利益及生計狀態 砂糖商ハ、比較的高等ナル生活ヲナシ、社會ノ上流ヲ以テ任ズル傾向アルハ、之レ砂糖界ノ活躍ニヨリ生ズル利益多キコトアルニ因ルモノナルガ、小賣業者トシテハ、其收益極メテ微々タルヲ免レズ。即チ今日ノ砂糖商ノ一般トシテハ斤賣及圓賣ニ二大別シテ、斤賣壹錢五厘（一斤ニ付）、圓賣五厘ノ利益ヲ得ルニ過ギズ。斤量ヲ以テ賣買スル、コノ種營業ニ於テハ常ニ加重ノ計量ヲナシ、爲ニ收益ヲ減殺セラル、コトアリ。

一戰亂ノ影響 從來英國ハ國內ノ需要ヲ己レノ領土内及獨逸方面ニ需メ來リタルモ、戰亂ノ影響ヲ受ケテ此等ヨリノ供給不可能トナルヤ、東洋方面ニ向ケ其買入レノ手ヲ擴メ來リタル結果、世界ノ砂糖相場ハ戰亂後何レモ暴騰シ、今日ニ於テハ戰前ニ比シテ、四割方ノ騰貴ヲ表ハスニ至レリ。翻テ我邦ノ狀勢ヲ見ルニ、從來國內ノ需要ハ、臺灣及外國ノ輸入ニ依リシガ、大正三年ヨリ生産地ニ於ケル生産額増大シタルニモ拘ラズ、前述ノ世界砂糖界ノ變動ニ從テ、我國モ活況ヲ呈シ、大正四年ノ如キハ戰亂ノ影響ヲ受クルコト最モ著シキモノアリタリ。

### 第七項 魚鳥五十集

一仕入 市中ノ問屋ヨリ供給ヲ受クルヲ常トシ、小賣業者ニシテ直接漁業家ヨリ買受クルモノナシ。

一販賣 販賣ハ月末拂多ク、現金拂ノモノ尠ナシ。

一資産及營業資金 小賣業者ノ資産トシテハ、小ナルモノハ釣籠ニ己レノ資産（魚類）ヲ積載シテ、生計ヲ

ナスモノ、或ハ店頭ニ陳列シテ顧客ノ來ルヲ待ツモノ等アリ。店頭賣買ノモノニ於テハ、營業用トシテ賣臺、盤臺、出シ半切桶、蒸籠等ノ必要アルベク、此等直接營業用品トシテノ外ハ、家屋ニ對スル敷金、其他ノ設備ニ屬スルモノニシテ、魚鳥五十集業直接ノ營業用品トシテハ數十金ヲ要スルニ過ギザルナリ。

一融通方法 商品ヲ質入シテ金融ヲ計ル如キハ、本品ノ性質上不可能ニシテ、只親方（即チ仲買小座）トノ間ニ延取引行ハル、ニ過ギズ。即チ翌月五日或ハ七日ヲ以テ元方ニ支拂ヲナスヲ唯一ノ融通法トシ、顧客ヨリ月末ノ取立テヲ以テ之ヲ決濟シ得ルナリ。其他本業ニ限リ南區熱田ニ魚鳥業者ニ對スル信用組合（信用組合ノ項參照）アリテ一種ノ金融機關ヲ形成セリ。

一利益及生計狀態 本業ノ如ク、販賣上ノ敏活ヲ要スルモノハ稀ナルヲ以テ、其利益一定セズ、時ニ買入値段以下ニ賣捌カル、コトナキニアラズト雖、先ヅ標準トシテハ、二割ヨリ三割ノ間ニアリ。生計狀態ニ於テハ上下ノ差異甚シキモノアルガ如シ。

一戰亂ノ影響 差シタルモノナシ。

### 第八項 藥種及賣藥業

一仕入 問屋ハ各地製造元ヨリ供給ヲ受ケ、當地ノ小賣店ハ、此等問屋ヨリ仕入ヲナス。問屋ノ店頭ニ於テナスモノト、問屋自ラ出張販賣スルモノトアリ。

一販賣 販賣ハ全部現金ナリ。

一資産及營業資金 比較的輕微ナル資金ニテ、營業ヲナシ得ルモノ、如ク、四五拾圓ヲ商品ニ投セバ、ふ

らく(布帛ノ廣告ニシテ *Publicity* ノ意味ナラム)看板等ハ製造本舗ヨリ無料供給セラル。  
他ノ營業ニ比シテ開業上便宜多シ。

七〇

一融通方法 取引上一般ニ行ハル、融通トシテハ、其仕入ヲ延勘定トナスモノ、外行ハレザルガ如ク、資金ノ必要ニ迫レバ、他ノ方法ニヨリ金融ヲ計ルモノトス。

一利益及生計状態 賣藥ハ定價ノ五掛或ハ八掛ヲ以テ仕入ヲナシ、小賣店ノ受クル利益ハ二割乃至五割ニシテ、藥種ハ時價ヲ以テ仕入レ、五割乃至十割ヲ以テ販賣セラル。相當賣行ヲ見ルニ於テハ、生計上困難ナラサルベキモ、同業多數ナル爲メ収益意ノ如クナラズ、藥劑師ヲ兼ヌルモノハ調劑ニ於テ相當利益ヲ擧ゲ居ルモノ、如シ。

一戰亂ノ影響 從來原料ヲ外邦ニ仰ゲル本業ノ如キハ、尤モ歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケタルコト甚シク、殊ニ獨逸ヨリ供給ヲ得タルモノ、如キハ開戦ト共ニ非常ナル大打撃ヲ蒙リ、爲ニ價格ハ暴騰ニ次クニ暴騰ヲ以テシ、彼ノ最モ需要多キ「アスピリン」ノ如キハ、戰前ニ比シ、一時三十倍ノ騰貴ヲ見タルガ如キハ、實ニ前古未曾有ト曰ハザルベカラズ。而シテ此等ノ一時的現象ハ、今日ニテハ稍緩和セラレタル傾アレドモ、未ダ戰前ノ安値ニ比セバ、十四五倍ノ高値ニアルハ全ク輸入杜絶ノ結果ナリトス。斯ノ如ク原料藥品ノ輸入杜絶ハ、賣藥業者ニモ其影響少ナカラズ、爲ニ賣藥製造業者ノ如キハ從來ノ製造方法ヲ改メ、或ハ價格ヲ訂正シ、以テ一時ノ苦痛ヲ凌ギツ、アリ。然レドモ小賣業者ノ立場ヨリセバ、以上ノ如ク價格ノ騰貴アリタルニ拘ラズ、賣行ノ比較的變化ナキハ稍意ヲ安ズルニ足ルベシト雖、只一般ニ原料高ノ爲ニ仕入價格ノ騰貴シタルニ困難ヲ感ゼルガ如シ。

## 第九項 茶 業

一仕入 ハ主トシテ山城宇治方面ノ製造家或ハ仲買ヨリスルモノ多ク、伊勢菰野方面ヨリモ幾分ノ供給アリ。而シテ以上原産地タル宇治地方ニ直接仕入ヲ行フハ大商人ニシテ、小賣商ノ多クハ、市内ノ大店ヨリ仕入ヲナスモノ、如ク、其代金決済方面ニ就テハ、別項(原料ノ貸借ノ部参照)ニ記シタル如ク、延拂ヲ普通トセリ。

一販賣 多クハ現金賣ナルモ、料理店其他多額ノ消費アル需要家ニ向ツテハ、幾分ノ貸賣ヲ免レズ、某店ノ如キハ月末取立ノ貸賣ニ屬スルモノ六分、現金賣四分アリト稱スルニ見バ、若干ノ貸賣ヲ免レザレドモ升半商店ノ如キハ、絶對現金主義ヲ實行シ、名古屋市需要ノ約八分ヲ供給シ居ルト曰フニ於テハ、本業ハ絶對現金制度ノ實行不可能ニアラザルナリ。

一資産及營業資金 當地ニ於ケル本業ハ專業トシテ其數極メテ尠ナク、升半ノ外一、二ノ商店ヲ除キテハ、他ハ副業トシテ小規模ニ經營スルノミ。

本業ニ於ケル開業準備トシテハ店舗ノ外、茶壺、秤、茶臼ノ用意アレバ、商品ヲ求メテ開業シ得ベク、比較的固定資本ヲ要セザルモ、商品ニ就テハ相當貯藏上ノ智識ヲ要シ、全クノ素人ニテハ開業スル能ハズ。

一融通方法 商品トシテハ、相當價格ヲ有スルヲ以テ、他地方ニ於テハ商品ヲ藏入シ、借入ヲナスモノアレドモ、當地ニテハ、斯ノ如キコト行ハレズ、製造家トノ間ニ於ケル延勘定ヲ以テ唯一ノ融通方法トナセルモノ、如シ。

一利益及生計状態 利益ハ一割半ヨリ二割ノ間ニ在リ。比較的利得少ナキモ、日用品トシテ賣足早キヲ以テ、多額ノ賣上ゲアル商店ニ於テハ生活極メテ安樂ナリ。

一戦亂ノ影響 我邦ノ茶業ニ就テハ、多少ノ影響アレドモ、當地ノ如キ小規模ノ小賣店ヲ有スル地方ニ於テハ格別ノ影響ナシ。

### 第十項 荒物 商

一仕入 當地卸商ヨリ供給ヲ受クルモノニテ、代金ノ決済ハ主トシテ現金ナリ。

一販賣 ハ現金取引ナルモ、例外トシテ月末勘定ナキニアラズ。

一資産及營業資金 比較的資金ヲ要セズ、最小ナルモノハ、朝ニ卸商ヨリ信用ニテ商品ノ借入ヲナシ、夕ニ至リ賣上金ヲ以テ決済ヲナスモノアレドモ、此種ノモノハ獨立シタル商人ト云フニ適セズ、一般ニハ百五十拾圓ヨリ貳百圓ノ最少資本金ヲ要シ、資産トシテハ、卸商ノ階級ニ屬スルモノニアリテハ、大抵家屋ヲ有シ、土地、財産ヲ有スルモノナキニアラズト雖、小業者トシテハ借家人多シ。

一融通方法 商品ヲ以テ融通スルコト能ハズ、普通ノ貸借ニヨル外道ナキガ如シ。

一利益及生計状態 利益ハ一割以上二割ノ間ニアレドモ、平均セバ一割五分ノ標準ナルガ如シ。從テ相應賣行ヲ見ルニアラザレバ、生計ノ維持ニ困難ナルモノ多シ。

一戦亂ノ影響 一見本業ノ如キハ、歐洲戦亂ノ影響ナキガ如キモ、實ハ間接ノ影響ヲ受ケ、戦前ニ比セバ二割方ノ價格騰貴ヲ見タリ。即チ其原因ハ材料及手間賃ノ騰貴ニ在リ。例ヘバ手間賃ノ如キハ戦前ニ比シ

テ一割乃至二割ノ騰貴タルニ拘ラズ、木材ノ運賃ノ如キ、或ハ金物相場ノ騰貴シテ櫃類ノ昂上シタル如キ是レナリ。

### 第十一項 米 穀 商

一仕入 ハ在方ノ農家及仲買ヨリ主トシテ現金買ヲ爲ス。

名古屋市ニ於ケル小商人、殊ニ小賣商ニ於テハ、近來動力ノ比較的安價ニ得ラル、ノ結果、玄米ニテ仕入レ來リテ搗上ゲヲナシ、需要者ニ販賣スルモノ多ク、白米ヲ取引販賣スルモノハ絶無ナリト稱シ得ベシ。

一販賣 ハ現金少ナク、掛勘定多シ。即チ月末ニ至リ一ヶ月間ノ仕送りヲ取立ツルコト各地ト異ナル處ナシ。

一資産及營業資金 本業ノ如ク相場ノ高低アルモノニ於テハ、比較的資産ノ増大ヲ期シ得ルヲ以テ、割合ニ富裕ナルモノアレドモ、之レ日常ノ業務ニヨルニアラズ。價格ノ變動ニ偶僥倖ヲ博スルノミ。資本ハ他ニ比シテ多額ヲ要スルヲ以テ、一定ノ資金ヲ有スルニアラザレバ開業スルヲ得ズ。

一融通方法 融通方法トシテハ藏入レ擔保等最モ便宜ニ取扱ハレ、融通極メテ容易ナルモ、之レ比較的有福ナル商人ノナス處ニシテ、小商人ニ於テハ他ト異ナルコトナシ。

一利益及生計状態 本業ハ他ノ業者ノ如ク、原價ノ幾割ヲ利スルガ如キ一定ノ標準アルニ在ラズ、公定相場ハ常ニ新聞紙上ニ發表セラル、ヲ以テ、之ニヨリ相場ノ變動ニヨル利益ノ外一般トシテ、二合利益ト云フヲ原則トセリ。然レドモ自ラ搗上ヲ爲スモノニ於テハ、其賃金及糠ヲ利得スルヲ普通トス。資力アル



モノヲ除キ小商人側ハ賣掛多キ爲メ資金ノ運轉ニ困難セルモノ多キガ如シ。  
一 戦亂ノ影響 ナシ。

## 第十二項 文房具

一 仕入 名古屋市ニ於テ需要セラル、文房具ハ、東京、大阪及當地製ノモノニシテ、其割合ハ東京六分、大阪三分、名古屋一分ノ割合ナリ。以上ノ商品ハ何レモ問屋即チ卸商ノ手ニ於テ、當地小賣商ニ供給セラレ。從テ小賣商トシテハ生産者ト直接取引スルモノナク、全部卸商ノ手ニ俟ツ有様ナリ。仕入ノ方法ハ月末勘定アリ、或ハ月餘ニ及ブモノアリ、長期ノモノニ於テハ手形ノ授受セラレ、コトアリ、從テ小賣商ハ其間現品ノ融通ヲ受ケ得ル便宜ヲ有ス。而シテ卸店ノ販賣方法ハ出張販賣ヲ主トス。

一 販賣 主トシテ小賣店ノ販賣ハ現金ナリ。

一 資産及營業資金 本業ハ比較的小資本ニテ營業ヲ開始シ得ベク、小學校近クニ在ル小ナル文房具店ハ、其要スル資金ハ僅カニ過キズ。

一 融通方法 相當資本ヲ有スルモノニ於テハ、商品ヲ質入シ金融ヲ計ル便宜アレドモ、小商人ハ之ヲ求メテ得ルハズ、多クハ卸商ニ對スル延買ヲ以テ一種ノ融通法トセルモノ、如ク、從テ其期限等ニ就テハ相互ノ契約ニ俟ツヲ以テ一括ニ述ブルヲ得ズト雖、豫メ延拂ヲ期スルニ於テハ、手形ノ授受行ハル、ヲ普通トセリ。

一 利益及生計狀態

之ヲ競争地及無競争地ニ區別セザルベカラズ。即チ一校ノ側文具店二個以上存在スル

場合ニハ競争起リ易ク、從テ其利益ヲ減ジ、時トシテハ原價賣買ヲナスノ已ムヲ得ザルコトアリ。左レド普通利益ハ一割五分ヨリ二割五分ノ間ニアリ、即チ之ヲ平均セバ、約二割ト見テ大差ナカルベシ。  
一 戦亂ノ影響 從來本品ハ供給過多ニ苦シミツ、アリタルモ、歐洲戦亂ノ結果ハ輸入杜絶シ、從來ノ舶來物ト稱スル商品ハ全ク其跡ヲ絶チ、特ニ鉛筆、ペン先ノ如キ金屬製品ニ於テハ何レモ品薄ニ困難スルコト甚ダシ。然レドモ、名古屋市ニ於ケル需給ノ有様ヲ見ルニ、當地ニ於ケル需要ノ大部分ハ從來内地品多キヲ占メタルノ結果、京阪地方ノ如キ困難ヲ感ゼズ。

## 第十三項 玩具

一 仕入 當地ニ需要セラル、玩具ハ東京、大阪及名古屋ノ製品ニシテ、東京製最モ多額ヲ占ム。東京物ハフリキ製品多ク、大阪物ハ紙製品ヲ主トシ、其他ハ當地製品ヲ以テ需要ヲ充シツ、アリ。

仕入方法ハ主トシテ、當地卸店ノ供給ニ俟ツモ、製造家ト直接ノ取引行ハレザルニアラズ。代金決済ハ主トシテ現金拂ニヨレリ。

一 販賣 ハ普通現金ナリ。

一 資産及營業資金 資本小ニシテ路傍ニ販賣スルモノニ於テハ五圓乃至拾圓ヲ以テ足ルベシト雖、稍規模ヲ大ニシ、一戸ノ店舗ヲ有スルモノニ於テハ、二三百圓ノ投資ヲ爲スヲ普通トセリ。

當地ハ一般ニ生活程度低ク、數年前迄ハ一ケニ付キ四五拾錢ノ玩具ヲ求ムルモノヲ見ザル有様ナリシガ、近時生活ノ向上ト他地方人等ノ増加トノ結果ハ、上等品ノ需要ヲ増加セリ。

從來當地ノ玩具店ハ一種ノ副業タルニ止マリ、生活上其利益ニ重キヲ置カズ、玩具商店トシテハ之ヲ以テ生活ノ資料トナシ能ハザルモノトシ、爲ニ專業ヲ見ルニ至ラザルモノナリ。

一融通方法 特殊ナル融通方法ナシ。

一利益及生計状態 利益ハ三割ヨリ四割ノ間ニアリト雖、商品ノ性質上破損シ易ク、ソノ損害ヲ見積ル時ハ、利益ハ二割四五分ト見テ可ナルモノ、如シ。

生計状態ニ付テハ前述シタル如ク、專業トシテハ生計困難ナリ。

一戦亂ノ影響

從來本品ハ獨逸ガ印度ヨリ支那方面ニ懸ケ、東洋ニ向ツテ多大ナル輸出ヲナシタルガ、戰亂ノ爲メ貿易中止ノ有様ニアルハ人ノ知ル處ナルモ、戰亂ノ結果ハ從來獨逸ノ市場トシタル、東洋及米國方面ニ我邦ノ需要ヲ劇増シ、玩具貿易ノ盛況ヲ見タリ。内地モ亦之ト揆フ一ニシ、其需要ヲ増加セリ。

名古屋方面ニ於ケル模様ニ付テモ、從來家内工業トシテ製造セラレタル玩具ハ、一方ニ於テ紡績、織物等ノ盛況ニ會シテ、女工ヲ該方面ニ吸收セラレ、製造力ノ減少ヲ來シタルト共ニ、他方ニ於テ蠶業界好況ノ爲メ、一般購買力ノ増加ニヨリ一層玩具ノ需要ヲ増加シタルモノ、如シ。(大正五、九、調)

#### 第十四項 酒 商

一仕入 當地ニ輸入セラル、和酒ハ、灘及中國物ト稱スル、知多郡産及當地産ニシテ、名古屋市ニ於ケル消費高年額十萬石ト稱セラレ、其中八萬石ハ灘ノ供給ニ係ルモノナリ。仕入ハ交通發達セル今日ニ於テハ取引極メテ便利ニシテ、朝ニ品物ノ缺乏ヲ訴フルトモ、夕ニ灘ノ商品ヲ直接求メ得ラル、ノ便宜アリ。然

レドモ之レ大資本ヲ有スル有力側ノナス處ニシテ、一般小賣業者ハ當他ノ問屋ト稱スル卸商ヨリノ供給ヲ受クルモノ多ク、最初ハ現金取引ナレドモ、一二回ノ後ニハ掛買ヲ普通トセリ。殊ニ近來競争ノ結果ハ、知多方面ノ如ク、當市ニ近接スル地方ハ、直接小賣業者ト取引ヲ行フモノアリ。之レ問屋ノ手ヲ經ザルヲ以テ其手数料ヲ減ジ得ル利益アルモ、畢竟競争ノ結果ニ由ルモノト曰ハザルベカラズ。

一販賣 ハ現金ニヨルコト少ナク、多クハ掛賣ナルコト多シ。即チ小賣商ハ日々顧客間ノ注文ヲ聞キテ、品物ノ配達ヲナスヲ本業ノ特質トセリ。

一資産及營業資金 本業ハ資本薄ク、資金豊ナラズシテ營業シ得ルノ便宜アリ。某營業者ノ計算ニヨレバ資金五拾圓ヲ有セバ三樽ノ商品ヲ仕入レテ充分顧客ノ希望ニ應ジ得ベク、店頭ノ設備其他ニ尙五拾圓ヲ費セバ、一店舗トシテ經營シ、妻子ヲ擁シテ生活スルヲ得ベシト云フ。

特ニ多量ノ商品ヲ店頭ニ陳列スル如キハ腐敗ノ恐レアリテ、却テ善良ノ策ニアラズ。爲ニ多クハ飾樽ト稱シテ、空樽ヲ店頭ニ飾ルモノ多シ。

一融通方法 トシテハ本業ニ對スル特殊ノ方法アルヲ聞カズ。小商人等ニ於テ融通ヲ圖ラムト欲セバ、問屋ニ對スル延拂ニアリト曰ハザルベカラズ。而シテ仕入及販賣ニ於テ手形ノ授受ハ行ハレザルヲ通常トス。一利益及生計状態 本業ニ於テハ賣先掛勘定ナルガ爲メ、常ニ若干ノ貸倒レアルヲ免レズ。

故ニ本業ニ於テハ一ケ年ヲ通ジテ、八掛ノ取上ゲヲ得バ損失ナキノ計算標準ニヨルヲ小賣人ノ慣習トセリ。斯ノ如ク比較的小資本ヲ以テ開業シ得ベキ本業ハ、一日五圓乃至六圓ノ賣上ゲヲナスニ於テハ、妻子ヲ養ヒ得ルベキヲ以テ本業ノ經營ハ極メテ簡易ナリ。而シテ利益ハ普通一割五分ヨリ二割ノ間ニアリト雖、各

店ニ於ケル上酒下酒ノ調合行ハルヲ一般トシ、此間ニ於ケル利益ハ各店差等アルベク、先ヅ標準ヲ以上ニ置キテ推知シ得ベキナリ。

一 戦亂ノ影響　ハ茲ニ述ブベキ程ノ影響モナク、只防腐劑タル「サルチルサン」ノ輸入ニ及ボシタル影響ヲ以テ、其一現象ト認ムベキナリ。

## 第十五項 薪 炭 商

一 仕入　當市ニ於ケル薪炭ノ消費年額ハ百萬圓内外ニシテ、原產地トシテハ伊勢、美濃、北陸、紀州地方等ヲ主ナルモノトス。小賣業者ハ此等ノ産地ト直接取引ヲ行フモノナク、市内ノ卸商ヨリ仕入ヲナスヲ常トシ、代金ノ決済ハ現金拂ヲ標榜スルモ、實際ニ於テハ掛勘定ヲ行フ。

一 販賣　ハ月末勘定ニ限ラレタルモノ、如シ。

一 資産及營業資金　本業ノ商品ハ量積大ナルヲ以テ、小資本ヲ以テ經營スルコトヲ得。五拾圓乃至百五拾圓ヲ掛クレバ、一箇ノ店舗ヲ構ヘテ小賣商人タリ得ベク、普通資金トシテ貳參百圓ヲ投ゼバ足レリ。

一 融通方法　特殊ノ融通方法ナク、商品ノ質入等モ行ハレズ。

一 利益及生計状態　利益ハ二割ヨリ三割ノ間ニ在リ。生計状態ニ付テハ百萬圓内外ノ資金ヲ投ジテ妻子ヲ養フモノアレドモ、生計ノ如何ハ主人タル經營者ノ努力ニ俟ツモノ多シ。

一 戦亂ノ影響　ニ就テ取調べタルニ、本業ノ卸商ハ一般的智識ヲ缺キ、戦亂ノ影響等ニ就テ考フルモノナク、只本年品薄ノ爲ニ價格ノ騰貴ヲ來シタルニ過ギズト答フルノミナルモ、尙ホ其實際ヲ考フルニ、勿論

品薄ノ原因ニヨリテ昨年度ニ比シ二三割ノ昂上ヲ見タルモ、陶磁器業ノ隆盛ハ燃料ノ需要ヲ増加シ、コノ方面ニヨル需要ノミニテモ、本年度ニ於ケル名古屋市燃料ノ需要増加ハ著シキモノアリ。故ニ本業モ間接ニ戦亂ノ影響ヲ受ケタリト云フヲ得ベシ。

## 第一章 小 工 業 者

本題ノ下ニ於テハ、主トシテ産額ノ多額ナルモノニ標準ヲ置キ、當地重要物産ト認ムベキモノ、内工場制度ニ據ラザル小工業者ニ就テ取調べヲ行ヒタリ。

一 原料仕入又ハ支給　本問題ニ屬スル職業中十四種類ノモノニ就テ研究スルニ、原料ハ問屋或ハ親方ノ供給ニ屬スルモノ多ク、其供給ヲ得ル能ハザルモノニ於テハ現金ヲ得テ原料ノ買入レヲナス、又賃金制度ノモノハ常用(日給)或ハ成分(個數)拂ニシテ、勞務ニ對シ一定ノ賃金ヲ受クルモノトス。

一 販賣又ハ工賃　販賣ハ主トシテ商人タル問屋ノナス處ニシテ、本題ニ於ケル小工業者ノ如キハ、工賃及僅カノ利潤ヲ受クルニ過ギズ。

賃金ニ付テハ、男女工及小供ノ別アリ。時ニ依リ高低ヲ免レズト雖、戦亂後男工ハ凡ソ參拾錢ヨリ壹圓、女工ハ貳拾錢ヨリ五拾錢ノ間ニアルモノ多ク、小兒ニシテ見習中ノモノハ拾錢内外ヲ普通トス。以上ハ工場内ニ於ケル一般支給勞銀ニシテ、工場外所謂老人、小供ノ内職タル家内工業ニ就テハ、何レモ個數支給ノ方法ニシテ、日給ニ換算ヲ試ムルニ拾錢内外ニアリ。

一 資産及營業資金　本調査ノ目的ニ屬スルモノニ於テハ、二三種ノ外資金ヲ要スルコト少ナク、多クハ勞

カヲ以テ報酬ノ重ナルモノトナシ、其外僅カニ請負金ト職工賃金トノ差額ヲ受クルモノ多シ。資産ニ就テハ調査困難ナルガ爲ニ正確ナル數字ヲ擧グル能ハザルヲ恨ミトス。

一 融通方法 トシテハ問屋或ハ親方ノ下ニ從事スルモノニ於テハ、問屋ヨリ原料ノ支給ヲ受ケ、或ハ前金ノ借入ヲナスヲ一種ノ融通トスルニ過ギズシテ、其他金融上ノ困難ヲ感ズルニ於テハ、原料商ニ對シテ代金ノ支拂猶豫ヲナスモノ多シ。

一 利益及生計状態 利益ニ就テハ製品ニヨル利益及加工ニ要スル賃金ノニアルニ過ギズ。製品ノ利益ニ付テハ調査スベキ便宜ナク、賃金ニ就テハ各事業ニヨリ相違アリト雖、當地一般トシテ賃金、男工參拾錢乃至壹圓、女工貳拾錢乃至五拾錢ノ間ニアルモノ、如ク、生活状態ニ付テハ特種ノ技能ヲ有スルモノ、外ハ一般困窮セルモノ多シ。

一 戦亂ノ影響 十四種ノ職業ニ於テ調査スルニ多少ノ影響ヲ受ケザルモノ殆ンド絶無ニシテ、原料ノ如キ少ナクモ一二割、多キハ十割以上ノ騰貴ヲ蒙リタル如キ有様ナリ。工賃ニ於テハ何等ノ影響ヲ蒙ラザルモノアリト雖、多クハ影響ヲ受ケ、何レモ一二割ノ騰貴ヲ表ハセリ。尙以下各職業別ニ狀況ヲ書シ、參照ニ供セムト欲ス。

### 第一項 塗 箸

本業ハ問屋、製造家及塗屋ノ三者ニ分ル。問屋ハ本問題ノ範圍ニアラザルヲ以テ、製造家及塗屋ニ就テ述べンニ、本業ハ名古屋市ノ重要物産トシテ拾貳、參萬圓以上ノ産額アレドモ、企業組織上家内工業ノ範圍ヲ出

ズルコト能ハズ、故ニ殆ド全部小工業者ニ屬スルモノトス。

一 原料仕入又ハ支給 原料ハ竹材及漆ヲ主タルモノトシ、何レモ他地方ノ供給ニ係レリ。即チ竹材ノ九州、漆ノ支那ニヨルハ既ニ人ノ知ル處ナリト雖、製造家ヨリ見テ其原料ノ支給ハ、原産地ノ材料販賣者ヨリ仕入ル、モノト、當地ニ於ケル竹商ヨリ供給ヲ受クルモノトノ二アリ。即チ資金豊富ナルモノハ原産地ヨリ仕入ヲ爲シ、資力少ナキハ當地ニ於テ供給ヲ受ク。其外一層資力薄弱ナル者ニ在テハ、問屋ヨリ原料ノ供給ヲ受クルヲ以テ、之レ殆ンド職工ト相違アルヲ認メズ。即チコノ種ノモノニ於テハ手間賃ヲ收得スルニ過ギザルナリ。

一 販賣及工賃 製造家ノ問屋ニ對スル販賣價格ハ、殆ンド一定シタル標準引取直段アルヲ以テ、製造家ノ利得トシテ數フベキモノハ、手間賃ノ外、材料仕入上ノ巧拙ニ依リ差異アリトス。即チ材料ノ仕入ニ於テ比較的安價ノモノヲ得ンカ、他ノ者ニ比シテ其得ル處大ナリトス。目下ノ工賃左ノ如シ。

百束(一萬膳)ニ付	切割工賃	五拾錢
全	削 賃	貳圓五拾錢
全	塗 賃	八拾錢

工賃ハ工業家ノ屋内ニ於テ從事スル職工ニ對シテハ十五日、晦日ヲ以テ支給セラル、ヲ通常トスト雖、内拂ノ方法行ハレザルニアラズ。職工中往々支拂日ノ來ルヲ俟ツ能ハズ、出來高ニヨリ前拂ヲ受クルモノアリ。

製造家ノ製品ハ問屋ニ販賣ス、問屋ノ製造家ニ對スル支拂方法ハ、二ヶ月延拂ヲ普通トスルヲ以テ、製造

家ハ其間金繰ニ困難ヲ感スルハ勿論ナリ。故ニ製造家ハ此間ノ金融方法トシテ問屋ヨリ内拂ヲ受クルモノ多シ。資力乏シキ製造家ニ於テハ二ヶ月ノ期間ヲ俟ツ能ハズ、爲メニ一般的慣例ヲ打破シ、若干ノ割引ヲナシテ現金或ハ月末拂ノ精算ヲ乞フモノアリ。

#### 一 資産及營業資金

營業者ノ大多數ハ資力薄弱ナルモノナルガ、本業ハ資金ヲ要スルコト比較的尠ナク、僅カニ鋸、削臺、小刀等ノ如キモノヲ、其使用スル職人數丈ケ用意セバ足ルヲ以テ極メテ簡單ナリ。塗屋ニ屬スルモノニ於テハ、之レニ比較シテ尙若干ハ資金ヲ要スベキモ、元ヨリ多額ノモノニアラズ。

#### 一 融通方法

融通機關トシテ特別ノ機關ヲ有セザルヲ以テ、彼等ハ問屋ニ向テ内拂金ヲ請求シ或ハ前借ヲナスノ外、臨時ノ融通方法トシテハ質屋、高利貸等ヲ利用シ、或ハ原料商ニ對シテ代金ノ延期ヲ乞フテ順次遣繰ヲナスモノトス。

#### 一 利益及生計状態

彼等ノ利益トスル所ハ上述ノ如ク殆ド手間賃ニ過ギザルモ、勤勉ナルモノニ於テハ之ノミニテモ裕ニ生活シ得ベシト雖、其他ニ於テハ季節ニヨリ仕事ノ繁閑ヲ免レザルノミナラズ、問屋ノ壓迫ヲ受クルヲ以テ、彼等ハ常ニ困難ヲ感ジツ、アル有様ナリ。

#### 一 戰亂ノ影響

戰亂ノ影響トシテ漆及竹材ノ騰貴ニ對シ一般ニ困難ヲ感ズルモノ、多ク、其騰貴ノ原因ハ船腹不足ノ結果ニ因ルモノナリ。販賣上ニ於テハ一般ノ好況ニ從テ其需要ヲ増加セリ。

## 第二項 玩具

名古屋市ニ於ケル本業ハ、近來長足ノ發達ヲ遂ゲ、從來年産額貳參拾萬圓ノ間ニアリタルモ、歐洲戰亂開始

以來空前ノ活躍ヲナシ、生産額劇増ヲ告ゲ、大正五年ニ於テハ七拾萬圓以上ニ達セリ。

#### 一 原料仕入又ハ支給

本業ハ其種類極メテ多ク、大要左ノ如ク類別シ得ベシ。

##### 一、ブリキ細工製造

##### 二、ネル製品製造(綿製品)

##### 三、紙製品製造

##### 四、木製品製造

以上ノ分業アレドモ、本市ニ於ケル玩具製造業ハ極メテ規模小ニシテ、何レモ家内工業トシテ製造家ハ問屋ニ對シテ賣買ヲナシ、各種家庭ニ於テ副業トシテ從事セルモノ多シ。原料ハ問屋ノ支給ニ待ツモノアレドモ、目下ノ状態トシテ製造家ノ信用極メテ薄弱ナルガ故ニ、問屋ハ原料ノ支給ヲナサ、ル方針ニヨレリ。製造家ニ於テ原料仕入ノ必要ニ會センカ、問屋ヨリ前金或ハ内拂ヲ受クルモノ多シ。

一 販賣及工賃 販賣ハ總テ問屋ニ對シテ行フモノニシテ、其決済方法ハ内金或ハ前金ヲ受ケ、後製品ヲ納入シテ精算ヲ爲スモノトス、而シテ其精算ハ月末ニ於テ行フヲ普通トス。

工賃 本業ハ前述シタル如ク、其種類極メテ多ク、同一木製品ト稱シ或ハ綿製品ト稱スルモ、其數如何ナルヲ知ラズ、殊ニ同一種ニ於テモ、部分的作業ハ各分業ヲ形成スルガ故ニ、同時ニ述ルコト困難ナリト雖、其幼年工ニ於テハ最初拾錢内外ヨリ、進ンデ一職工タルニ至リ、四五拾錢ヨリ七八拾錢ヲ限度トスルモノ多シ。

#### 一 資産及營業資金

概シテ薄資者多キモ、本業ニ於テハ比較的固定資本ヲ要セザルガ故ニ、僅少ノ資金ヲ

以テ從事シ得ルモノトス。而シテ流通資金ハ問屋ヨリ前金或ハ内拂ヲ受クルノ外、原料商ヨリ月末拂ノ約ニテ融通ヲ受クルモノ多シ。

一 融通方法 融通方法トシテハ、前述ノ如ク問屋ヨリ前借或ハ内拂ヲ受ケ、製品納入ノ上精算ヲ行フヲ普通トス。

一 利益及生計状態 資力乏シク金繰上ニ便宜ノ機關ヲ有セザル彼等ハ、常ニ問屋ヨリ前借ノ方法ニ出ルヲ以テ、問屋ヨリ壓迫セラレ、収益減縮シ生計困難ヲ感ズルモノ多シ。

一 戦亂ノ影響 戦亂ノ結果ハ輸出向玩具ノ需要ヲ喚起シ、注文増加セリト雖モ、資力乏シキ製造家ハ、原料騰貴ト同業者ノ劇増トニ會シ、却テ一般ニ困難ニ陥リ居ル模様アリ。

### 第三項 一 閑 張

本業ハ左ノ分業ヨリ成ル。

- 一、生地職
- 二、下地職
- 三、塗師職
- 四、蒔繪職

以上ノ種別アルモ、何レモ問屋ノ下ニアリテ、ソノ支配ヲ蒙リツ、アリ。

一 原料仕入又ハ支給 問屋ヨリ原料ノ支給ヲ受ケ手間賃ニヨルモノト、自ラ資金ヲ以テ材料ヲ買受ケ、製

品ヲ納入シテ其利潤ヲ得ルモノトノ二種アレドモ、何レモ資金ノ流通ヲ問屋ニ受クルヲ以テ、原料ヲ借受クルト、現金ヲ借入レルトノ別ニシテ、結局大差ナキモノナリ。

一 販賣及工賃 販賣ハ總テ問屋ニ向ツテナスヲ以テ、其決済極メテ簡單ナリ。而シテ代金ハ多ク前金或ハ内拂ヲ受ケ、月末ニ至リ精算ヲ行フヲ通常トセリ。而シテ職工ニ對スル工賃ハ、原則トシテ月末拂ナルモ職工中往々工賃ノ内拂ヲ申出ヅルモノアルヲ以テ、カ、ル場合ニ於テハ現金或ハ手形ノ授受行ハル。此種手形ハ或種ノ質屋業者ニ於テ高率ノ割引料ヲ以テ割引ヲ一般トセリ、即チ壹圓ニ對シ一ヶ月貳錢内外ノ割引料ヲ徵スルモノ多シ。今參考ノ爲メ此種工業ニ從來スル職工賃金ヲ、日給ニ換算ヲ試ムルニ凡ソ左ノ如キモノ、如シ。

種 別	日 給 賃 金
生地職	參拾五錢乃至七拾錢
下地職	參拾五錢乃至七拾錢
塗師職	五拾五錢乃至壹圓
蒔繪職	五拾五錢乃至壹圓

以上ノ内生地職ハ、男女ノ他子供モ勞役ニ服シ、子供ノ見習中ノモノニ於テハ拾錢内外ノ所得アリ。

一 資産及營業資金 斯業者ノ大多數ハ薄資者ニシテ、營業資本トシテ必要額ハ、種類ニヨリ相異アルヲ免レズト雖、原料トシテ使用スル重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ。

一 生地職(新聞、日本紙、蕨糊、澁、木型)

一下地職(膠、漆、砥粉)

一塗師職(漆、乾燥室、敷板、定板、刷毛、其他ノ道具)

一蒔繪職(漆、乾燥室、敷板、定板、刷毛、其他)

以上ノ如クシテ、比較的多額ノ資金ヲ要スル塗師職及蒔繪師ノ如キモノニ於テモ、乾燥室ノ貳拾圓内外ヲ大トスルニ過キズシテ、一人一職ニ要スル資金ハ五拾圓内外ニ計量シテ大差ナカルベク。故ニ生地職ノ如キニ於テハ之レ以下ト見ルヲ適當トス。

一融通方法 製品ニ對スル代金ノ決済ハ、月末拂ヲ普通トスルヲ以テ、此間ノ融通トシテハ、職工ニ對シテ月末拂ノ手形ヲ以テ支給スル外、問屋ニ向テ前金或ハ内拂ヲ乞フヲ常トセリ。

一利益及生計狀態 本市ニ於ケル工業ハ規模極メテ小ニシテ、何レモ小工業者ノ部類ニ屬シ、利益トスル處ハ手間賃ヲ出ルコト極メテ僅少ニシテ、殆ンド職人ト同一視スベキモノ多シ。殊ニ戰亂勃發後ノ彼等ハ原料騰貴ノ爲メ一層苦痛ヲ感ジ、困難ノ結果ハ問屋ニ憐ヲ乞フニ至リ、漸次利益ヲ問屋ニ龍斷セテ、傾アリ。殊ニ戰後各材料ハ騰貴ノ一方ナルモ、工賃ハソノ割合ヲ以テ増加セズ、生活費ハ向上スルノミナルニヨリ、一般ニ生活上困難ヲ感ジツ、アル有様ナリ。

一戰亂ノ影響 本業ハ主トシテ紙類、漆及膠ノ如キモノヲ多量ニ使用スルガ故ニ、戰亂ノ影響大ナリト曰ハザルベカラズ。即チ原料ノ種類ニヨリテ相異アルヲ免レズト雖モ、戰前ニ比セバ尙三割乃至五割ノ騰貴ニシテ、之ガ販賣上ニ及ボシタル影響モ尠ナカラズ。販賣價格ハ原料高ノ爲メ、前年ニ比シ一割内外ノ騰貴ヲ來シタルモ、之ガ爲メニ需要ノ減少ヲ認メザルハ、一般社會ノ好況ニ依ルモノト曰ハザルベカラズ。

第四項 莫 大 小 業

本業ハ之レヲ分チテ左ノ二者ニ大別スルコトヲ得。

一編 部

一附 屬 部

編部ニハ釣編部(肌着製造)、横編部(手袋、ジヤケツト、ゴム口製造)、丸編部(靴下製造)等アリ。附屬部ハ之ヲ起毛、晒、染色、裁縫、穴カ、リ、機械等ニ分類スルコトヲ得ベシ。而シテ附屬部ニ屬スルモノハ、何レモ原料ヲ編部ノ供給ニ俟ツヲ以テ、之レヲ工業家ト云フヨリ寧ロ職工ト認ムルヲ適當トスルガ故ニ、本項ニ於テハ主トシテ編部ニ就テ述ブベシ。

一原料ノ仕入又ハ支給 原料ハ問屋ヨリ支給ヲ受クルモノナキニアラザルモ、普通問屋ヨリ現金ノ借入ヲナシ原料ヲ仕入ル、モノ多シ、本業ニ於テ使用スル原料ハ綿糸、釦、金巾、ミシン糸及テープ等ニシテ、其仕入ハ現金拂ヲ原則トセリ。然レドモ偶、手形或ハ月末拂ノ方法行ハレザルニアラザレドモ、一般トシテ論ズベカラズ。殊ニ近來ノ如ク原料綿糸ノ高低甚シキ時代ニ於テハ、原料商ハ努メテ現金賣買ヲ標榜スルモノ多シ。加工ニ要スル貸金ノ支拂ハ、月末ヲ主トスルモ内拂行ハレザルニ在ラズ。

一生産費及利潤 規模ノ大小ニヨリ生産額ノ増減多少ハ免レザルベシト雖、今假リニ肌衣一打ヲ製造スルモノトシテ、生産費ヲ計算スルニ大要左ノ如シ。

編 立 賃

拾 貳 錢

晒 賃	貳拾錢
起毛 賃(ロール代共)	七錢
裁縫 賃(穴カバリ、釦付共)	參拾五錢
針 代	六錢
動力 費	六錢
機械油代	貳錢
箱 代	拾貳錢
計	壹圓

以上ハ大要ノ計算ニシテ、之レ以上雜費ノ若干ヲ要スルモノト認メザルベカラズ。而シテ工賃ノ支拂ハ、月末拂ヲ原則トスルモ内拂行ハル。仕拂方法ニ就テモ常用、請負ノ二種アリ、常用中ニモ日給、月給等ノ制度アリ。尙利益計算ニ關スル大要ヲ述ブレバ左ノ如シ。

原料綿糸代	肌衣(二打)	手袋(一打)	靴下(二打)
其他原料費	四・五〇	四・五	九・〇
加工賃	一・〇〇	一・五	一・八
計	五・七五	六・〇	一・〇八
時 價	六・〇〇	八・二	一・五〇
差引利益	二・二五	二・二	四・二

以上ノ計算ニ由レバ、肌衣ハ四分強、手袋及靴下ハ共ニ四割内外ノ利益アルモノ、如シ。

一販賣 販賣ハ主トシテ問屋ニ引渡スモノナリト雖、本業ニハ名古屋莫大小信用購買販賣組合アリ、問屋的業務ヲ行フノ側擔保貸出ヲナスヲ以テ、之レニ據ルヲ便宜トシテ、信用組合ニ對シテ委託販賣ヲ行フモノアリ。

一營業資金

イ、固定資本 固定資本ハ機械ノ購入費ニシテ、從來ノ使用機械ニ就テ當業者ノ談ヲ聞クニ左ノ如シ。

瑞西釣編機械	參百圓内外(肌着用)
橫編機械	七拾五圓内外(手袋用)
小丸機械	四拾圓内外(靴下用)

ロ、融通資本 融通資本ノ主要部分ハ原料綿糸ノ買入資金ナリ、通常機臺一個ニ對シ百五拾圓乃至貳百圓ヲ要スベキモノトス。

一融通方法 融通方法トシテハ、問屋ヨリ製品納入ノ約ニテ前借ヲナスノ外、本業ニハ名古屋莫大小信用組合アリテ、製品或ハ半製品ニ對シ貸出ヲナスヲ以テ、之ニ向テモ融通ヲ乞フモノ尠ナカラズ。尙本業ガ近時名古屋倉庫株式會社トノ間ニ、保管上ノ契約成立シ、明治銀行ガ倉庫證券ヲ以テ貸出ヲ行フノ途ヲ開キタルハ同業ノ爲メ一大慶事ト曰ハザルベカラズ。

一利益及生計狀態 事業ハ戰亂ノ影響ヲ受ケ、好況ナルニ連レ概シテ利益多キヲ以テ、從テ生活狀態ニ就テモ、他ノ小工業者ニ比シテ幾分ノ餘裕アルモノト曰ハザルベカラズ。



一 戦亂ノ影響 從來本市ニ於ケル製品ハ内地物ニ限ラレ、東京及大阪方面ノ製造家ハ、内地及輸出向ノ製造ニ従事シ居リタルガ、戦亂ノ影響ヲ受ケ輸出ノ好況ニ從テ、東京及大阪ニ於テハ輸出品ニ主力ヲ注ギタル結果、内地品ノ缺乏ヲ來シ、爲メニ當地産内地物ノ需要ヲ増加セリ。故ニ本市ノ當業者ハ大ニ製造力ヲ擴張シ、機械ヲ増加シ或ハ工場ノ擴張ニ着手スルモノ多シ。

### 第五項 燐 寸

本業ハ箱製造ノ外、工場工業ニ屬シ、本市ノ工業トシテハ稍上位ヲ占ムルモノタルベキモ、其規模小ナルモノニ於テハ本問題ノ範圍ニ屬スルモノアルヲ以テ、茲ニ調査スルコト、セリ。  
本業ハ工場内ノ作業トシテ左ノ如ク分類セラル。

- 一、軸 並べ (機械部)
- 二、室 (頭ヲ付シ、或ハ乾燥ヲ行フ)
- 三、箱 詰
- 四、薬 品 部 (横薬ヲ塗ル作業ヲナス)
- 五、包 装 部

以上ハ男女工兩用ニテ機械部及室ニ従事スルモノハ主トシテ男工ナリ、附屬補助トシテ子供等ヲ使用スルモ其他ハ女工ノ使用ヲナスモノ多シ。

一 原料仕入又ハ支給 本業ノ原料トシテハ藥品(鹽酸、赤燐)軸箱等ニシテ其所要價格ハ藥品二分ノ一、其

他二分ノ一ノ割合ナリ。戦亂勃發後ニ於テハ藥品ノ價格動搖甚シキヲ以テ、其賣買ハ一般ニ現金取引ニ據ルニ至レリ。

一 販賣及工賃 問屋ニ販賣スルモノニ於テハ、月末拂ナルモノアレドモ、本業ハ原則トシテハ現金取引ナリ。地方販賣ノモノニ對シテハ現金、或ハ着荷後一ヶ月延ノ約手授受行ハル。

工賃ハ成分拂及日給ノ二種アルモ共ニ十五日、晦日ヲ以テ支拂日トセリ、其賃銀左ノ如シ

一、機 械 部 從業者	日 給	壹 圓 内 外
二、室 (乾燥及頭付)	日 給	貳拾錢乃至五拾錢
三、箱 詰	百二十箇ニ付	壹 錢
四、薬 品 部	一噸ニ付	拾 錢
五、包 装 部	千包ニ付	拾 六 錢
六、レッテル張	一萬個ニ付	拾 五 錢

男子一人前職工ノ受クル賃金ハ壹圓内外、熟練女工ハ參拾錢内外ナリ。

一 資産及營業資金 本業ハ機械其他ニ約千圓ノ資金ヲ要スルヲ以テ、多少ノ資産アルニアラザレバ經營スルコトヲ得ズ、其營業資金ニ就テ述ブレバ左ノ如シ。

イ、固定資本 軸木整理用機械ヲ主タルモノトシ、其代價約六百圓内外ヲ要スル外、多額ノ資金ヲ要スルモノナシ。

ロ、流動資本 機械設備ノ外流動資本トシテ必要ナルハ、材料買入及工賃支拂ノ資金ニシテ、組織ノ大

小ニヨリ相違ヲ免レズト雖、今重ナル原料ニ就テ代價ヲ述ンニ、名古屋市ニ於ケル賣買相場左ノ如シ。  
(大正六年一月末現在)

白樺軸木	千束ニ付	金貳拾圓
松軸木	千束ニ付	金七圓
泥柳軸木	千束ニ付	金拾五圓
マツチ箱	一萬組ニ付	金六圓五拾錢
赤磷	百封度ニ付	金百五拾圓
鹽酸加里	百二十封度ニ付	金百圓

以上ノ外上述ノ工賃支拂ニ對スル資金準備ヲ要ス。

一 融通方法 特ニ本業ノ融通機關アルナシ、爲メニ當業者トシテハ融通機關ノ特設ヲ希望スルモノ尠ナカラズ。

一 利益及生計狀態 利益ハ原料仕入ニ對スル巧拙如何ニ因テ岐ル、モノ多ク、近來ノ如ク原料價格ノ動搖甚シキ時代ニ於テハ、一定ノ率ヲ以テ論ズル能ハザルナリ。隨テ生計狀態ニ於テモ時ニ依リ好不況差異アルモノトス。

一 戰亂ノ影響 本業ハ原料販賣共ニ最モ多ク戰亂ノ影響ヲ蒙レリ、例ヘバ藥品ノ如キコレヲ戰前ト現今トヲ比較スルニ、

赤磷	百封度ニ付	戰前	戰亂後高値	現	今
		九〇 <sub>円</sub>	九〇 <sub>円</sub>		一五〇 <sub>円</sub>

鹽酸 百十二封度ニ付 一七・六〇 一九〇 一〇〇  
以上ノ如ク赤磷ノ約百倍、鹽酸ノ十倍ニ及ビタル如キハ實ニ空前ノ暴騰ト曰ハザルベカラズ。而シテ販賣ニ於テハ原料騰貴ニ因リ、内地向トシテハ需要ノ減少ヲ來シタルモ、輸出品トシテハ支那、印度、南洋方面ノ需要増加シタルト、露國方面ニ對スル新契約ノ増加シタル爲メ、名古屋市ニ於ケル燐寸界モ亦新生面ヲ開キタルモノト曰ハザルベカラズ。

### 第六項 陶磁器工業

本業ハ從來參百萬圓乃至四百萬圓ノ生産額ヲ有シ、昨年來戰爭ノ好影響ヲ受ケ其産額ハ一層増加シ、五百萬圓ニ上ルニ至レリ。

本業ハ分業組織上

- 一、製造業
- 二、繪付業

トニ分類スルコトヲ得ベク、製造業ニ屬スルモノハ何レモ工場工業ニシテ、多額ノ資本ヲ要スルモ、後者ニ屬スル繪付業ハ、製造業者ノ製造シタル生地ニ向テ、繪付加工ヲナスニ過ギズ、從テ繪付業者ハ大資本ヲ要セズ、主ニ小工業者ノ業務ニ屬ス、今市内繪付業者ニ就テ調査スルニ左ノ如シ。

一 原料仕入又ハ支給 繪付業者ノ主タル材料ハ繪具、燃料ニシテ、問屋側ニ於テ原料ヲ供給シ、繪付業者ハ一定ノ賃金ヲ以テ問屋トノ間ニ請負契約ヲナシ、己レニ屬スル職工ニ加工セシメテ職工及請負賃ノ差額

ヲ利得スルモノナリト雖、稍有力ナル繪付業者ニ於テハ自己ノ計算ニ依テ、原料ヲ買入ル、モノ尠ナカラズ。

原料タル繪具仕入ハ、神戸或ハ横濱ノ如キ直接輸入元ヨリ買入ル、モノニ於テハ、荷爲替或ハ現金拂ノ方法行ハルト雖、當地繪具商ヨリ仕入ル、モノハ月末拂、或ハ内拂ノ方法ニヨレリ。

一工賃 工賃ハ請負ト共ニ内拂ヲ受ケ、製品納入ノ上決濟ヲ行フモノト、月末ヲ以テ精算スルモノトノ二アリ。

一資産及營業資金 本業ハ比較的資金ヲ要セズ、焼附竈ノ築造ニ固定スル外、燃料及繪具ニ要スルノミナレバ、薄資者ノ之ニ從事スルモノ多シ

一融通方法 本業トシテ、特殊金融機關ヲ有セザルヲ以テ金線方法トシテハ、請負契約ヲナスト共ニ内拂ヲ受クルニ過ギズ、其他金融ノ必要ニ際會セバ、他ノ方法ニヨリテ一時的融通ヲ圖ルモノトス。

一利益及生計狀態 斯業者ノ利益ハ請負額ト職工支拂賃金トノ差額ニシテ、其他原料仕入上ノ巧拙ニヨリ利益ノ相異ヲ生ズルハ一般ト異ナラズ。

生活狀態ニ就テハ、一般コノ種階級ニ比シテ稍餘裕アルモノ、如シ。

一戰亂ノ影響 戰亂ノ影響ニ就テハ、原料タル繪具及薪材ノ騰貴ニ苦シムト雖、工賃ニ於テハ約三割内外ノ騰貴ナルヲ以テ、結局收支ニ就テハ相違ナキモノト認ムルヲ得ベシ、即チ原料價格ヲ戰前ト比較スルニ左ノ如シ。

	戰前	大正五年末
繪具	一 封度ニ付	六 圓
金 (水銀)	一 匁	七 圓五拾錢
薪炭	壹圓拾五錢	壹圓五拾錢
繪具ハ平均和製品二割、舶來品二割五分ノ騰貴ニシテ、金(水銀)ハ約二割ノ騰貴ニアリ。	四 割 高	

### 第七項 提 灯

本業ハ今ヤ本場ノ岐阜ヲ凌駕シ、現今名古屋市ハ貳拾萬圓以上ノ生産額ヲ有シ、本市重要物産タルニ至レリ。本業ヲ工程上ヨリ分類セバ左ノ如シ。

- 骨 製 造
- 枰 (口 輪)
- 塗
- 手 板 製 造
- 金 物 附
- 鋳 附
- 燭 立 附
- 張

繪 附(捺染)及ビ紐附、房附等

以上ハ各種分業トシテ問屋ヲ中心トシ存立セリ。

一原料ノ仕入又ハ支給 從來本業ハ問屋側ニ於テ原料ヲ給與シ、製品ヲ納入セシメ、工賃ヲ支拂ヒタルモノ多カリシガ、工業トシテノ地位低ク、殊ニ職工ガ道德的觀念少ナキト、下級者ノ副業タリシ點トヨリシテ材料ヲ質入レ、或ハ製品ヲ販賣シテ逃走スルモノ等ノ續出シタル結果、今日一般ニ行ハル、方法トシテハ、原料ハ問屋ニ關係ナク、工場或ハ親方ノ供給タルニ至レリ、而シテ原料ノ仕入ハ殆ンド當市ニ於テ行ハルト雖、骨ノ原料タル竹材ハ近江、大阪、熊本、日向等ヨリ供給ヲ受クルモノ多ク、殊ニ九州産ニ需要多シ。而シテ骨ノ原料タル竹材ハ、長サ二間半ニシテ一千本ヲ單位トシテ計算シ、其買入ハ殆ンド現金ニテ取引セラル。其他金物、紙以下ニ於テハ當地商人ノ供給ニヨリ、一般ニハ月末拂トシテ支拂ハル。

一販賣及工賃 販賣ハ問屋ニ向テ製品ヲ引渡スモノニシテ、計算ノ方法ハ、製品納入ト同時ニ決済スルモノト、月末ニ至リテ精算スルトノ二種アリ。

職工ニ對スル工賃ハ十五日及晦日拂ヲ原則トセリ。今大正六年一月末ノ支拂賃金ヲ聞クニ、

種別	支給種別	賃金
骨	日給	四拾錢
骨	日給	拾錢乃至拾貳錢
塗	日給	貳拾錢乃至四拾錢
張	百個	貳拾五錢乃至五圓

繪 付 百個 貳拾五錢乃至拾圓

仕上(金物付、總付、紐付等) 千個 壹圓乃至貳圓

以上ノ如クシテ、本業ハ他ノ工業ニ比シテ其利得極メテ少ナキ感アリト雖、本業ニ従事スルモノ、如キ、比較的下級ノモノ、ナス處ナルヲ以テ、家族ヲ舉ゲテ工業ニ従事シ、一家ノ收得トシテハ、他種工業ニ比シテ劣色アルモノニアラズ。而シテ之レヲ戰前ノ工賃ニ比スルニ、僅カニ一割内外ノ騰貴ニ過ギズ。

一資産及營業資金 骨ノ製造ニ従事スルモノニ於テハ、其原料タル竹材ヲ遠距離ヨリ仕入ルノ關係上、相當資金ヲ要スルモ、其他ニ於テハ、原料ノ買入ハ掛買或ハ問屋ノ貸與ニ屬スルヲ以テ流動資本ヲ要セズ、十五日或ハ晦日ノ工賃支拂ノミニ其必要ヲ感ズルニ過ギズ。

一融通方法 大體本業ニ従事スル工業家ノ如キ比較的、信用薄弱ナルガ故ニ金繰極メテ困難ナリ、故ニ一般トシテ問屋ニ對シ、内拂或ハ前拂ノ融通ヲ受クルニ過ギズ、其他骨製造人ニ於テハ適原料擔保ノ融通力ヲ有シ、金繰ヲ行フモノアレドモ、之レ原料ニヨル融通ト稱スルヨリ寧ロ、信用ニ重キヲ措キ金繰ヲナスニ過ギズ、故ニ本業ニ就テハ問屋トノ間ニ融通ヲ圖ル外、他ニ金融ノ方法ナキモノト曰フベシ。

一利益及生計狀態 彼等ノ利益トスル所ハ問屋ヨリノ請負額ト、職工賃金トノ差額ニシテ、其割合ノ如キ各工業家ノ商略ニ依リ、茲ニ一率ノ計上ヲナス能ハズ、生計狀態ハ塗屋ノ外ハ比較的下級ノモノ多シ。

一戰亂ノ影響 戰亂ノ影響ニ就テハ原料タル紙、竹材及金具等ノ騰貴ニ會シタルモ、販賣上ニ於テハ影響極メテ少ナク、昨年ヨリ一昨年ニ亘リ内地向ニ於テハ、御大禮式及立太子用ノ需要アリシモ、別ニ戰亂ノ影響ト認ムベキモノナク、輸向ニ於テハ寧ロ不況ヲ嘆ズルノ有様ナリ。(大正六年一月調)

第八項 團扇

本業ノ組織上ヨリ見テ、大體左ノ通り大別ス。

骨 製 造

張 製 造

骨ノ製造ニ付テハ次ノ工程アリ。

- 一、目 取
  - 二、磨
  - 三、割
  - 四、編
  - 五、穴 明
- 之レニ附屬スルモノトシテ、手竹削リ、手張リ、シリゴミ等ノ仕事存ス。  
張リニ就テハ次ノ如ク分類セラル。
- 一、張 上
  - 二、目 立
  - 三、斷 廻
  - 四、縁 取

五、窓 切

一原料ノ仕入又ハ支給 本業ハ以上ノ分業アルモ、原料ハ全部問屋ノ支給ニ屬シ、僅ニ其一部分例ヘバ張リ屋ノ糊ノ如キ、製造家ノ提出ニカ、ル、而シテ製造家ハ問屋ニ對シテ、製品ノ全部ヲ販賣スル義務アルモノトス。

一販賣及工賃 製造家ハ問屋ニ對シテ、製品納入ヲ以テ工賃或ハ請負金ノ決濟ヲ爲ス、此決濟ノ方法ハ、製品納入ノ時、或ハ十五日、晦日等ニ分タル、モ、資本乏シキ工業家ガ職工賃金支拂等ノ爲メ、資金ノ必要ニ會センカ、問屋ニ内拂ヲ請求スルハ殆ド彼等社會ノ常習タリ。

職工ニ對スル工賃支拂ハ問屋ノ支拂ヲ俟テ後行ハル、モノニシテ、十五日、晦日ヲ原則トセリ、而シテ目下職工ニ對スル支拂賃金ヲ見ルニ左ノ如シ。

(張 上ノ部)

張 上	目 立	斷 廻	縁 取	窓 切
百本ニ付	全	全	全	全
拾 錢	四 錢	參 錢	四 錢	壹 錢
完全ノ職工一日ノ工程能力	三〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	四、〇〇〇
性別	女	男	女	男
	子	男	女	男
	供			

目取	單位	賃金	完全ノ職工 一日ノ工程能力	性別
目取	百本ニ付	壹錢五厘	二、〇〇〇	子供
磨	全	壹錢五厘	—	—
割	全	拾五錢	—	男、女
編	全	五錢	二五〇	女
穴明	全	貳錢	三〇〇	男
手竹削	全	貳錢五厘	三、〇〇〇	男
手張	全	八錢	四〇〇	男、女
尻	全	貳錢	三、〇〇〇	男

一 資産及營業資金 問屋トシテハ相當資本ヲ要シ資産ヲ有スルモノ多キモ、本業ニ屬スル製造家ニ於テハ資産少ナキガ如ク、相當資力ヲ有スルニ至テハ工業家ノ範圍ヲ脱シテ、問屋タルヲ普通トセリ。營業資金ハ固定的資本ヲ要スルコト尠ナク、職工支拂ニ要スル僅カノ流通資本ヲ以テ足レリトス。

一 融通方法 製造家ノ金繰方法トシテハ、問屋ニ向テ内拂或ハ前金借入ヲ行フノミ、信用薄キ此種工業者トシテ、金繰上困難ヲ感ゼバ問屋ニ向ケ融通ヲ圖ルノ外途ナキガ如シ。

一 利益及生計狀態 工賃ト請負金トノ差額ノ外、原料ヨリ生ズル利益ヲ得ルニ過ギズト雖、本業ハ其利益、工賃以外ニ出ルコト極メテ少額ナルヲ以テ、生計狀態ハ他ニ比シテ低位ニアルモノ多シ。

一 戰亂ノ影響 本市産ノ團扇ハ全部内地向ニシテ、販賣上ニ於テハ戰亂ノ影響アルヲ認メズ。

然レドモ原料ハ一般ニ戰亂ノ影響ヲ蒙レリ即チ  
紙 戰前ニ比シ二割高  
繪 具 十五割高  
油 影響ナシ  
以上ノ影響ヲ受ケタルモ、工賃等ニ於テハ相違ナキガ如シ。

### 第九項 扇子

本業ハ性質上團扇ト大同小異タルヲ免レズ、大體之レヲ分ツテ骨、紙、張ニ三大別スルコトヲ得ベシ。骨ノ部ニハ骨ノ製造ト、之レニ加工スル蒔繪付、又紙ノ部ニハ折リ、張リノ如キモノアリト雖、大體團扇製造業ニ類似セリ。

原料ノ仕入、販賣ノ方法等ニ就テハ團扇ト異ナラズ、故ニ本項ニ於テ再說ヲ試ミズ、唯ダ戰亂ノ影響トシテ内地向ノ販賣及原料ノ騰貴等ニ就テハ、團扇業ト異ナル所ナキモ、輸出向ニ就テハ大ニ趣ヲ異ニセリ。則チ輸出先、佛、伊、兩國ハ孰レモ交戰國ニシテ、伊太利ノ如キ扇子ノ輸入ヲ禁止シタルヲ以テ、名古屋扇子界ノ打撃少カラズ、需要地タル米國ノ經濟界ハ大ニ活躍スルモ、注文案外少ナク、當業者ハ困憊シテ廢業又ハ休業中ノモノ尠カラズ、本業ノ歐戰ヨリ受ケタル打撃ハ甚大ニテ、到底團扇ト同一視スベカラザルモノアリ。

### 第十項 織物

一企業組織 單ニ織物ト稱スルモ、本市ニ於テハ種類極メテ多ク、其産額本市重要物産ニ割以上ヲ占メ、絹織物、綿織物、絹綿交織物、毛織物、綿毛交織物、輸出向綿布、綿小絨、綿毛布、木綿等多種多様ヲ有セリ、而シテ此種ノ機業ハ機械ノ種類ニヨリ分類セバ、手機及力織機ニ區分サレ又、企業組織ニヨリ區別セバ、工場工業ト家内工業トニ分チ得ルモ、本市ニ於ケルコノ種工業ハ工場組織ニヨルモノ少ナク、家内工業ニヨルモノ多數ヲ占メ、其大半ハ小工業者ノ經營ニ屬スルモノナリ。

一原料ノ仕入又ハ支給 資力薄弱ナルモノニ於テハ、本業モ亦常ニ問屋ノ支配ヲ蒙ラザルベカラズ、機業家ニハ原料供給ノ方面ヨリ見テ、全ク問屋ガ原料ヲ給與スルモノト、問屋ヨリ原料代金ヲ借入レ、製品納入ノ上決濟スルモノトノ二アリ。後者ハ原料商タル綿糸商ニ就テ原料ノ買付ヲナセリ、而シテ綿糸商トノ間ニ於テハ近來ノ如ク、糸價ノ動搖甚シキ時代ハ、綿糸商ハ主トシテ現金取引ヲ希望スルモ、相手方ノ信用如何ニヨリテハ月末拂タル、延買行ハレザルニアラズ。

一販賣及工賃 販賣ハ問屋ニ向テ之レヲナシ、其小ナルモノハ數反ヲ以テ代金ノ決濟ヲ行フモノアレドモコノ種ノ資金少ナキ製造家ニ於テハ、寧ロ若干ノ借入ヲ爲スヲ普通トセリ。即チ多クハ問屋ヨリノ注文ニ接シテ、原料代金トシテ代金ノ内拂ヲ受ケ、月末ニ至リテ精算スルモノナリ。

問屋ガ原料ヲ供給シ、賃金制度ニヨルモノニ於テハ普通十五日、晦日ヲ以テ支拂計算日トセリ。職工ニ對シテハ問屋ヨリノ支拂ヲ受ケ後支給ヲ爲スモ、本業ハ主トシテ婦女子ノ工業ニ屬シ、其賃金家計ノ要素ヲ形成セザルガ爲メ、中途ニ於テ工賃金ノ借入ヲ爲スモノナキガ如シ。而シテ戰前ト大正五年末現在ニ於ケル、工賃ヲ比較スルニ左ノ如シ。

種別	單位	戰前	戰後(大正五年末)
糸	百 拵	七 錢 乃 至 八 錢	拾 參 錢 乃 至 拾 四 錢
管 卷	百 拵	五 錢 乃 至 七 錢	拾 錢
整 經	一 玉	七 錢 乃 至 八 錢	拾 錢 乃 至 拾 貳 參 錢
綿セル織賃	一 匹	拾 五 錢 乃 至 拾 六 錢	貳 拾 錢 乃 至 貳 拾 參 錢
絹緋織賃	一 匹	壹 圓 貳 拾 錢 乃 至 壹 圓 參 拾 錢	壹 圓 五 拾 錢 乃 至 貳 圓
博多帶織賃	一 本	四 拾 錢 乃 至 五 拾 錢	四 拾 錢 乃 至 五 拾 錢
絹紬織賃	一 匹	壹 圓 五 拾 錢	壹 圓 五 拾 錢

一資産及營業資金 近年織物好況ノ爲メ、機業家ノ資産狀態相當良好ナルモノ、如ク、其所要資金ニ就テ述ブレバ左ノ如シ。

イ、固定資本 彼等ノ主要ナル資本ハ織機ニシテ、目下ノ相場ニテ手織一臺約拾圓乃至拾五圓ニテ据付ヲ爲シ得ベク、數臺ノ据付ニモ僅カノ資金ヲ準備セバ事足ルモノトス。

尙本業トシテ注意スベキハ出機ノ方法ニ據ランカ、職工自ラ織機ノ用意アルヲ以テ、工業ノ經營上一層簡單ナリ。

ロ、流動資本 流動資本ハ綿糸及生糸ノ原料資金ニシテ、綿製品又ハ絹製品ニヨリテ相違ヲ免レズト雖、之レヲ各一反ニ對スル、原料代金ニ換算ヲ試ムルニ左ノ如シ。

木	手間及染代	原料代	卸代金
綿	四 割	六 割	

以上ノ割合ヲ以テ原料代ノ大要ヲ知ルヲ得ベシ、即チ木綿物代金一反壹圓五拾錢トセバ、原料九拾錢、絹物一反五圓トセバ、原料代貳圓五拾錢ナルヲ以テ、其規模ノ大小ニヨリテ其流動資本ヲ察知シ得ベキナリ。  
一融通方法 融通方法トシテハ、問屋ヨリ前借ヲ受クルモノト、原料商ニ對シテ延買ヲナストノ二途アルノミニシテ、其他一般ニ銀行等ヲ應用スルモノナシ、即チ工業者ガ資金ノ必要ニ會セバ、普通問屋ノ下ニ走リテ金融ヲ計ルモノトス。

一利益及生計状態 利益ハ請負額ト原料及職工賃トノ差額ニシテ、之レヲ一定率ノ下ニ述ル能ハズト雖、本市ニ於ケル機業家一般ノ生活ハ比較的良好ナルガ如シ。

一戦亂ノ影響 本業ハ原料タル綿糸及染料騰貴ノ爲メ、原料商ノ機業家ニ對スル取引ニ於テハ、現金制度ニヨルノ傾向ヲ増加シ、一般ニ困難ヲ感ジタルモノ、如シ。

工賃ニ就テハ商況ノ良好ナルニ連レ賃金騰貴シタルガ爲メ、職工階級ニ屬スルモノ及ビ工賃ヲ受クルモノニ於テハ、寧ロ好況ニ在ルモノ、如シ。

### 第十一項 鼻 緒

一企業組織 本業ハ作業上左ノ分業ヲ形成セリ。

イ、生地

ロ、友禪加工業(友禪染業)

ハ、裏 糊(張り屋)

ニ、斷

ホ、ミ シ ン(縫上ゲ)

ヘ、仕 上(心ヲサス)

以上ノ作業ハ問屋ヲ中心トシテ一工業ヲ形成セリ、而シテ生地友禪加工ニ屬スルモノニ於テハ、原料ヲ自己ノ計算ニ於テ買入レ、加工ノ上問屋ニ販賣スルモノアレドモ、張り以下ニ於テハ、殆ド原料ノ供給ハ問屋ノ提供ニ屬ス。

鼻緒ハ之レヲ製品ノ種類ニヨリ、クロース、皮、綿天鷲絨、天鷲絨、小倉等ニ分類ス、本市ニ於ケル製品ハ、從來中島郡地方産ノ小倉織ニアリタルモ、近來流行變遷ノ結果、本市ノ特産品トシテハ、綿天鷲絨ノ製造盛ニ行ハル、ニ至レリ。

一原料ノ仕入又ハ支給 本業ハ原料支給ノ状態ヨリ左ノ如ク分類ス。

イ、全部問屋ヨリ原料ヲ供給スルモノ。

ロ、問屋ヨリ一部ノ供給ヲ受クルモノ。

ハ、自己ノ計算ニヨリ原料ヲ買入レ、製品ヲ販賣スルモノ。

即チ友禪加工ヲナス染物業ノ如キ、問屋ヨリ生地ノ供給ヲ受ケ加工ノ上、製品ヲ問屋ニ納入スルモノト、原料タル生地ヲ買受ケ、加工ノ上納入スルモノトノ二種アリ。其他ミシン(縫上ゲ)、仕上ゲ(心ヲサス)等ノ工業ニ従事スルモノニ於テハ、原料ハ全ク問屋ノ供給ニカ、リ、加工用ノ綿糸ヲ提供シテ精製スルモノナリ。



一販賣及工賃 製品ハ全部問屋ニ向テ納入シ、工賃及代金ヲ決済ス、其支拂ノ方法ニ就テハ、全部月末ヲ以テ精算セラル、ノ慣習アリ。

職工ニ對スル支拂ニ就テハ十五日、晦日ヲ以テ支給セラル、今職工支拂賃金ノ大要ヲ述レバ左ノ如シ。

- 友禪染職工 日給 六拾錢内外
- 裏糊付 全 七拾錢内外
- ミシン 子供一人全 四拾錢内外
- 仕上ゲ 糸持チ 全 五拾錢内外

以上ハ一工場ノ下ニ勞務ニ服スル、一職工ニ標準ヲ置キ、請負契約ニ屬スルモノヲ計算セズ。請負契約ヲ爲ス工場主ハ材料ヲ提供シテ、之レヲ自己ノ工場内ニ於テ作業スルモノト、工場外ニ家内工業トシテ作業セシムルトノ二アリ、即チ糊付ノ如キ前者ニ屬シ、ミシン、仕上ゲノ如キ後者ニ屬ス。

一資産及營業資金 斯業者ハ薄資者多ク、營業資金ハ作業種類ニヨリ一定セズト雖、今資本ヲ要スルモノニ就テ、大要ヲ調査スルニ左ノ如シ。

- 一、仕上ゲ業 固定資本ヲ要セズ。
- 二、ミシン業 手ミシン 一臺 五圓乃至拾五圓
- 三、裏糊業 糊付用臺 一臺 拾貳圓乃至拾參圓
- 四、友禪染業 固定資本 千圓内外

(備考) 以上ハ一作業ヲ單位トシタル標準ニヨリ大要ヲ述ベタルモ、作業ノ大小ニヨリ相異ヲ生ズルハ

勿論ナリ。唯ダ友禪染ノ部ニ屬スルモノニ就テハ、既ニ一工場ヲ組織シ製品ノ完成ヲ爲シ得ルモノニ就テ述ベタリ)

本業ハ右ノ如キ固定資本ヲ要スル外、加工用原料代金及職工支拂賃金ノ流動資本ヲ要スルモ、此等ハ問屋ヨリ流通ヲ受クルヲ普通トセリ。

一融通方法 友禪染ヲ行フ種類ノ工業家ニシテ、其材料ヲ自己ノ計算ニ於テ買入レ加工スルモノ、如キハ商品ヲ擔保トシテ金融ヲ圖ル便宜アレドモ、實際ニ於テハ之レヲ以テ専門的金融業者トノ間ニ交渉ヲ重ヌルニアラズ、寧ロ金融ノ必要ニ迫レバ問屋ノ下ニ走リテ、金繰ヲナスモノトス。

其他全ク問屋ヨリ原料ノ供給ヲ受クルカ、或ハ一部ノ供給ヲ受クルモノニ於テモ、金融ノ必要ニ會セバ必ズ問屋ニ走リ、前金或ハ内拂ヲ受ケ、月末ニ至リ製品納入ノ上決済スルヲ通常トセリ。

一利益及生計状態 利益ノ大小ニ就テハ、作業種類ニヨリ一定セズト雖、今裏糊(張り)業ニ就テ一例ヲ舉ゲンニ、糊及紙ヲ材料トシテ三十人内外ノ職工ヲ使用シ居ル某工場ニ於テ調査スルニ、十三ヤールノ友禪一ト卷ノ裏付ニ、一日職工五人ヲ使用シ、百本ヲ加工シ得ベク、之レニ要スル一本賃金仕譯左ノ如シ。

- 原料紙代金 六錢參厘
- 糊 六錢
- 工賃 七錢七厘

(但シ一本ノ加工料金貳拾錢トシテ、工賃ノ内工業家ノ獲得スベキ手數料等含有セラル)

以上ハ糊付業ニ就テ述ベタルモ、同業ハ前述シタル如ク、鼻緒工業中ニテ多額ノ資本ヲ要スルヲ以テ、比

較的其收益多キハ勿論ナリ。

ミシン、仕上ゲノ如キ殆ド資本金ヲ要セザルモノニ於テハ、各自ノ作業ヲ分類シ、職工ヲ使用スルヲ以テ工業家ノ利益トナルモノ極メテ少額ナリ。例ヘバ仕上ゲニ於ケル問屋ノ支拂賃金ハ、百束ニ付キ五拾錢内外ヲ相場トスルモ、其作業ヲ分類シ、前壺、心指シ等ノ如ク別種職工ヲ使用スルヲ以テ、工業者ノ收得ハ百束ニ付拾五錢内外ニ出デザルモノ、如シ。

本業ハ一年ヲ通シ相當ノ仕事アルヲ以テ、其經濟狀態ハ甚ダシク不良ナラザルモノ、如シ。

一 戰亂ノ影響 戰亂ノ影響ニ就テハ、原料及販賣ニ分類シテ研究セザルベカラズ。

イ、原料及工賃 戰前ニ比シ、騰貴ノ割合左ノ如シ。

生地	三割高
染色	十割高
工賃	一割高

生地ノ騰貴ハ原料タル綿糸ノ騰貴ニ因リ、染色ハ原料タル繪具ノ騰貴ニ因ル。

ロ、販賣 本業ハ戰前極メテ不況ニ陥リ、殊ニ名古屋ノ工業ハ不撻打撃ヲ蒙リタルガ、戰亂勃發第二年

ニ於テ、商況ハ社會一般ノ好況ニ從テ稍回復ノ曙光ヲ認メ昨年來需要増加ノ有様ナリ。(天正六、一、調)

### 第十二項 木綿絞

一 企業組織 本業ハ名古屋市ノ重要物産トシテ、國産絞ノ名ヲ冠スルニ至レル程ニテ、コレヲ工業上分類

セバ左ノ如シ。

問屋  
蔭師

問屋ハ蔭師ニ原料ヲ供給シ、蔭師ハ問屋ヨリ受ケタル原料ニ、加工精製シテ問屋ニ販賣ヲナス組織ナリ。蔭師ノ下ニハ絞リ、或ハ染ノ如キ一部ノ加工ニ従事スル職工アリテ、勞役ニ従事セリ。即チ染色ヲナスモノニ於テハ一定ノ工場ヲ有シ、職工ヲ工場内ニ使用スルモノアレドモ、絞リニ屬スルモノニ於テハ殆ド近郷及貧民ノ家庭工業トシテ之ニ従事ス。

一 原料ノ仕入又ハ支給 原料ノ支給ハ多ク問屋ニ於テナスト雖、稍資力豊カナルモノニ於テハ、自己ノ計算ニ於テ材料タル綿布ノ買入レヲナシ、加工ノ上製品トシテ納入スルモノアルハ、一般他ノ小工業者ト異ナラズ。

一 販賣及工賃 販賣ハ問屋ニ向テ賣込ヲナシ、月末ニ至テ精算ス。

工賃支拂ニハ、染色ニ従事スル職工ハ、月給制度ニヨルモノ多シ、此等ハ比較的腕力ヲ要シ、勞働過激ナルヲ以テ比較的報酬多ク、食料工業家持チニテ拾五圓乃至貳拾圓ノ間ニアリ、其他絞リニ従事スル職工ニ於テハ貧民多キヲ以テ、其箇數的賃金ハ加工毎ニ支拂ハル、ヲ通常トセリ。今大正六年一月現在ノ工賃ヲ聞クニ左ノ如シ。

種別	單位	賃金
鹿子絞	百坪	貳厘乃至五厘

三浦絞	四十出シ	六拾錢内外
蜘蛛絞	十箇	參拾錢内外
白抜絞	八十坪	壹錢
包縫	六十坪	壹錢
縫	一尺	三毛

以上ヲ戰前ノ工賃ニ比スルニ、約二割内外ノ騰貴ヲ來シタルモノ、如シ。

一 資産及營業資金 本業ハ染色工業ニ從事スルモノ、外、固定資本ヲ要スルモノナク、染色工業ニ從事スルモノニ就テハ、前述シタル鼻緒ノ友禪染色ヲ行フモノト、大差ナキモノト認メ得ベシ。其他流動資本トシテハ、本業ハ從來ノ慣習上材料全部問屋持チナルガ故ニ、僅カニ加工用ノ糸及職工支拂用ノ賃金ノ幾分ヲ用意スルニ過ギザルヲ以テ、其額極メテ少額ナリ。

一 融通方法 問屋直屬ノモノニ於テハ、問屋ニ融通ヲ仰グヲ一般トシ、自己計算ニヨリ作業スルモノニ於テハ、製品ヲ販賣シテ一時的急ヲ免ル、モノ多シ。

一 利益及生計状態 利益ハ問屋ニ對スル納入額ト、職工賃金ノ差額ナリト雖、大略二割内外ニアルモノ、如シ。

一 戰亂ノ影響 本業ハ染料加工用繪具、及綿糸ノ騰貴ニ會シタルハ他工業ト等シク、此等ノ騰貴狀況ニ就テハ、既ニ他ノ工業ノ部ニ於テ再三説述シタルヲ以テ、茲ニ改メテ報告セズ、販賣上ニ於テハ何等影響アルヲ認メズ。

### 第十三項 指物

單ニ指物ト稱スルモ、其種類極メテ多ク、之レヲ材料ノ上ヨリ分類セバ、唐木製造ト和物製造トニ區別スルヲ得ベク、亦之レヲ製品ノ上ヨリセバ箆筒、長持、戸棚、茶箆筒等ノ如ク分類シ得ベキモ、工業者ノ立場ヨリ見テ殆ド相類似スルヲ以テ、本調査ニ於テハ之レヲ分類セズ記述スベシ。

一 原料仕入又ハ支給 原料ハ請負契約ニヨリ製造ニ從事スルモノニ就テハ、問屋或ハ注文主ガ之ヲ供給シテ製造ニ從事セシムルモノアリト雖、本業ニ限り多クハ自ラ原料ヲ買入レ、製品納入ノ上決濟ヲ行フヲ一般トセリ。

原料ノ仕入ハ原產地ヨリ直接仕入ヲ行フモノアレドモ、此等ハ比較的多額ノ資本ヲ有スルモノ、ナス處ニシテ、本調査ノ目的タル小工業者ノ如キハ、全部當地ノ材料商ヨリ仕入ヲ行フモノトス。

一 販賣及工賃 本業ニハ工業兼販賣業者タルモノ多ク、注文外ノ製品ニ就テハ店頭ニ陳列シテ顧客ノ來ルヲ俟ツモノアレドモ、資本少ナク資金ナキニ於テハ、販賣専門ノ問屋或ハ自己以上ノ製造家ニ販賣ヲナスヲ通常トセリ。故ニ此種小工業者ニ於テハ、問屋或ハ大製造家ノ間ヲ往復シ、注文ヲ引受ケ製造ニ從事スルヲ以テ、問屋ノ壓迫ヲ蒙ルコト他ノ小工業者ト異ナラズ、殊ニ一層資力少ナキモノニ於テハ、注文ニ從テ前金ノ借入ヲナシ、原料ノ代金ニ當ツルガ故ニ、常ニ製品ノ上ニ於テ問屋或ハ大製造家ノ指値ニ甘ンゼサルベカラザルノ悲運ニアルモノ多シ、職工ニ對スル賃金支拂ハ、自己ノ工場ニ作業スルモノニ對シテハ

十五日、晦日ヲ一般ノ支拂日トナスト雖、工場外ノモノニ對シテハ製品納入ノ時ヲ支拂日トス。  
一 資産及營業資金 本業ニ從事スルモノハ、殆ンド全部職工上リノモノニシテ、多額ノ資産ヲ有スルモノ  
少ナキモ、生活上尤モ安固ノ地位ニアリ、勤勉努力ノ結果ニ於テハ、將來發展シ得ル見込充分ナルモノナ  
リ。

尙營業上ニ要スル資本關係ニ就テハ、

イ、固定資本 工業用工場ノ外、職人ヲ使用スルニ必ズ一定ノ工業用具ノ必要アリ、之レヲ調査スルニ

一人前職工ノ使用スベキ諸道具約貳拾圓内外ナリ、即チ工業者ノ資力如何ニヨリ、コノ割合ヲ以テ大

小ヲ計算シ得ベキヲ信ズ。

ロ、運轉資本 以上ノ資本ヲ有スル職工作業狀況ヲ述ベンニ、今一箇ノ筆筒ヲ製造スルモノトシテ、材

料其他ノ關係ヲ取調ブルニ左ノ如シ。

賣 價 拾 五 圓 筆 筒 一 棹

コノ工賃内譯

イ、材 料 八 圓

ロ、工 賃 貳圓七拾錢(職工賃三人)

ハ、利 益 四圓參拾錢

以上ノ割合ヨリ運轉資金ノ大要ヲ知ルヲ得ベシ、某當業者ノ談ニヨレバ筆筒ノ如キモノハ、最モ利益  
少ナキモノナリトノ言ヲ聞キタレドモ、利益少ナキモノニ就テ四圓以上ノ收益ヲ計上シ得ルトセバ、

其他ノモノニ於テハ尙多額ノ利益アルモノト認メザルベカラズ、然レドモ茲ニ吾人ガ見免ス能ハザル  
ハ本工業品ノ如ク或期間店頭ニ陳列シ、顧客ノ來ルヲ俟ツモノ、如キハ、仕上リヨリ販賣ニ至ル間ノ  
金利及保險料等ヲ見積ラザルベカラズ、爲メニ比較的多額ノ利潤ヲ見積リ置クベキ必要アルモノアル  
ニアラザルカ、然レドモ實際ニ於テハ店前ニ陳列シ顧客ヲ待ツ種ノモノハ、比較的資本裕ナルモノニ  
シテ、小工業者ノ如キ資力少ナキモノニ於テハ、他ニ金融上ノ便宜ナキガ故ニ、其製品ヲコノ種資本  
裕ナル同業者、或ハ問屋ニ販賣スルモノ多シ。

一 利益及生計狀態 前述シタル如ク、本業ハ比較的利潤ヲ多額ニ計上シ得テ、其收益不尠ト雖、實際商品  
ヲ備ヘテ販賣スルモノ、如キハ、相當資力アルモノニ於テナシ得ベキコトニシテ、資力乏シキモノニ於テ  
ハ、其利潤ヲ割キテ問屋ニ納入シ、現金ト引替ザルベカラズ、從テ資力ノ大小ニヨリ、利益及生計狀態ニ  
多大ノ相違アルヲ免レズ。

一 戰亂ノ影響

イ、原料 ニ就テハ運賃其他ノ關係ヨリ、何レモ騰貴ヲ免レス、今戰前ト大正五年末トヲ比較スルニ、

紫	檀	一斤ニ付	七	錢	拾	壹	錢
黑	檀	一斤ニ付	八	錢	九	錢	
鐵	刀	一斤ニ付	七	錢	九	錢	
花	梨	一斤ニ付	四	錢	七	錢	

戰 前 大正五年末

本邦産ノモノニ就テハ、三割乃至四割ノ騰貴ヲ免レズ。

ロ、工賃 本業ハ季節ニヨリ繁閑アリ、即チ年末需要増加ノ場合ノ如キハ、若干ノ騰貴ヲ免レズト雖、需要減少セバ最高九拾錢内外ノ職工ニシテ、五六拾錢ニ減少スルコトアリ、要スルニ戰亂ノ影響トシテハ約二割ノ騰貴ト見ルヲ得ンカ。

ハ、販賣 本業ハ戰前非常ナル不況ニ陥リ居リタルモ、戰亂後一般商況ノ回復ト共ニ需要ヲ増加シ、昨年ノ如キハ一層好況ニ在リタルガ、一時平和ノ風聲ニ會シ、目下ノ商況ハ一般ニ振ハザルモノ、如シ然レドモ本業トシテハ、殆ド内國向ノモノ、ミニシテ、只近傍ノ需要ヲ充スニ過ギザルヲ以テ、其一張一弛ハ僅カニ地方的關係ニ過ギズ。

#### 第十四項 硝子工業

本業ハ大別シテ、燐及火舍類ノ製造トナス、而シテ何レモ工場工業ニ屬シ、一定ノ工場内ニ於テ作業セリ。本市ニ於ケル製造家三十名ニシテ、年額貳拾萬圓内外ヲ産シ、内拾七八萬圓ノ輸出アリタルモ、戰爭ノ影響ヲ受ケ昨年来産額劇増シ、大正五年ノ如キハ一月ヨリ九月ニ至ル間ニ於テ、既ニ生産額拾九萬圓餘ヲ計上シ輸出額ノ如キ拾八萬圓餘ニ達シ、本市重要物産トシテ、産額ニ於テハ全國中第五位ヲ占ムルニ至レリ。

一原料ノ仕入又ハ支給 本業ノ原料ハ、

曹達灰 硝石 過酸化滿俺 硫化アンチモニ

硼砂

等ニシテ其主要部分タル曹達灰ハ、從來英國ヨリノ輸入ニ係リ阪、神或ハ京濱地方商人ヨリ供給ヲ受ケ、

代金決済ノ如キ從來月末拂タリシモ、近來價格ノ動搖多カリシ結果、主ナル原料ニ對シテハ荷爲替或ハ現金支拂ヲ要スルニ至レリ。

一販賣及工賃 販賣ハ問屋ニ向テ之ヲナシ、或ハ工業家兼販賣者タルモノニ於テハ、直接需要地ニ向ケ荷送りヲナスモノアレドモ、工場ヲ有シ作業ニ従事スルモノニ於テモ小工業者多ク、需要地ニ向ケ直接販賣スルノ資力アルモノ極メテ尠ナク、普通問屋ニ向テ販賣スルモノトス。

職工ニ對スル工賃ノ支拂ハ多ク月給制度ニシテ、月末支給ヲ原則トスルモ、一般トシテ十五日ニ内拂ヲ行ヒ、殘金ヲ月末ニ至リテ支拂フモノトス、賃金ハ最低貳拾錢ヨリ最高壹圓ノ間ニ在リ。

一資産及營業資金 土地家屋工場ヲ有シ、自己ノ工場ニ於テ作業スルモノアレドモ、此等ハ大工業者ニ屬シ、本問題ノ小工業ニ屬スルモノニ於テハ、僅カニ工場ヲ有スル位ニ過ギズシテ、土地ヲ所有スル如キハ絶無ト謂フベシ。

資金ニ就テハ分ツテ、固定資本及運轉資本トス。

一、固定資本 本業ハ工業ノ性質上、警察取締法及工場法ノ下ニ服セザルベカラス、從テ設備ノ上ニ相等ノ施設ヲ要ス、即チ煙筒ノ如キ或ハ竈ノ如キハ其一例ナリ、而シテ今之等設備ニ要スル固定資本ヲ計上スルニ、煙筒(十間以上ヲ要ス)、一本代金貳百圓内外ヲ要ス。

二、運轉資本 固定資本ノ大部ハ煙筒ニシテ、其他竈用ノ耐火煉瓦、赤煉瓦等ヲ用意シ、運轉資本トシテ燃料タル石炭及原料ノ仕入等ニ約參百圓内外ヲ要スベシ。

即チ本業ハ最低資本トシテ五百圓内外ノ必要アリト見テ大差ナシ。

一融通方法 金繰ノ方法トシテハ問屋ニ屬スルモノハ、問屋ヨリ融通ヲ仰ギ、或ハ製品ヲ有スルモノハ、販賣ノ上代金ヲ皆済スベキモ、本業ノ習慣トシテ販賣代金ノ支拂ハ月末或ハ二ヶ月拂ナルヲ以テ、結局問屋ノ支配ヲ蒙ルニ至ル。

一利益及生計状態 利益ハ某當業者ノ談ニヨレバ、約二割トナスト雖、實際ニ於テハ二割以上タルハ明ニシテ、先ヅ最低二割ト見ルヲ得ベシ、生活状態ニ就テハ、規模ノ大小等ニヨリ一定セズト雖モ、大體ニ於テ本業ニ従事スル工業家ハ餘裕アルモノ、如シ。

一戦亂ノ影響

イ、原料ニ就テハ、戦亂ノ影響ヲ受ケ何レモ騰貴ヲ免レズ、今重ナル原料ニ就テ戦前トノ比較ヲ試ムルニ

曹 達	灰(四封度入一俵)	六・三五	大正元年末	大正五年九月
石	粉(八貫目入一俵)	●三〇		
硝	石(一貫目)	●五二		
硫化アンチモニ(百斤)		二〇〇〇		四五〇〇
石	炭(九州炭一萬斤)	五二〇〇		六六〇〇

其他工賃ノ如キハ戦前ニ比シテ三割内外ノ騰貴ヲ見ルニ至レリ。

ロ、販賣 販賣上ニ於テハ從來ノ需要ヲ充スノ外、輸出品ニ就テハ何レモ阪神地方貿易業者ノ手ヲ煩ハシテ輸出セラレタリシモ、戦亂ノ結果ハ直接取引ヲ増加シ、新市場ノ開拓ヲ見ルニ至リタルコトニシテ、大正五年來生産額ノ増加ハ全ク、コノ方面ノ新需要ト曰ハザルベカラズ。

結 論

小商工業者ニ對スル資金融通ノ問題ハ、各國識者ノ夙ニ留意スル所ニシテ、獨逸ノ如キハ十九世紀ノ中葉ヨリ、早クモ之ガ解決ニ着手シ、都市小商工業者ニ對スル Schulze-Deilichsch Vorschussverein 地方農民ニ對スル Raiffeisen Darleh-Kassenverein トナリ、伊太利ノ如キモ千八百六十四年ニ Lunatiノ庶民銀行ヲ設立シ、英米ニ於テハ、古來幾多ノ Co-operative Societies 或ハ Peoples Bank アリ、其他ノ諸國モ亦公私ノ施設ニヨリ、銳意下級者ノ福祉ノ増進ニ努メツ、アリ、我國ニ於テモ斯目的ヲ以テ、明治三十三年産業組合法ヲ制定シ、爾來之ガ發達ヲ獎勵シツ、アリ、名古屋市ニ於テモ稍見ルベキ成績ヲ舉ゲタルモノアルモ、未ダ以テ十分ナル効果ヲ齎スニ至ラズ、前途尙遼遠ノ嘆ナクンバアラザルナリ。

惟フニ普通銀行或ハ農工銀行ハ、主トシテ對物信用ニ重キヲ置キ、相當資産信用アル商人ノ發行ニ係ル商業手形ヲ除キテハ、常ニ動産不動産ノ擔保ヲ必要トスルガ故ニ、商工業家ニシテ銀行ヲ利用シ得ルモノハ殆んど中産以上ノ階級ニ止リ、産業上直接ノ勞務ニ従事スル多數階級ハ、依然トシテ不完全ナル金繰ニ満足シツツアルモノ、如シ。

本調査ノ結果ニ觀ルモ、當市小商工業者ノ營業ハ専ラ取引仲間ノ信用ニ依リテ行ハレ、從來他ヨリ營業資金ノ融通ヲ求ムルコト甚ダ尠カリキ、則チ現下ノ取引方法ハ年期奉公制ノ遺習ヲ基礎トセルモノニシテ、商品ノ生産者タル家内工業ハ、概ネ問屋ヨリ材料又ハ資金ヲ前借シ、製品出來ノ上ハ之ヲ問屋ニ納メテ勘定ヲナ

シ、小賣商ハ卸商ヨリ商品ヲ延勘定ニテ仕入レ、其賣上高ヲ以テ決濟スルモノニシテ、斯方法ハ二三ノ例外ヲ除クノ外、各種ノ商工業ヲ通ジ一般ニ行ハル、處トス、サレバ資金調達ノ問題ハ商品又ハ材料ノ供給者タル卸商及問屋ノミノコトニシテ、小賣商、家内工業者ニアリテハ、特定ノ問屋又ハ卸商ノ信用ヲダニ得ルニ於テハ、他ニ資金ヲ求ムルコトナクシテ、營業ヲ持續スルコトヲ得、隨テ彼等ハ從來金融機關ヲ必要トセズ又利用セザリシナリ。然レドモ延取引ノ結果ハ仕入直段ノ嵩ムト共ニ、常ニ問屋ニ死命ヲ制セラレ、其壓迫ヲ蒙ムルコト數ノ免レガタキ處ナリ、尤モ延取引一般ノ風ヲナセル今日ニ於テ、偶ニ現金仕入ヲナスモ卸屋ノ利便ハ左程大ナラザルモノ、如ク、現金拂ニ對シテハ、歩引ト稱シ幾分割引ヲナスモ、其高、素ヨリ多カラズ、隨テ小賣商ニモ左程大アル利益ナキガ如シ、況ンヤ賣藥商ノ如キ現金取引ヲ以テ、寧ロ信用薄弱ノ證トシテ忌ムモノモアルニ於テオヤ。

更ニ小工業者ト問屋トノ間ハ、小賣商人ト卸屋トノ關係ヨリ一層親密ニシテ、問屋ノ賃仕事ヲナス所謂下職ハ勿論、自己ノ勘定ヲ以テ作業スル者モ、問屋ヨリ材料ヲ借入レ、又時トシテハ金錢ノ前借ヲナス等、平素問屋ヲ煩ハスコト多ク、其間恰モ主從關係ニアレバ、製品ヲ問屋ニ賣渡スニ方リテモ、自然問屋ノ意ノ儘ニ直切リ倒サル、ヲ免レザルナリ。唯卸商モ問屋モ同業者ノ競争アリ、小賣商人又ハ小工業者ニ對シ、若シ無法ノ利益ヲ貪ルトキハ、彼等ハ曩ニ掛買シタル商品ノ賣上代金ヲ以テ、其仕入元ニ返濟セズシテ、他店ヨリ現金仕入ヲナスニ至リ、又小工業者就中獨特ノ手練アルモノハ、直チニ他ノ問屋ニ走ルベキヲ以テ、卸商及問屋ガ獨リ專横ナル能ハズ、利害相互ニ牽制シテ以テ現取引方法ニ伴フ、小商工業者ノ苦痛ハ豫想外尠キモノ、如シ。

此狀態ハ今日ノ程度ニ於テ、或ハ適應シタルモノナルヤモ計ラレズ、且小商工業ニハ小商工業者トシテノ素質アリ、容易ニ向上ヲ期スベカラズ、況ンヤ工場工業ノ進歩ハ、日ニ家内工業ノ領域ヲ蠶食シツ、アリ、交通機關ノ發達百貨商店ノ發展ハ、月ニ小賣業者ノ商區ヲ狹メツ、アリ、此趨勢ヲ以テセバ、小商工業者ノ大部分ガ、工場ニ吸收セラレテ職工ト化シ、小賣商人ノ幾分ハ工場製造者ノ委託販賣者ノ類ニ轉スルノ運命ヲ有スルニ非ル乎、疑ナキ能ハズ、加フルニ斯趨勢ノ可否得失ハ容易ニ論斷スベカラザルモノアリ。本調査委員會ニ於テモ多少斯問題ニ觸レザルニハアラザリシト雖、金融政策上ヨリ觀タル小商工業者ノ資金問題ト、社會政策上ヨリ觀タル小商工業者保護問題トハ、自ラ別個ノ研究ニ俟ツベキモノナルヲ以テ、本會ハ如斯趨勢ハ免レ難カルベク、隨テ小商工業者ノ金融ハ或ハ過渡時代ノ問題トシテ、扱ハル、モノニ非ルカトノ疑念ヲ懷クニ拘ラズ、金融政策ノ見地ニ觀テ現時ノ金融狀態ガ如何ニモ不満足ナル、亦不公平ナルヲ以テ、何等カノ方法ニ依リ一層容易ニ、且ツ低利ニ資金ヲ融通シ得ル方途ナキヤ、問屋或ハ卸商ニ死命ヲ制セラレ其壓迫ニ呻吟シツ、アル彼等ヲシテ、向上獨立セシメ、中産以上ノ階級ト同ジク金融機關ノ利便ヲ享有セシムル方法ナキヤ、本會ハ主トシテ之ヲ調査研究シ、先ヅ以テ現時ノ有様ヲ查察シ、次テ委員討議ノ結果以下諸機關ノ改善ヲ期セントスルモノナリ。

## 其一 銀行

普通銀行ノ信用取引先ハ、資産豊富ナル少數有産者ニ限ラレ、中産以下殊ニ小商業者ニ對シテハ全ク利用セザレザルコト既述ノ如シ、蓋シ信用貸付ハ全ク其人ニ對スル信任ニ基クモノナレバ、其回收ニ付危險ヲ含ム

コト多ク、ヨシ貸付ノ當時其信用ニ瑕瑾ナシトスルモ、現今ノ如キ廣汎且密接ナル經濟狀況ノ下ニ在リテハ、商工業者ノ資産實ニ且ニ夕ヲ測リ知ルベカラズ、加フルニ信用調査ノ不備ヲ以テス、故ニ勢ヒ安全ナル擔保貸付ヲ望ミ、信用取引カ少數富豪ニノミ限ラル、ハ怪シムニ足ラザルナリ、サレバ普通銀行ノ信用貸付ハ、需要ノ切ナル方面ヲ避ケテ、需要ノ切ナラザル方面ニノミ趨キ、信用ハ獨占セラレテ銀行ハ一方高利ヲ掲ゲテ小商工業者ヲ蔑視シ、他方低利ヲ以テ有産者ニ諂諛スト非難スルモノアルモ、之ヲ銀行側ニ觀ルニ、貸付資金ハ自己ノモノニ非ズシテ、信用ニ依リ他ヨリ與ヘラレタル資金タルヲ思ヘバ、資金運用ノ方面ハ需要ノ如何ニ拘ラズ、危險最モ少クシテ回收ノ確實ナル方面ニノミ供給セラルベキハ、至當ノコト、云フベシ。然レドモ社會百般ノコト所謂持合ナリ、相倚リ相助クベク、殊ニ金融業者ノ如キ己レヲ利シ他ヲ利スルモノニアリテハ、單ニ自己營業ノミヲ打算ノ根柢トセズシテ、社會ノ福祉ニ思フ致スベク、而シテソハ應テ自己營業ノ繁榮ヲ齎スニ在リトスレバ、徒ラニ安全ノミヲ計ルベキニアラズ、各方面ニ對スル金融ヲ滑カニスルコトヲ努ムベキナリ、而シテ左ノ方法ハ、大ナル危險ヲ伴ハズシテ試ミラルベキヲ信ズ。

一、保證貸付 一名若クハ二名ノ保證人ヲ立テ、豫メ貸付金額ノ限度ヲ定メ、其範圍内ニ於テ借主ノ欲スルトキ何時ニテモ資金ヲ借出シ、隨意ニ一部又ハ全部返済シ、再ビ之ヲ借出シ得ルモノニシテ、資産ナキモ才識技能アルモノニハ、極メテ便利ニシテ且必要以上ノ金額ヲ借入レ、無用ノ利子ヲ支拂フノ要ナキト共ニ濫費セシメザルナリ。

二、小口預金證書貸付 小口預金證書ヲ擔保トシテ、預金額ノ八割乃至九割ヲ貸付ク。或場合ニハ其人格性行其他ニ鑑ミテ預金額以上ヲ貸付ク、例ヘバ不動貯金ノ「ニコ〜」貸金ノ如シ。

三、保證貯金貸付 貯金吸收ノ一方法トシテ、借入金ニ對スル元金ノ返済ヲ貯金ヲ以テ相殺シ、借主及保證人ハ其貯金ノ利金ガ元貸付金ニ達スル迄、一定ノ期間毎月同額ノ貯金ヲ積立テ、其親銀行或ハ所屬貯蓄銀行ニ入金セシム、從テ此貸付方法ハ自然擔保品ヲ有セザル、中産階級以下ニ對スル貸付トナリ、返済期限長キヲ以テ、千圓ノ借出高ニ對シ毎月ノ貯金高二年貯金ナレバ、參拾九圓五拾錢。三年貯金ナレバ、僅カニ貳拾六圓ニ過ギズシテ、其返済方法比較的安易ナリ。

四、組合貸付 個々ニ觀レバ到底資産信用ノ薄弱ナルモノニ於テモ、相寄りテ一團ヲナシ互ニ保證シ合フニ於テハ、單ニ資産ノ合計額ノ大トナルノミナラズ、互ニ德義ヲ守リ、相牽制シテ比較的確實トナル、其内、

イ、手形組合 ハ會テ朝鮮ニ於テ行ハレ、手形發行ニ付テ、一團ヲ組織スルモノ。  
ロ、信用組合 假令法人ヲ組織セザルマデモ、昔ノ五人組ノ如ク、或一團ヲ組織スルカ或ハ法令ニ基ク信用組合ヲ組織シテ、其ト普通銀行或ハ農工銀行トノ間ニ連絡ヲトルコト。

以上ノ外他ニ方法ナキニ非ルベシト雖、此等ノ融通方法ヲ採ラシムルニ必要ナルモノハ、小商工業者ト銀行トノ間ニ立ツ仲介者トス、信託業者ハ職分ノ一トシテ、此等ノ仲介ヲナスヲ惜マザルベシト雖モ、現時ニ於テハ全ク此等ノ機關ヲ缺如セルハ遺憾トスル所ナリ。

## 其二 賴母子講及無盡會社

賴母子講ハ組織ノ簡便ナルト、加入者ガ當然融通ヲ受クルコトトハ會員ノ氣受克キ一因ニシテ、債務ノ償却



賦拂法ニ依ルト、利子ノ比較的低廉ナルトハ、債務者ノ苦痛ヲ輕カラシムルモノアリ。隨テ資産ニ乏シキ小商工業者ニトリテハ、適當ナル資金融通方法ト云フベシ、賴母子講ガ人ノ射倖心ヲ挑發スルヲ非難スルモノアレドモ、其偶發的分子ハ單ニ借入ノ遲速ヨリ生ズル利子ノ多少ト、抽籤ニ依ル分配金ノ多少トノミ、之ヲ富籤ノ如ク全然偶發的分子ヲ以テ成レルモノニ比スレバ、決シテ同日ノ論ニアラザルナリ。人誰レカ射倖心ナカラン、之ヲ挑發スルモノヲ利用シテ、社會ニ害毒ヲ醸スコトナクンバ敢テ排スベキニ非ズ。賴母子講ノ如キハ下級者ノ貯蓄心ヲ獎勵スルト同時ニ、相互融通ノ途ヲ開クモノニシテ、寧ロ善用シタルモノト云フベシ。唯其融通ガ月一回又ハ二回ト云フガ如ク一定ノ期日ニ限ラレ、而カモ會員ハ長日月ノ間ニ僅ニ一回ノ融通ヲ受クルニ止ルヲ以テ、融通機關トシテハ其方法餘リニ活用ニ乏シキ憾アリ、且ツ何レモ舊來ノ慣習ニ依賴シテ講則甚ダ不備ナルモノ多キ爲メニ、或ハ會員ノ脱退、拂込金ノ遲滯其他ノ事故ヲ生ズルトキ、之ニ對スル措置ニ付キ紛議ヲ醸スノ虞アルト、世話方又ハ委員ト呼ブ者ガ、金錢ノ出納、擔保品ノ保管等ニ關シ不正ノ行ハル、コトアリ、或ハ規定ノ實行上情實ノ行ハル、等弊害尠カラズ。故ニ若シ講則ノ整備、會員ノ選擇及役員ノ取締等其宜キヲ得ルニ於テハ、小商工業者ニ對スル金融機關トシテ、相當存在ヲ値スベキカ、尤モ賴母子講ハ報德社ノ如ク道德的基礎ヲ有セズ、又産業組合ノ如ク國家ノ保護指導ナク、純然タル民間ノ施設トシテ經濟上ヨリ組織セラル、モノナルヲ以テ、其基礎薄弱ニシテ秩序ヲ缺ク憾ナキ能ハザルモ、隣保共濟ハ古來ノ美風ニシテ、將來ト雖モ此風ヲ存置セシムルコトガ、小商工業者金融問題解決ノ鍵鑰ニシテ、賴母子講ノ起源亦此精神ノ發現ニ外ナラズトセバ、其弊トスル所ヲ除キ、之ヲ善用スルコトガ捷徑ニシテ且ツ望マシキコトナリ。

無盡會社ハ本質ヲ賴母子講ト同フスルモ、其組織近代的ニシテ、講會ガ其資金ヲ一ニ會員掛込金ニ限ルニ反シ、會社ハ資本並ニ積立金ヲ以テ之ヲ補ヒ、脱退者又ハ義務不履行者ノ發生ニ依テ蒙ルヘキ會員ノ損害ヲ除去スル點ニ於テ、一段ノ進歩アルヲ認ムルモ、同時ニ會社組織ナルヲ以テ、會員間ニ存スル個人的親和ノ度ヲ減ズルモノアリ。則チ賴母子講ニ於テハ、會員ノ營業上資金ノ窮迫ニ遭遇シタルトキ、自ラ講元トナリ、町内若クハ知人間ニ懇請シテ講ヲ成立セシメ、直チニ第一回ノ集金ヲ利用シ得ルガ如キ利便アルモ、無盡會社ニアリテハ、斯ル場合假令非常ノ低價ヲ以テ入札スルモ、豫メ借入ヲ確保シ難キモノアリ。又賴母子講ノ會員ハ、居常能ク相互ノ信用状態ヲ熟知セルガ故ニ、役員等ノ不正ヲ監督スルヲ得ルト雖、會社組織ニアリテハ、其當事者ハ必ズシモ土着ノモノニアラザルガ故ニ、其履歷性行等ヲ審カニセズ、爲メニ往々毒牙ニ掛ル虞ナシトセズ。現ニ當市ニ於ケル會社ノ如キ、其一二ヲ除キテハ、如何ハシキ人物ガ一時ノ流行ニ乗ジ、私腹ヲ肥スノ便宜手段トシテ設立シタルモノ多ク、會社ノ基礎極メテ薄弱ナルノミナラズ、重役ハ積立金ヲ流用シテ私利ヲ貪ルニ腐心シ、勸誘員ハ玉石ノ別ナク會員ヲ誘致シテ巨利ヲ征スルヲ競ヒ、毫モ眞面目ナル觀念ヲ以テ會社ノ經營ニ任ズルモノナカリシ爲メ、會社勃興後幾何ナラズシテ營業停止ノ悲境ニ沈淪シ、本來下層社會ニ利便ヲ與ヘ、其境遇ヲ改善スベキ機關ガ、却テ不測ノ慘禍ヲ流スニ至レリ。之レヲ要スルニ今日存在セルモノハ、何レモ試驗時代ニ屬シ、改善ヲ施スヘキ餘地多々アルガ如シト雖モ、組織其物ヨリ觀レバ從來ノ講ニ比シ、一段進歩セルモノアリ。將來内部營業方法ノ改善ニ努ムルト共ニ、社會的見地ニ基キ、或程度マデ其ノ營業ヲ羈束シテ、利益ノ壟斷不正ノ所爲ヲ防止シ、特ニ經營者ノ人物ヲ選擇シテ監督ヲ嚴重ニスルニ於テハ、小商工業者ノ貯蓄機關トシテ又融通機關トシテ、相應重要ナル位置ヲ占ムルニ至ルベキヲ信

之ヲ要スルニ賴母子講ハ、社會關係ノ單純ナリシ時代ニアリテハ、極メテ適切且ツ巧妙ナル融通法タリシナラムモ、社會關係ノ複雑ナラントスル現今ニ適用シテ、果シテ克ク其機能ヲ發揮シ得ベキヤ疑ナキ能ハズ。目下賴母子講ノ盛行スル所以ハ、必ズシモ該機關ガ社會ノ現狀ニ適當セル爲メニアラズ、寧ロ激甚ナル經濟的變動ニ伴フ影響トシテ、小商工業者ノ資金需要著シク増大セルニ際シ、之ニ應ズベキ適當ナル融通機關ヲ缺ケル爲メニ、勢ヒ之ニ依賴スルモノ多キヲ致シタルモノ、如ク、無盡會社ノ如キ亦賴母子講ノ背景トセル現代の急造物ニ過ギザルモ、會々此機運ニ乗ジタルガ爲メニ、世人ノ歡迎スル所トナリタル迄ニシテ、彼等ニ對スル監督當ヲ得ザル爲メニ、費消事件ヲ生ズルコト屢々ニシテ、不慮ノ損害ヲ蒙ルコト少ナカラザルヲ遺憾トス。サレバ設立者ノ經歷身元ヲ精査スルハ勿論、會社ノ資本金ノ最低限度ヲ定メ、貯蓄銀行ニ對スルト同様一定ノ供託ヲ強制シ、銀行類似業務以上ノ副業ヲ禁シ、適當ナル積立ヲナサシメテ、利益金ノ處分方法ヲ嚴重ニセザルベカラズ。又入札金額ノ最低額ヲ制限シ、當籤又ハ落札權ノ賣買ヲ禁シ、會社ガ取得スル手数料ノ限度ヲ定メ、無盡積立金並ニ返金積立額ヲ定ムルニ付、或程度迄會社ノ自由ヲ制限スルコトモ必要トスル所ナリ。

### 其二 信用組合

信用組合ハ之ヲ經濟上ヨリ觀レバ、相互組織ノ金融機關ニシテ、コノ點ニ於テ普通銀行ト異リ、法律上ヨリ觀レバ社團法人ニシテ、コノ點ニ於テ賴母子講ト區別セラル、更ニ信用組合ノ精神及沿革ヨリ觀ルニ、ソノ

專ラ中産者保護ノ目的ニ出デタルモノナルコト疑ヲ客レズ。而シテ其信用基礎カ資本ニアラズシテ寧ロ人格ニ存シ、所謂資本ノ結合ニ非ズシテ人格ノ結合ナル點ニ於テ、普通ノ株式會社ト性質ヲ異ニスルモノナリ。信用組合ノ目的ハ、組合員ノ貯蓄ヲ獎勵シ、且ツ組合員ニ資金ノ融通ヲナスニアリ、換言スレバ貯蓄銀行ト質屋トガ、中産者階級ニ與フル利益ヲ組合ニ與へ、且其事業ノ利潤ヲモ中産者ノ手ニ收メントスルモノニシテ、組合員ノ産業及經濟ヲ助長シ、之ニ依リテ資本家殊ニ金貸業者ノ壓迫ヲ免レシムルヲ以テ目的トスルモノナリ。而シテ其放資ハ普通銀行業者ノ最モ危険ニシテ且困難ナリトスル信用貸付ヲ主トシ、對人信用ヲ以テ中産階級及細民ニ對スル金融機關トシテ生ジタルモノナルヲ以テ、小商工業者ノ融通機關トシテハ最モ重キヲ置クベキモノトス。而シテ信用組合ノ貸付ハ極メテ單純ニシテ、唯借用證書ニ依ル信用又ハ保證貸付ノミヲ採用セルガ如シ、尤モ薄資ノ細民ニ人格信用ヲ以テスル貸付ナルガ故ニ、頗ル細心ノ注意ヲ拂フニ非レバ失敗ヲ招クベク、彼ノ【一】信用評定(産業組合法施行規則第十二條第二項)ノ如キモ、貸付ノ公平ヲ期シ、危険ヲ豫ジメ防止シ、業務執行者ノ專斷ニ流ル、ヲ防グニ必要ニシテ、組合ノ區域狹ク、組合員ハ多年一所ニ定住スルモノ多キヲ以テ、廣汎ナル大都會ニ亘ル信用調査ト異リ、甚シキ誤謬ニ陥ルコト少キモ、然カモ設立後日尙淺キ組合ニアリテハ、其評定ノ方法ニ付經驗乏シク、其貸付金ノ辨濟能力ニ對スル程度充分ニ明カナラザル爲メ、其評定ノ結果ガ徒ラニ等級ヲ別ツノミニテ、其内容捕捉スル處少キハ遺憾ナリ。サレバ伏見信用組合ニ於テハ、此弊ヲ免レントシ、評定ノ標準ヲ示シテ勤勉、節約、品行、德義、時日ノ勵行、約束ノ履行ノ六項目トシ、何レモ五點ヲ普通トシ、委員ハ其評定ニ際シ、嚴ニ名門ニ阿附スルヲ戒メ、評定ノ結果有産者却テ無産者ヨリモ其信用程度下位ニアルコトアリト聞ク、次ニ【二】用途ハ生産信用ニ屬スルモノ、

則チ組合法第一條ノ所謂「産業ニ必要ナル資金」ナラザルベカラズシテ、消費信用ハ往々回收不能ニ畢ル虞ハ、唯問題ハ舊債ノ借換ナルモ、之ハ事情ヲ精査シ適宜之ヲ差許スヲ可トス、確實ナル擔保品アレバ、資金ノ用途ハ深ク問フヲ要セザル如クニ思惟スルモノアルハ、非常ナル誤謬ニシテ、寧ロ貸付期間内ニ返済ノ目途確實ナルコトニ重キヲ置カザルベカラズ。之レ尙貸付後ニ於テモ相當監視ヲ要スル所以ニシテ、信用組合ノ定款ニ「理事ハ貸付金使用ノ實況ヲ監督シ貸付ノ目的ニ反スルモノアリト認ムルトキハ何時ニテモ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得」トアルハ宜ナリト云フベシ。

信用組合ノ貸出機關トシテノ長所ノ一ハ、其利率ノ比較的的低キ點ニアリ、地方小口金貸業者ノ貸出利率ガ概ネ一割五分前後ナルニ比シ、信用組合ノ貸出利率ハ一割前後ナリ、サレバ間接ノ効果トシテ有力ナル信用組合ノ設立セラレタル土地ニ於テハ、其地方一般ノ利率ヲ幾分低下スルノ傾向アルハ之レヲ否ムベカラズ。乍然組合貸付金額ハ割合多カラズ、組合ノ資金豊富ナラザル爲メニ貸溢リノ風アルヲ免レズ、稍纏リタル舊債償還ニ對シテハ、此點ヨリ躊躇スルモノ多キガ如シ。然リト雖モ農民ハ勿論、小商工業者ノ漸次疲弊シ又發展シ能ハザル所以ハ、職トシテ舊債ノ過重ナルニ在リ。サレバ信用組合ノ任務ヲ果ス上ヨリ觀ルモ、組合自身ノ信用ヲ高メ、他ヨリ容易ニ借入レヲナスニ至ルヲ期スルト共ニ、信用組合相互間ノ資金融通ノ途ヲ講シ及他ノ金融機關トノ連絡ヲ計リ、貸出資力ヲ増大ニスルコトモ努メザルベカラズ。殊ニ普通銀行或ハ農工銀行或ハ郵便貯金トノ關係ヲ改善スルコトハ目下ノ急務ト信ズ。

之ヲ要スルニ信用組合ノ成績ヲ擧ゲンニハ、組合員一地ニ定住シ、相互ノ信用、性格、生活狀態等ヲ審カニシ、各向上ヲ期シ自ラ重ンズル處ナカルベカラズ。然ルニ現時ノ小商工業者ハ無資産ナルノミナラズ、智識、

道德極メテ低ク、組合ノ主義ヲ解スル能ハズ、又轉々居住ヲ移スコト頗ル容易ニシテ、同業者間ノ懇親ヲ缺キ、名譽義務ノ觀念乏シク、生レ乍ラニシテ小商工業者ノ素質ヲ有スルモノ、如ク、之ヲ向上發展セシムルハ至難ノ業ト云フベシ。之ニ反シ農業者ハ性質純朴ニシテ、且組合ハ同村同郷ノセノニヨリテ組織セラル、ヲ以テ、違約者ハ近隣知己ノ者ニ指彈セラレ、遂ニハ一家ノ不幸ヲ招致スルノ虞アリ、比較的組合ノ規約ヲ嚴守スルヲ以テ、産業組合ハ農村ノミ獨リ發達スベクシテ、市街ニ於テハ到底期待シ得ベカラザルモノ、如ク思惟セラル、モ、コレ果シテ組合制度自身ガ市街地ニ適セザルニ依ルカ、將又其運用ノ十分ナラザルニ依ルカ、我名古屋信用組合ガ非常ノ好成绩ヲ擧ゲツ、アルニ觀レバ、制度ノ致ス處ヨリハ經營監督者ニ其人ヲ得ルト得ザルトニ歸因スルニ非ルカ。

以上述ブルガ如ク、小商工業者融通機關解決ノ鍵鑰ハ、古來隣保共濟ノ美風ヲ存續セシメテ、更ニ相互主義ニ基ケル公益機關ノ設置活動ニアルガ如ク、獨逸其他ニ於ケル信用組合又ハ庶民銀行ノ隆盛、之ヲ證シテ餘リアリト云フベシ。我邦ニ於テモ獨逸ノ制度ヲ移植シテ信用組合ヲ設立シ、村落農業地ニ於テハ、既ニ相應ノ發達ヲ示セルニ拘ラズ、都會地ニ於テハ之ガ發達ヲ見ザル所以ハ、現今ノ産業組合法及組合ノ經營方法ガ固着的地方農民ノ爲メニ便ニシテ、移動的都會地商工業者ニ不便ナルガ爲メナラザランカ、サレバ組合法ノ改善ヲ期スルト共ニ、組合資金ヲシテ豊富ナラシメザルベカラズ、組合資金ガ主トシテ貯金ヨリ成リ、而カモ其金額大ナラズ、其組合聯合會ニヨリ相互融通過不足相補ノ關係確立完備セザル間ハ、組合ノ貸付期限ノ短期ナルコト亦已ムヲ得ズト雖モ、場合ニヨリテハ講會及貯金會社ノ方針ヲ參酌シテ、月賦濟崩ノ返済方法ヲ認メ、以テ貸付期限ヲ延長シ得ル場合モ少カラザルベシ。尙貸付期限ヲ延長セントスレバ、一面ニハ是非

共貯金高ノ増大及聯合會ノ完成ト共ニ、農工銀行等ヨリ長期ノ資金ヲ獲得セザルベカラズ、組合自身ノ安固ト信用トヲ高ムルガ爲メ、外部ヨリ資金ノ借入ヲナスト同時ニ、可成組合員ノ貯金ヲ大ニスルヲ要シ、且ツ收益ノ大部分ヲ積立テ置クノ必要アル以上ハ、組合ノ貸出利息モ固ヨリ理想的ニ低利ナルヲ得ズト雖、公益ヲ主トセル機關トシテハ、利益多キニ過グルノ嫌アルヲ以テ、一方ニ貸付金用途ノ監視ヲ嚴ニシ、資金利用ノ性質ヲ吟味シテ、最モ有効ナル方面ニ融通スルコトニ留意セザルベカラズ。

(大正六年三月六日委員會ニ於テ決定)

大正六年四月一日印刷  
大正六年四月五日發行

(非賣品)

發行兼編輯者

名古屋市中區榮町七丁目九番地  
增本敏三郎

印刷者

名古屋市西區伊倉町二丁目二十番地  
山田良弼

印刷所

名古屋市西區伊倉町二丁目二十番地  
一誠社

發行所

名古屋經濟會



終

